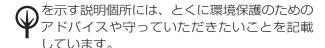
M-CLASS
取扱説明書

Mercedes-Benz

環境保護について

ダイムラー・クライスラー社では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のためにお車をお使いになるときは以下の点にご協力ください。

◇タイヤの空気圧が適正であることを確かめてください。
◇停車したままの暖機運転は必要ありません。
◇急発進や急加速は避けてください。
◇エンジン回転数がその車の許容限度の2/3（許容限度が6,000回転のときは約4,000回転）を超えないように運転してください。
◇不必要な荷物は載せたまま放置しないでください。
◇スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
◇長時間の停車時は、エンジンを止めてください。
◇エアコンディショナーの温度設定は控えめにし、冬季には、エンジンを止めたあとでも余熱ヒーターにより車内を暖房することができます。
◇指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。

を示す説明個所には、とくに環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことを記載しています。

「取扱説明書」や「整備手帳」は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
この車を次のオーナーに譲るときは、車と共にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。

ユーザーのみなさまへ

このたびは、メルセデス・ベンツをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
ユーザーのみなさまにとって、お買い上げいただいたメルセデス・ベンツでのドライブが、この上なく安全で楽しく快適なものになることを願っております。

この取扱説明書では、この車の取り扱い方法をはじめ、機能、特長を充分に発揮させて運転を最大限に楽しめるような情報や、ユーザーだけでなく同乗者も含め、危険な状況を回避する情報、車の手入れや万一のときの処置などを記載しております。ご使用前に、この取扱説明書を必ずお読みください。

◇お買い上げいただいた車の装備や仕様の違いなどにより、一部の記載事項やイラストが異なることがあります。また、外観形状や装備品、操作方法などを予告なく変更することがあります。
◇この取扱説明書は作成時点での最新情報に基づいておりますが、作成後の変更部分については記載内容と異なることがありますので、あらかじめご了承ください。
◇この取扱説明書や車についてのご不明な点は、お買い上げの販売店、または指定サービス工場にお気軽にお問い合わせください。
◇「取扱説明書」や「整備手帳」は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
◇この車を次のオーナーに譲るときは、車と共にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
◇この車を他の人に貸し出すときは、必ずこの取扱説明書を読んでもらうようにしてください。また、お客さまが加入している任意保険などについても説明してください。
◇オーディオについては、別冊の取扱説明書をお読みください。

ダイムラー・クライスラー日本株式会社

この取扱説明書について

この取扱説明書は車の取り扱いや手入れ方法、万一のときの処置などの必要事項を説明しています。車を運転する前に、必ずお読みください。
とくに、下記の「警告」「注意」「知識」については、車を取り扱うときに大切なことがらを記載しています。

⚠ 警　告

重大事故や命にかかわる重大なけがを未然に防ぐため、必ず守っていただきたいこと。

注　意！

けがや事故、車を取り扱うときの車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいこと。

知　識

知っておくと便利なこと。知っておいていただきたいこと。

表記や記載方法について

◇オプション装備や仕様などにより異なる装備には、該当部分に「＊」で示しています。
◇巻末にさくいんを用意しましたので、お読みになりたい項目を直接探すときにご利用ください。
◇本文中で関連することがらを記載しているページには、（xx-xxページ）とページ番号を示していますので該当説明とあわせてお読みください。
◇操作手順などは、文頭に番号を表記しています。

目　次

イラスト目次

1. 安全なドライブのために

2. 安全装備

3. 運転するまえに

4. 運転するとき

5. 快適・室内装備

目　次

6. 万一のとき

7. 車との上手な付きあいかた

8. 点検と整備・サービスデータ

9. こんなときは

10. さくいん

イラスト目次（外観）

＊：仕様などにより装備が異なります

装備、仕様の違いにより、スイッチなどの位置が違うことがあります。

＊：仕様などにより装備が異なります

装備、仕様の違いにより、スイッチなどの位置が違うことがあります。

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
OVM04023

＊：仕様などにより装備が異なります

ラゲッジルーム

1 ラゲッジルームカバー・・・・・・・3-31ページ
2 救急セット ・・・・・・・・・・・・・・6-4ページ
3 ロックノブ、テールゲートレバー・3-19ページ
4 停止表示板 ・・・・・・・・・・・・・・6-4ページ
5 ラゲッジルームランプ ・・・・・・・5-13ページ
6 小物入れ、ジャッキ、工具・5-21、6-12ページ
CDオートチェンジャー（別冊の取扱説明書を参照してください）
7 荷物固定用リング ・・・・・・・・・・3-33ページ
8 分割可倒式リアシート・・・・・・・・・3-9ページ
9 セーフティネット ・・・・・・・・・・3-29ページ

エンジンルーム

1 ウォッシャー液リザーブタンク・・8-14ページ
2 ヒューズボックス・・・・・・・・・6-25ページ
3 エンジンオイルレベルゲージ ・・・・8-8ページ
4 エンジンオイル
フィラーキャップ（補給口）・・・・・8-8ページ
5 冷却水リザーブタンク ・・・・・・・8-6ページ
6 ブレーキ液リザーブタンク・・・・・8-12ページ
7 バッテリー・・・・・・・・・・・・・・6-20ページ

1. 安全なドライブのために

走行する前に

点検と整備を忘れずに

日常点検や定期点検は使用者自身の責任において、実施することが法律で義務づけられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

日ごろの状態と違うとき

エンジンをかけたとき、いつもと違う音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、回転音や作動音などが聞こえることがあります。とくに、周囲が静かなときに気づきますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や損傷などがないことを点検してください。タイヤの空気圧が低いままで走行したり、き裂があるなどの異常な状態で走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど事故を起こすおそれがあります。また、タイヤの溝の深さや異常な磨耗などがないか点検してください。

シートベルトは必ず着用

走行開始前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

運転席足元に注意

◇運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に異物が入ると、ペダルを操作できなくなり、危険です。

◇フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合った物を使わないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあり危険です。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンをかけたままにしないでください。排気ガスに含まれている一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。一酸化炭素は、無色無臭のため気がつかないうちに吸い込むことがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。
ただし、エンジン回転数を低く保ち、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

燃料の給油

◇燃料は必ず無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリンを給油したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
◇指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷等によりエンジンが故障したり、火災が発生するおそれがあります。
◇指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）や添加剤などを使用して、故障が発生した場合は保証の適用外となりますので、ご了承ください。
◇目的地まで余裕をもって走行できる充分な量を給油してください。

セルフ式ガソリンスタンドでの給油

セルフ式ガソリンスタンドを利用するときは、上記の「燃料の給油」と併わせて以下の項目を守り、安全に十分注意して作業を行ってください。
◇燃料を給油するときは、すべてのドア、テールゲート、スライディングルーフ、ウィンドウを閉じてください。
◇身体に静電気を帯びている場合、放電による火花で燃料や蒸気（気化した燃料）に引火し、火傷をするおそれがあります。

- 燃料キャップを開ける前に車体または給油機などの金属部分に触れて、身体の静電気を除去してください。
- 燃料給油フラップや燃料キャップを開けるなどの給油作業は、必ず一人で行ってください。複数で作業すると静電気が除去できない場合があります。また、給油口付近に他の人を近づけないでください。
- 給油中に車内に戻り、シートに座らないでください。シートに座ると再び静電気を帯びることがあります。

◇必ず燃料キャップのツマミ部分を持ち、少しゆるめて燃料タンク内の圧力を抜いてください。気温が高い時などに、急激に燃料キャップを開けると燃料タンク内の圧力が上がって燃料給油口から燃料が吹き返すおそれがあります。また、燃料キャップから蒸気（気化した燃料）が出ていたり、シューという音が聞こえる時は、音が止むのを待ってから燃料キャップをゆっくり開けてください。
◇ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を必ず守ってください。
◇給油ノズルが最初に自動停止した時点で給油を停止してください。燃料を入れすぎるとエンジンが不調になったり、停止することがあります。
◇給油後は燃料キャップを時計回りにロック音が鳴るまで回し、確実に閉まっていることを確認してください。

◇燃料キャップは、必ず純正部品を使用してください。
◇誤って燃料を車体にこぼしてしまったときは塗装面を損傷するおそれがあるため、すぐに拭き取ってください。

荷物を積むとき

◇荷物はできるだけラゲッジルームに積み込んでください。
◇車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。固定できていないと、緊急ブレーキ時に荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
◇ラゲッジルームカバーの上に荷物を置かないでください。緊急ブレーキ時などに荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。
◇鋭い角のある物は、角の部分に必ずカバーをしてください。
◇荷物をシートのバックレストより高く積み上げないでください。

燃える物は積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

◇子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確かめてください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。

◇乳児や子供を抱いたり、ひざの上に乗せて走行しないでください。緊急ブレーキのとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6歳未満の子供にはチャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務づけられています。
詳しくは2-13ページをご覧ください。

子供はリアシートに

◇子供はできるだけリアシートに乗せてください。助手席では子供の動きが気になったり、子供が運転装置をさわったり、運転の妨げになることがあります。
詳しくは2-13ページをご覧ください。

◇チャイルドセーフティシートは、できるだけリアシートに装着してください。やむを得ず、助手席に装着するときは車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートを最後部に移動してください。

◇子供を助手席に座らせるときは、シートを最後部に移動し、正しく座らせてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受け、けがをするおそれがあります。

子供には操作させない

◇ドアやウィンドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、手や頭などを挟んだり、けがをするおそれがあります。

◇子供をリアシートに乗せるときは、リアドアのチャイルドプルーフロック（3-16ページ）やリアウィンドウのセーフティスイッチ（3-21ページ）を活用してください。

ウィンドウやスライディングルーフから顔や手を出さない

子供がウィンドウやスライディングルーフの開口部から手や頭を出さないように気をつけてください。思わぬけがのおそれがあり、危険です。

車から離れるとき

ごく短時間でも車から離れるときはキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になることがあります。炎天下では車内が高温になり、熱射病や脱水症状を起こすおそれがあります。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

◇発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッション、駆動系統を損傷するおそれがあります。

◇車間距離を充分に確保し、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングを確実に握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドランプを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがあるので充分注意してください。トンネルを出たあとは、ヘッドランプの消し忘れに注意してください。

エンジンブレーキの活用

下り坂が続くときは、エンジンブレーキを活用してください。ブレーキペダルを長時間踏み続けると、ブレーキディスクが過熱してブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

エンジンブレーキ：

走行中アクセルペダルを戻したとき、エンジン回転の抵抗により減速する現象をエンジンブレーキといいます。低速ギアになるほど強く効きます。

自動車電話、携帯電話

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。ハンズフリー機能を利用しても、注意力が散漫になり事故の原因になるおそれがあります。

安全な場所に駐車してから使用してください。

滑りやすい路面

滑りやすい路面で、シフトダウン操作による過度のエンジンブレーキは使用しないでください。

水たまりの通過後

水たまりの通過後や洗車直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏み込んでください。

スタック（立ち往生）したとき

◇ぬかるみなどでタイヤが空転したり脱輪した状態から脱出するときは、周囲の安全を充分に確認してください。脱出直後に車が突然動きだし、事故を起こすおそれがあります。また、このような脱出時にタイヤを高速で空転させないでください。高速で空転させると異常な過熱が起こりタイヤが破裂したり、火災など思わぬ事故が起きたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

◇スタックした状態からの脱出時は、タイヤ前後の土や雪などを取り除いたり、タイヤの下に板や石などをあてがうと効果的です。

道路冠水や車が水没したとき

◇豪雨などで道路が冠水したり、マフラーに水が入るような状態では決してエンジンを始動しないでください。また、車が水没し、水が引いたあとでもエンジンを始動せずに、指定サービス工場に連絡してください。

◇排気管から水が入った状態や、水没後にそのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。

4輪駆動車の特性

◇2輪駆動車に比べて、滑りやすい路面や悪路・急勾配での走行性能がすぐれていますが、万能車ではありません。

◇アクセルペダルやステアリング、ブレーキペダルの操作は2輪駆動車と同様に慎重に行い、常に安全運転を心がけてください。

走行中、異常を感じたら

警告灯が点灯したとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯が消灯しないときは、指定サービス工場に連絡してください。警告灯が点灯したまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下側に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディ下側を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確かめてください。漏れやボディ下側に損傷を見つけたときは、運転を中止して指定サービス工場に連絡してください。放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にパンクやタイヤが破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失うおそれがあります。また、パンクしたタイヤで走行を続けると、タイヤが異常に過熱し、火災が発生するおそれがあります。

駐停車するとき

駐車するときの注意事項

◇床下のマフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
◇同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確かめてください。
◇見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。路上駐車するときは後続車によくわかるような場所に、駐停車してください。
◇セレクターレバーを **P** の位置にしても車を確実に止めることはできません。必ず駐車ブレーキを確実に効かせてください。

雪が降っているときは

車の周囲が雪で覆われているときは、雪を取り除いてからエンジンを始動してください。積雪により、排気口がふさがれて排気ガスが車内に入ってくるおそれがあり、危険です。

急な坂道では

◇急な坂道で駐車するときは、セレクターレバーを **P** に入れ、駐車ブレーキを確実に効かせてください。さらに、適当な大きさの木片、石などをタイヤにあてがって輪止めをしてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを止めてください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしてアクセルペダルを踏み込むと車が動き出し、事故を起こすおそれがあります。またアクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災が発生するおそれがあります。

後退するとき

後方視界が充分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確かめてください。

炎天下に駐車するとき

◇炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどに触れると、場合によっては火傷をするおそれがあります。
◇炎天下に駐車するときは、フロントウィンドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
◇炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

◇服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだあとは絶対に運転しないでください。

◇ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。

◇ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。

◇ウィンドウに透明な吸盤を貼り付けないでください。透明な吸盤がレンズの働きをし、火災が発生するおそれがあります。

◇ガソリンやオイルの添加剤などは一切使用しないでください。

ナビゲーションシステムは走行中に操作しない

ナビゲーションシステムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に画面を見るときは、必要最小限（約1秒以内）にとどめてください。

違法改造はしない

◇違法改造はしないでください。違法改造や純正部品以外の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故を起こすおそれがあります。
定期交換部品などは純正品だけを、燃料や油脂類などは指定品または承認品を使用してください。

◇無線機や、オーディオなどの電装品や電気アクセサリーを取り付けたり取り外すときは、指定サービス工場にお問い合わせください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地や山間部、路面状態の悪い道路、トレーラーのけん引などのきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、オイル、フィルター類の点検整備や交換を定期的な交換時期よりも早く行うことが必要になります。詳しくは指定サービス工場にお問い合わせください。

防錆保護ワックス

新車時の高速走行後など、エンジンルームからわずかに白煙が出たり、独特の臭いがすることがあります。これは海上輸送時用の防錆保護ワックスが加熱されて発生するもので、故障や異常ではありません。走行距離が増すと、臭いはなくなります。

オートマチック車の取り扱い

運転する前にオートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。「オートマチック車の運転」（4-9ページ）もあわせてお読みください。

オートマチック車の特性

クリープ現象

エンジンが回転しているとき、セレクターレバーが P 、 N 以外の位置に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくりと動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低速ギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。
これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

◇ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
◇必ずブレーキペダルを踏み込み、踏みしろの量や踏み込んだときにペダルが一定のところで止まることを確かめてください。

エンジンの始動

セレクターレバーが P の位置であることを確かめ、ブレーキペダルを確実に踏みながらエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

発進

◇エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確かめてください。
◇セレクターレバーを走行位置 D 、 R に入れるときは、必ずブレーキペダルを確実に踏み込んでください。
◇アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
◇急な上り坂で発進するときは、駐車ブレーキを効かせたままアクセルペダルを静かに踏み込み、車がわずかに動き出すのを確かめてから駐車ブレーキを解除して発進してください。

走行中

◇走行中はセレクターレバーを N の位置に入れないでください。エンジンブレーキ（1-6ページ）がまったく効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
◇走行中にエンジンを止めないでください。ブレーキの倍力装置やパワーステアリング装置が作動せず、ブレーキやステアリングの操作時に非常に大きな力が必要になります。また、エンジンブレーキも作用しません。

◇走行中は、どんな場合でもエンジンを停止しないでください。エンジンが停止しているとBASなどの装置が作動しません。
◇滑りやすい路面で過度のエンジンブレーキ（1-6ページ）を効かせないでください。タイヤがスリップして車のコントロールを失い事故を起こすおそれがあります。適切にシフトダウンして速度に応じたエンジンブレーキを利用してください。

停車

◇停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、セレクターレバーが走行位置に入ると車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
◇急な上り坂での停車時は、後退しようとする車をアクセルペダルを踏み込んで停止状態を保たないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。
◇停車中は、クリープ現象で車が前に進まないように、ブレーキペダルを確実に踏んでください。
◇車が止まる前に、セレクターレバーを **P** の位置に入れないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。

駐車

◇駐車時や車から離れるときは、必ずセレクターレバーを **P** の位置に入れ、駐車ブレーキを確実に効かせてエンジンを止めてください。セレクターレバーが **N** の位置でエンジンを始動したときに誤ってセレクターに触れると車が急発進するおそれがあります。
◇後退した後は、すぐにセレクターレバーを **P** か **N** の位置に戻すように心がけてください。**R** の位置に入っていることを忘れてアクセルペダルを踏み込み、車が後退して思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

慣らし運転

新車時は、エンジンや駆動系統などの機械部分がなじむまで「慣らし運転」をおすすめします。
新車時から1,500kmまでを慣らし運転することで、安定した性能を維持することができます。

最初の1,500km

◇エンジン回転数がその車の許容限度回転数の2/3を超えないように運転してください（たとえば、許容限度回転数が6,000回転のときは、4,000回転以下）。
◇他車をけん引したり、アクセルペダルを全開にするなど、エンジンに大きな負担がかかる運転は避けてください。
◇いつも一定のエンジン回転数で走行せず、急加速などの大きな負荷を避けながら、いろいろな、回転数や速度で走行してください。
◇安全に支障がない限り、キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
◇ティップシフト3、2、1は、山道などを低速で走行するときだけ使用してください。

1,500km以降

走行距離が1,500kmを超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

知　識

エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後は、慣らし運転を行なってください。

2. 安全装備

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢になるように上記の点に注意してシートを調整してください。

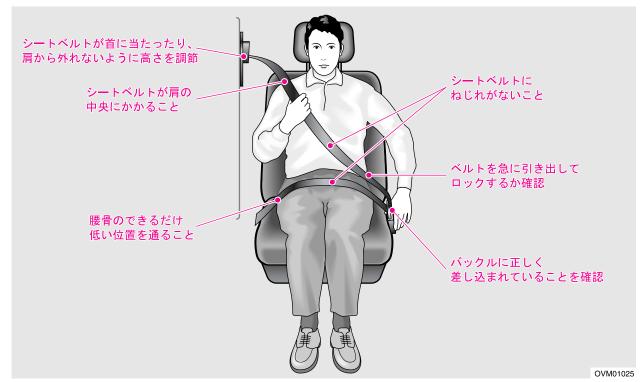
⚠ 警　告

- ●必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。運転中に調整すると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- ●シートのバックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- ●シートのバックレストを大きく傾けた状態で走行しないでください。事故のとき身体がシートベルトの下を抜けて、ベルトが腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

注　意！

- ◆シートを調整しているときは、シートの下や周囲に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。
- ◆シートの一部が人や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。
- ◆電動式シートは、ドアが開いているときに誤ってドアのシート調整スイッチに触れるとシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

シートベルト

シートベルトは、万一の衝突時などに乗員が受けるけがの被害を最小にする乗員保護装置であり、緊急ブレーキや衝撃などを感知するとシートベルトをロックして乗員がシートから放り出されないように拘束します。
シートベルトの効果を充分に発揮させるためには、走行前に正しく着用し、正しく取り扱うことが必要です。
以下の点に注意して正しく着用してください。

⚠警　告

●乗車する全員がシートベルトを着用してください。シートベルトを着用していないと、緊急ブレーキ時や衝突時などに頭や身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。

●シートベルトの効果が充分発揮できるように、以下の点に注意して正しく着用してください。

- シートに深く腰かけ、バックレストを大きく傾けないでください。
- 肩を通るベルトを脇の下に通さないでください。上体を固定できず、頭や首、肋骨や腹部に衝撃を受けます。
- 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。腹部にかけると衝突したときなど腹部が強く圧迫されます。
- ねじれたまま、着用しないでください。衝撃を分散できなくなります。
- 1本のシートベルトを2人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟まないでください。
- 子供が着用するときは、着用状態を運転者が確かめてください。また、正しく着用できない体格の子供は適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。
- シートベルトクリップなどを使ってシートベルトにたるみをつけないでください。

注　意！

◆シートベルトを正しく機能させ、損傷を防ぐために以下の点に注意してください。

- ドアやシート下部の調整機構に挟んだり、鋭利な部分に当てない
- たばこの火や熱い物を近づけない
- バックル部分に異物が入らないようにする
- 着用時は胸ポケットにペンや眼鏡などを入れない
- 分解や改造などをしない

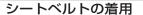
◆衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときやシートベルトが損傷したときは、指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。

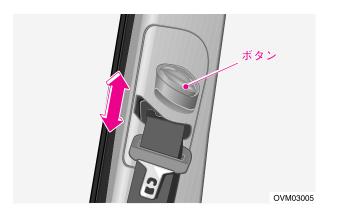
◆シートベルト着用後、ベルトを急に引き出したときロックするか確かめてください。ロックしないときは指定サービス工場でただちに点検を受けてください。

◆シートベルトは必ず純正品を使用してください。

◆妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談のうえシートベルトを着用してください。

プレート
バックル
解除ボタン
OVM03004

シートベルトの着用

① プレートを持ってシートベルトをゆっくり引き出します。シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してからゆっくり引き出します。
② シートベルトにねじれがないことを確かめ、プレートをバックルに差し込み、「カチッ」と音が聞こえるまで押し込んで接続します。
③ 腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかり、ベルトにたるみがないように身体に密着させます。
④ 肩を通るベルトが肩の部分を通ることを確かめます。
⑤ シートベルトにたるみがあるときは、少し引き出して巻き取らせます。

外すときはプレートを持ち、ロック解除ボタンを押してロックを外し、シートベルトをゆっくりと巻き取らせます。

高さ調整

シートベルトが首にかかったり、肩から外れたりしないように高さを調整します。
高さは3段階に調整できます。
上げるときはそのまま押し上げます。
下げるときはロック解除ボタンを押して下げます。
調整後は確実にロックしていることを確認してください。

注　意！

シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるので清掃するときは以下の点に注意してください。

- 強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
- 乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
- シートベルトを漂白したり、染色しない

シートベルト警告灯：
エンジンスイッチが**2**の位置のとき点灯します。エンジン始動後、数秒後に消灯します。点灯しないときは警告灯の故障が考えられます。すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。

シートベルト警告アラーム
エンジンを始動したとき運転者がシートベルトを着用していないと、数秒間警告アラームが鳴り、警告灯の点灯と共にシートベルトの着用を促します。
シートベルトを着用するとアラームは鳴りやみます。

ベルトフォースリミッター付シートベルトテンショナー
シートベルトテンショナーは前方や後方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトの効果を高める装置です。運転席、助手席、リア左右のシートベルトに装備されています。
エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき作動します。
ベルトフォースリミッターはシートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し乗員の胸にかかる力を軽減します。

⚠ 警　告

リアシートのバックルをつかんだり、バックルの下にものを置かないでください。シートベルトの効果を高める機能が低下するおそれがあります。

注　意！

◆シートベルトテンショナーが作動したときは、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。
◆シートベルトテンショナーが作動すると、シートベルトに強く締め付けられることがあります。締め付けられている状態でシートベルトを外すときは、シートベルトのプレートを確実に握ってからバックルのロック解除ボタンを押してください。シートベルトの張力により解除したプレートが跳ね返り、身体に当たってけがをするおそれがあります。
◆助手席に重い荷物などを積んでいると、衝突時などに助手席のシートベルトテンショナーが作動することがあります。
◆助手席に乗員がいなくても、シートベルトプレートがバックルに差し込まれていると衝突時などに助手席シートベルトテンショナーが作動することがあります。

知　識

◇ドアを施錠していても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ドアは自動的に解錠します。
◇未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

SRSエアバッグ

エアバッグの収納場所

■運転席エアバッグ

ステアリングのパッド部に収納されています。

■助手席エアバッグ

助手席のダッシュボードパネル部に収納されています。

■フロントサイドバッグ

左右のフロントドアの内張りに収納されています。

■リアサイドバッグ

左右のリアドアの内張りに収納されています。

■ウィンドウバッグ

フロントピラーからクォーターピラー間のルーフライニング部に収納されています。

知　識

SRSはSupplemental Restraint System（乗員保護補助装置）の略です。

安全なドライブのために
安全装備
運転するまえに
運転するとき
快適・室内装備
万一のとき
車との上手なつきあいかた
点検と整備・サービスデータ
こんなときは

エアバッグの作動
衝突時のように車が強い衝撃を受けると、収納されている袋状のクッションが瞬時にふくらんで乗員の前面や周囲にエアクッションを作り、乗員への衝撃を分散・軽減するように作動します。衝突時に身体を拘束することで乗員を保護するシートベルトの効果を補助する装置です。
衝撃を受ける状況によって、作動するエアバッグが異なります。

■運転席／助手席エアバッグ
前方からの強い衝撃を受けると作動し、乗員の頭部や胸部への衝撃を分散し軽減します。
助手席には乗員検知機能を装備しており、助手席に乗員が乗車していないと判断したときは作動しません。また、エアバッグオフ表示灯が点灯、点滅しているときは、作動しません。

■サイドバッグ
横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のサイドバッグが作動し、上体への衝撃を軽減します。

■ウィンドウバッグ
横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のウィンドウバッグが作動し、頭部などへの衝撃を軽減します。

OVM01093

SRS エアバッグシステム警告灯：
エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき点灯し数秒後に消灯します。点灯しないときは警告灯の故障が考えられます。消灯しなかったり、走行中に点灯したときはエアバッグシステムやシートベルトテンショナー、助手席の感知システムの故障が考えられます。指定サービス工場でただちに点検をうけてください。

AIRBAG OFF エアバッグオフ表示灯：
エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき点灯し数秒後に消灯します。センサー付きチャイルドセーフティシートを助手席に装着すると点灯します(2-14ページ)。この表示灯が点灯しているときは助手席のエアバッグは作動しません。

知　識

◇助手席に重い荷物などを積んでいると、衝突時などに助手席のエアバッグやサイドバッグが作動することがあります。
◇ドアを施錠しても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、自動的に解錠されます。
◇エアバッグが作動すると非常点滅灯が自動的に点滅します。

エアバッグ取り扱いの注意

⚠警　告

●エアバッグは、前方や側面からの衝撃が軽度のとき、また、後方からの衝突のときは作動しません。
●エアバッグに故障があるときは、事故などの衝撃があってもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないことがあります。また不意に作動することもあります。慎重に運転し、最寄りの指定サービス工場で点検してください。
●運転席シートは正しい位置に調整し（2-2ページ）、助手席シートはできるだけ後方に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
●エアバッグの作動を妨げたり、エアバッグが作動時に物が飛び散ってけがをすることがありますので、以下の点に注意してください。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュパネルにのせないでください。
- ウィンドウやピラー周囲にアクセサリーなどを取り付けないでください。
- アシストグリップにハンガーなど固い物、鋭利な物をかけないでください。
- ステアリングのパッド部にカバーを取り付けたり、パッド部にバッジ、ステッカー、リモコンなどを貼り付けないでください。
- エアバッグ収納部やその近くに物を置かないでください。
- 膝の上に物を抱えるなど、エアバッグと乗員との間に物を置かないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- ドアの内張りによりかからないでください。
- ダッシュパネルに足をのせないでください。
- ドアやシート側面周囲に市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。

注　意！

◆エアバッグは高温のガスによりふくらむため、火傷やすり傷､打撲などを負うおそれがあります。
◆エアバッグが作動した後は、内部の部品に手を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。
◆エアバッグが作動した後は、必ず指定サービス工場で新品と交換してください。
◆エアバッグの取り外しや取り付けを行なったり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなるおそれがあります。

知　識

◇衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、エアバッグは作動しないことがあります。
◇運転席／助手席エアバッグとサイドバッグ／ウィンドウバッグは連動して作動しません。衝撃を受ける状況によって、作動するエアバッグは異なります。
◇エアバッグは作動時に若干の煙り状のものを発生することがありますが、火災の心配はありません。
◇未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。
◇ボディの部位によって受けた衝撃を吸収する度合いが異なるので、損傷の大きさとエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

■運転席／助手席エアバッグが作動するとき

■サイドバッグ/ウィンドウバッグが作動するとき

■いずれかのエアバッグが作動することがあるとき

■運転席／助手席エアバッグが作動しないとき

■運転席／助手席エアバッグが作動しないことがあるとき

■サイドバッグ/ウィンドウバッグが作動しないことがあるとき

子供を乗せる

子供は、できるだけリアシートに乗せて大人が正しくシートベルトを着用させてください。

シートベルトは身長150cm以上の人が着用することを前提にしています。シートベルトが正しく着用できない体格の子供などは、適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。

⚠ 警　告

●シートベルトが正しく着用できない体格の子供が、そのままシートベルトを着用すると、首を締め付けたり、腹部を強く圧迫したりして致命的なけがを負うおそれがあります。

●乳児や子供を抱いたり、ひざの上に乗せて走行しないでください。万一のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

チャイルドセーフティシートは、ダイムラー・クライスラー社の純正品を使用してください。
詳しくは、指定サービス工場におたずねください。

チャイルドセーフティシート

⚠ 警　告

●チャイルドセーフティシートの使用は6歳未満の子供に法律で義務づけられています。

●6歳以上の子供でも、シートベルトが正しく着用できないときは、チャイルドセーフティシートを使用してください。

チャイルドセーフティシートの取り扱いや取り付け方法については、製品に付属している「取扱説明書」をお読みください。

ダイムラー・クライスラー社の純正チャイルドセーフティシートには、助手席に装着したときに、助手席のエアバッグの作動を停止するためのセンサーが付いたシート（ベビーセーフ、デュオ、ズーム）があります。やむを得ず助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、このセンサー付きシートを装着してください。

ダイムラー・クライスラー社の純正チャイルドセーフティシートには、以下の種類があります。子供の体重や年齢に合わせて使い分けてください。体重、年齢は選択の目安です。

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフ	10kg以下	生後9か月位まで
デュオ	9～18kg	生後8か月～4歳
ズーム	17～36kg	4歳～12歳

チャイルドセーフティシート感知システム

助手席にセンサー付きのダイムラー・クライスラー社の純正チャイルドセーフティシートを装着すると、助手席エアバッグの作動を停止するチャイルドセーフティシート感知システムが装備されています。

AIRBAG OFF **助手席エアバッグオフ表示灯（2-8ページ）：**
エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき点灯し、数秒後に消灯します。センサー付きチャイルドセーフティシートを助手席に装着すると点灯したままになり、助手席のエアバッグが作動しなくなります。

注　意！

◆センサー付きチャイルドセーフティシートを助手席に装着しても助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席エアバッグが作動します。表示灯が点灯しないときは、チャイルドセーフティシートをリアシートに取り付けてください。また、必ず指定サービス工場で点検を受けてください。
◆エンジンスイッチを**1**か**2**の位置に回しても助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときや、センサー付きチャイルドセーフティシートを装着していないのに表示灯が点灯するときは、エアバッグシステムの故障が考えられます。指定サービス工場で点検を受けてください。
◆センサー付きチャイルドセーフティシートの検知は、助手席座面とセーフティシートの間で自動的に信号の送受信が行われてセンサーの有無を判断します。助手席シート座面とセーフティシートの間に物を挟まないでください。
チャイルドセーフティシートのセンサーを感知できなくなることがあります。
◆助手席側のサイドバッグやウィンドウバッグはエアバッグオフ表示灯が点灯しているときでも作動します。

⚠ 警　告

●緊急ブレーキ時や衝突時の衝撃から子供を保護するため、以下の点に注意してください。
- 12歳以下または身長150cm以下の子供は純正チャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。チャイルドセーフティシートを使用しないと、頭や身体を車内に激しくぶつけたり、車外に放り出されて致命的なけがをするおそれがあります。
- センサー付きチャイルドセーフティシートを助手席に装着するときは、必ず助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することを確認してください。
- センサー付きでないチャイルドセーフティシートや、センサー付きであってもエアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、リアシートで使用してください。やむを得ず助手席で使用するときは、チャイルドセーフティシートを前向きで取り付け、助手席シートを最後部に動かし、助手席のエアバッグとの間隔を確保してください。助手席のエアバッグが作動すると、エアバッグによる強い衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。

●以下の点に注意し、チャイルドセーフティシートを正しく使用してください。
- 子供の体格に適合した物を使用し、確実に固定し、正しくシートベルトを着用させてください。
- 子供が正しい姿勢で座っていること、固定にゆるみがないことを確かめてください。
- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷した物は子供を保護できません。
- 使用しないときは、車から取り外すか、確実に固定してください。緊急ブレーキ時などに、チャイルドセーフティシートが放り出されて乗員がけがを負うおそれがあります。

チャイルドセーフティシート固定機構

チャイルドセーフティシートを装着するときシートベルトをロックするシステムで、左右と中央のリアシートベルトに装備されています。

固定機構を使用する

チャイルドセーフティシートを、製品に付属の取扱説明書に従って正しく装着してください。シートベルトのプレートをバックルに差し込んだ状態でベルトをいっぱいまで引き出した後、チャイルドセーフティシートが確実に固定できる位置までベルトを巻き取らせてください。

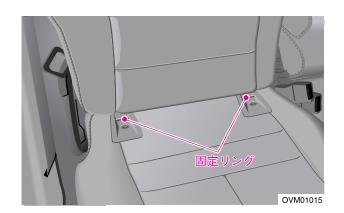
注　意！

チャイルドセーフティシートを固定後、ベルトが引き出し方向に動かないことを確認してください。

固定機構を解除する

シートベルトのプレートをバックルから外し、ベルトをすべて巻き取らせてください。

注　意！

シートベルトを着用した状態で上体を大きく動かしたときに、シートベルトがいっぱいに引き出されてチャイルドセーフティシート固定機構が作動することがあります。このときは、固定機構を解除して再度シートベルトを着用しなおしてください。

ISOFIX対応チャイルドセーフティシート固定リング
リアシートの左右に、ISOFIX対応チャイルドセーフティシート用の固定リングを装備しています。

⚠ 警　告

●この固定リングは、体重22kg以下の子供を乗せるときに使用してください。
●チャイルドセーフティシートは、必ず製品の取扱説明書の指示に従い、左右の固定リングに確実に装着してください。装着を誤ると、事故のとき、チャイルドセーフティシートが外れるおそれがあります。
●チャイルドセーフティシートやチャイルドセーフティシート固定リングが事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、新品に交換してください。

注　意！

チャイルドセーフティシートを取り付けるときは、リア中央のシートベルトを挟み込まないように注意してください。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、緊急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時に起こるタイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両の操縦を確保する装置です。

警　告

●ABSを過信しないでください。ABSは緊急ブレーキ時の車両安定性や危険回避能力を高める装備で、決して無謀な運転から事故を防ぐものではありません。ABSが適切に作動しても、車両安定性と操縦性の維持には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。

●ABSは制動距離を短くする装置ではありません。砂利道、雪道などでは、ABSを装備していない車と比べて制動距離が長くなることがあります。速度を控えめにし、車間距離を充分取って運転してください。

●ABS作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

注　意！

◆ごく軽くブレーキペダルを踏んだだけでもABSが作動するときは、路面が滑りやすくなっており、車速が速すぎることを示しています。おだやかに減速し、充分注意して走行してください。

◆ABSは速度が約8km/h以上で作動します。また、ごく低速では作動しません。

◆エンジンが回転しているとき、ABSに不具合が生じるとETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）、BASおよびESPも作動を停止し、警告灯が点灯します。いつもより慎重に運転し、指定サービス工場でただちに点検を受けてください。

ABSの作動

ブレーキの操作は普通のブレーキと同じですが、以下のような特徴があります。

◇ABSが作動するとボディが軽く振動し、ペダルに脈動が伝わってきます。これはABSが正常に作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ペダルを踏み続けてください。

◇エンジン始動後、ごく低速でブレーキペダルを踏むと、ペダルに脈動を感じることがあります。これはシステムが自己診断を行なっているためで異常ではありません。

◇バッテリの電圧が低下するとABS警告灯が点灯し、ABSの機能が一時的に解除されます。電圧が回復するとABS警告灯が消灯し、機能も元に戻ります。

◇警告灯が点灯したときはABSは作動しませんが、通常のブレーキは作動します。

ABS警告灯：

エンジンスイッチが**2**の位置のとき点灯し、エンジン始動後に消灯します。点灯しないときや点灯後に消灯しないとき、走行中に点灯したときは、ABSに異常があります。通常のブレーキ時の制動能力は確保されますが、ABSは作動しません。いつもより慎重に運転し、指定サービス工場でただちに点検を受けてください。

※表示灯／警告灯（9-9ページ）をご覧ください。

オフロードABS

オフロードABSは未舗装路、ぬかるみなどの悪路でブレーキを踏むと、フロントタイヤを強制的にロックさせ制動力を向上させるシステムです。
オフロードABSはトランスミッションをローレンジモード（4-14ページ）に切り替え、車速が30km/h以下でブレーキを強く踏むと自動的に作動します。

⚠ 警　告

- **オフロードABSの作動時は、フロントタイヤがロックするため車の操縦性に影響をおよぼすおそれがあります。慎重に運転することを心がけてください。**
- **オフロードABSは未舗装路、ぬかるみなどの悪路でのブレーキ時の制動力を高める装備で、決して無謀な運転から事故を防ぐものではありません。オフロードABSが適切に作動しても、制動力には限界があります。**

EBV

EBV（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）は、前後輪のブレーキ力の配分を自動的にコントロールするシステムです。

EBVが故障すると、エンジンがかかっているときブレーキ警告灯とABS警告灯が点灯し、警告音が鳴ります。
ブレーキペダルを踏むと後輪がロックするおそれがあります。
いつもより慎重に運転し、指定サービス工場でただちに点検を受けてください。

BAS

BAS（ブレーキアシスト）は緊急ブレーキ時のブレーキペダルを踏み込む力を補助する装置です。ブレーキ装置に取り付けられたセンサーが、運転者のブレーキペダルを踏み込む速さなどを感知して自動的に作動します。

BAS ESP **BAS／ESP警告灯：**
BAS警告灯は、ESP警告灯と共用です。エンジンスイッチが**2**の位置のとき点灯し、エンジン始動後に消灯します。点灯しないときや、点灯後に消灯しないとき、走行中に点灯したときはBASかESPに故障が考えられます。通常のブレーキ時の制動能力は確保されますが、BASは作動しません。
いつもより慎重に運転し、指定サービス工場でただちに点検を受けてください。

※表示灯／警告灯（9-8ページ）をご覧ください。

BASの作動
ブレーキペダルによるブレーキ操作は、まったく同じですが、以下のような特性があります。
◇緊急ブレーキ操作時に作動しますが、ブレーキペダルを放せば自動的に解除されます。
◇作動すると、ブレーキペダルが引き込まれ、ABS作動時の振動が伝わります。そのまま、強くペダルを踏み続けてください。

⚠ 警　告

●BASを過信しないでください。BASは緊急ブレーキ時のペダル操作を補助する装置で、カーブ、濡れた路面などでのスピードの出しすぎや充分な車間距離を保たずに走行するような無謀な運転から事故を防ぐものではありません。BASが適切に作動したとしても制動力の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
●BAS作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

注　意！

◆BASに異常が起きても、通常のブレーキペダル操作と制動能力には影響ありませんが、BASは作動しません。いつもより慎重に運転し、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。

◆エンジンが回転していないとBASは作動しません。

知　識

◇BASが作動するとブレーキペダルが少し奥へ引かれ、ペダルに脈動が伝わってくることがあります。これはABSが正常に作動しているときの現象で、異常ではありません。

◇バッテリーの電圧が低下すると警告灯が点灯し、BASが一時的に機能を停止します。電圧が回復すると警告灯が消灯し、機能も元に戻ります。

◇ABSに不具合が生じたときは、BASも作動を停止します。

ESP®

ESP(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）は、タイヤの空転や横滑りなどによって車が不安定な状態になったとき、自動的にエンジンやブレーキを制御して、車の操縦性や安定性を確保しようとするシステムです。

ESP／ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）表示灯：
エンジンスイッチが**2**の位置のとき点灯しエンジン始動後に消灯します。点灯しないときは、表示灯に故障が考えられます。
いつもより慎重に運転し、指定サービス工場でただちに点検を受けてください。

走行中に点滅するとき
発進時や走行中に、横滑りしそうなときなど、ESP／ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）が作動すると表示灯が点滅し、路面が滑りやすいことを知らせます。慎重に運転してください。

※表示灯／警告灯（9-7ページ）をご覧ください。

BAS ESP **BAS／ESP警告灯：**
ESP警告灯は、BAS警告灯と共用です。
エンジンスイッチが**2**の位置のとき点灯し、エンジン始動後に消灯します。点灯しないとき、エンジン始動後も消灯しないとき、走行中に点灯したときはESPかBASに故障が考えられます。いつもより慎重に運転し、指定サービス工場でただちに点検を受けてください。

※表示灯／警告灯（9-8ページ）をご覧ください。

警　告

●ESP表示灯が点滅しているときは、タイヤが空転しているか、車が横滑りしています。アクセルペダルを踏む力を少しゆるめて慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。
- **急ハンドル**
- **急ブレーキ**
- **急発進、急加速**
- **急激なエンジンブレーキ操作**

また、ESP OFFスイッチを操作してESPを解除しないでください。

●ESPを過信しないでください。この装置は、走行安定性や操縦性を確保するための補助装置であり、無謀な運転による事故を防ぐものではありません。ESPが適切に作動してもその能力には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
●ESP作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

注　意！

◆車の車輪を上げてけん引するときは、エンジンスイッチを**2**の位置にしないでください。ESPが作動し、接地している車輪のブレーキが作動します。
◆ESP装備車であっても雪道や凍結路などでは、スノーチェーンや冬用タイヤを装着し、速度を控えめにし、車間距離を充分取って運転してください。
◆ESPが故障すると、BAS/ESP警告灯が点灯し、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、速やかに安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

知　識

◇サイズの異なるタイヤや応急用スペアタイヤを装着すると、ESPが作動することがあります（走行中にESP／ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）表示灯が点滅したままになります）。標準サイズのタイヤに交換した後は、エンジンを再始動して表示灯を消灯させてください。消灯しないときは、指定サービス工場で点検を受けてください。
◇ABSに不具合が生じたときは、ESPも機能を停止します。
◇バッテリーあがりを起したり、バッテリーの接続が一時的に断たれた後は、エンジン始動後に、BAS/ESP警告灯が点灯することがあります。このときは以下の手順でBAS/ESP警告灯を消灯させてください。
①安全な場所に停車し、エンジンを始動します。
②ステアリングを左右どちらかに止まるまで回し、次に反対側へ止まるまで回します。
また、時計、パワーウィンドウのリセットやオーディオなども再設定が必要になります。
不明な点は、指定サービス工場におたずねください。

ESP
OFF

OVM01124

ESP OFFスイッチ

ESP OFFスイッチは、ESPの機能を解除するためのスイッチです。
深い雪や砂、砂利などの上を走行するときや、スノーチェーンを装着しているときなどは、ESPを解除したほうが走行しやすい場合があります。

ESP OFFスイッチの操作

エンジンが回転しているときにESP OFFスイッチの上側を押して機能を解除すると、メーターパネルのESP／ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）表示灯が点灯したままになります。
通常の走行条件に戻るときは、ESP OFFスイッチの下側を押してください。ESP／ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）表示灯が消灯します。

注　意！

ESP OFFスイッチでESPを解除したときは、エンジン出力の制御が行なわれなくなり、操縦性や車の安定性を高める機能は働きません。必ず路面の状況に合わせた速度で慎重に運転してください。

知　識

ESPを解除しても、いずれかの車輪が空転（スリップ）すると、駆動力が回復するようにブレーキが自動的に作動します。

オフロードESP

オフロードESPは、ぬかるみなどの悪路でアンダーステアやオーバーステアが起こり、車が不安定になると作動するオフロード専用のESPです。
オフロードESPは、トランスミッションをローレンジモード（4-14ページ）に切り替え、車速が約45km/h以下で車が不安定になると自動的に作動し、車の操縦性や安定性を確保しようとするシステムです。

ETS

ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）は滑りやすい路面のとき、車輪が空転するとブレーキを制御し、発進時や加速時の安全性を向上させるまで制御が続きます。

ETS **ETS警告灯：**
エンジンスイッチが**2**のとき点灯し、エンジン始動後に消灯します。警告灯が消灯しないときや、点灯後に消灯しないときはETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）システムの故障が考えられます。いつもより慎重に運転し、指定サービス工場でただちに点検を受けてください。

※表示灯／警告灯（9-8ページ）をご覧ください。

ESP／ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）表示灯：
エンジンスイッチが**2**のとき点灯し、エンジン始動後に消灯します。消灯しないときは、表示灯の故障が考えられます。

走行中に点滅するとき
発進時や走行中に、横滑りしそうなときなど、ESP／ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）が作動すると表示灯が点滅し、路面が滑りやすいことを知らせます。慎重に運転してください。

※表示灯／警告灯（9-7ページ）をご覧ください。

⚠ 警　告

ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）を過信しないでください。ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）は車の駆動力を確保し車両安定性や操縦性を高める装備で、決して無謀な運転から事故を防ぐものではありません。ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）が適切に作動しても、車の駆動力の確保には限界があります。

注　意！

◆サイズの異なるタイヤを装着したり、応急用スペア・タイヤを使用しているときはESP／ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）表示灯が点滅することがあります。標準タイヤと交換した後はエンジンを再始動して表示灯を消灯させてください。消灯しないときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

◆車の前輪または後輪を上げてけん引するときは、エンジンスイッチを**2**にしないでください。ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）が作動し、接地している車輪のブレーキが作動します。

◆ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）装備車であっても雪路や凍結路などの運転では、スノーチェーン、冬用タイヤを装着し、速度を控えめにし、車間距離を充分取ってください。

◆ブレーキに対する過負荷によりブレーキが過熱すると、ブレーキの保護のため、ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）が一時的に解除されます。また、このとき、ETS警告灯が点灯します。

知　識

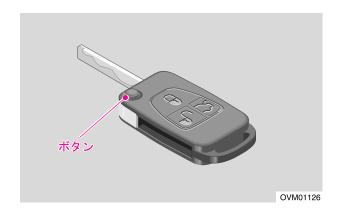
ABSに不具合が生じたときは、ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）も作動を停止します。

OVM03006

オフロードETS

ローレンジスイッチを押してローレンジモード（4-14ページ）に切り替えて走行したときは、悪路走行に適したETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）の作動に変わり、トラクション性能が向上します。

3. 運転するまえに

キー

エンジンの始動および車の解錠／施錠に使用します。リモートコントロールスイッチが付いています。
キーを出すときは、ボタンを押します。

リモートコントロールで、すべてのドア、テールゲート、燃料給油フラップを解錠／施錠することができます。

解錠

［解錠ボタン］を1回押すと、すべてのドア、テールゲート、燃料給油フラップが解錠されます。このとき非常点滅灯が1回点滅します。
ドアが解錠されても非常点滅灯が点滅しないときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

施錠

［施錠ボタン］を押すと、すべてのドア、テールゲート、燃料給油フラップが施錠されます。このとき非常点滅灯が3回点滅します。
非常点滅灯が点滅しない場合は施錠されていません。すべてのドア、テールゲート、ボンネットが確実に閉まっているか確認してください。

テールゲートオープナー

［テールゲートボタン］を押すとテールゲートのみ解錠されます。
このとき非常点滅灯が1回点滅します。

注　意！

テールゲートは、閉じるだけでは施錠されません。必ず、［施錠ボタン］を押してテールゲートを施錠してください。

警　告

キーには重いアクセサリやキーホルダをつけないでください。走行中に重みでキーが回ってエンジンが停止し、事故を起こすおそれがあります。

注　意！

◆リモートコントロールで施錠したときは、非常点滅灯が点滅することと、ドア、テールゲート、燃料給油フラップが確実に施錠され、すべてのウィンドウとスライディングルーフが閉じていることを確認してください。
◆キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、直ちに指定サービス工場に連絡してください。
◆キーを強い電磁波にさらすと、リモートコントロールに障害が発生するおそれがあります。
◆近くに送電線や発電所、放送局など電波を発信する設備のある場所ではリモートコントロールの電波の届く範囲が短くなります。確実に操作させるためには車から1m以内に近付いて操作してください。
◆キーは強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。
◆キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。
◆キーの電池が消耗するとリモートコントロールが使えなくなりますが、エンジンを始動することはできます。
◆キーには、重量のあるキーホルダをつけないでください。キーが破損するおそれがあります。
◆ドアやテールゲートを完全に閉じても正しく施錠されないときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

◇リモートコントロールで解錠したあと、約40秒以内に以下のいずれかの操作をしないと、自動的に施錠されます。
- ドアを開く
- テールゲートを開く
- エンジンスイッチを**1**か**2**にする

◇エンジンスイッチにキーを差し込み、**0**の位置にあるときは、リモートコントロールは作動しますが、いったん**1**の位置にした後は、**0**の位置に戻してもリモートコントロールは作動しません。
◇リモートコントロールで解錠できないときは、キーをドアに差し込んで解錠することができます。

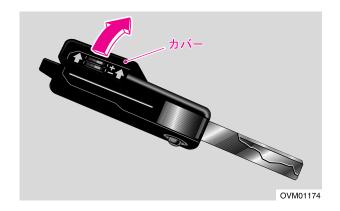
ロケイターライティング

ランプスイッチが Auto の位置にあり周囲が暗いときにリモコン操作で解錠すると、車外のランプが点灯して周囲を明るくします。点灯したランプは約40秒後に、または運転席ドアを開くと消灯します。

知　識

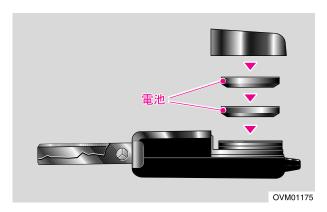
点灯するランプは、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプ、フォグランプです。

OVM01174

OVM01175

電池の交換

リモートコントロールの作動可能距離が短くなったり、 や 、 を押しても作動しない場合は電池の消耗が考えられます。指定サービス工場で点検を受けてください。

電池の交換手順

① ボタンを押してキーを出します。
② カバーを矢印の方向に開きます。
③ 電池を外し、新しい電池と交換します。電池は2個とも⊕を上にしてセットします。
④ カバーを溝の位置に合わせ、押し込んで閉じます。
⑤ リモートコントロールが正常に作動することを確認してください。
正常に作動しない場合はシステムを同期させてください。

電池の交換は指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

⚠ 警　告

電池は子供の手の届かないところに保管してください。誤って電池を飲み込むおそれがあります。もし電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

注　意！

電池は2個同時に交換してください。

知　識

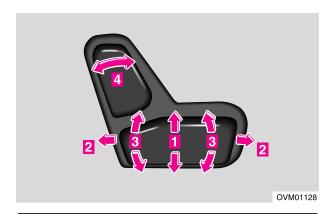
リチウム電池（CR2025）を2個使用します。

環境保護のため、使用済みの電池を廃棄するときは、新しい電池をお買い求めになった販売店で処分を依頼するか、各自治体の処分方法に従ってください。

リモートコントロールシステムの同期

電池の交換時に電池を外しておくとシステムが作動しなくなることがあります。この場合はシステムの同期をしてください。

① キーをエンジンスイッチに差し込み**2**の位置に回します。
② キーを**0**にして抜き取り、60秒以内に 🔒 を押して保持したまま、 🔓 を5回押すと同期が完了します。
③ リモートコントロール機能が正しく作動するか確認してください。
リモートコントロール機能が正しく作動しないときは、最初からやり直してください。

知　識
電池を交換した後に上記の手順でシステムの同期が行なわれないときは、指定サービス工場で同期を行なってください。

フロントシート

正しい運転姿勢（2-2ページ）を参照し、シートを調整してください。

パワーシート

エンジンスイッチが**2**のときにシート横のスイッチで調整することができます。

◇高さ調整

矢印**1**の方向にスイッチを動かしてシートの上下位置を調整します。

◇前後位置の調整

矢印**2**の方向にスイッチを動かしてシートの前後位置を調整します。

◇座面の傾き

矢印**3**の方向にスイッチを動かして座面の傾きを調整します。

◇バックレストの調整

矢印**4**の方向にスイッチを動かしてバックレストの角度を調整します。

⚠ 警　告

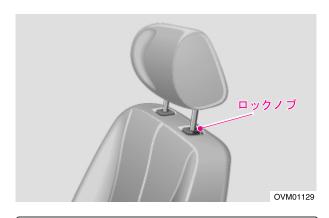
ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供が乗車している場合は一緒に降ろしてください。ドアが開いているときは、スイッチでシートを動かすことができるため、誤ってシートを動かし、けがをするおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱射病や脱水症状を起こすおそれがあります。

注　意！

◆シートの前後の調整をするときは他の乗員の身体が挟まれてけがをしないように注意してください。

◆シートの一部が人や物に当ったときは、それ以上操作しないでください。

知　識

いったんエンジンスイッチを**2**の位置にした後は、**0**か**1**の位置に戻しても、またはキーを抜いてもフロントドアを閉じていると約5分間はフロントシートの調整ができます。また、フロントドアを開くと約30分間はシートの調整ができます。

ヘッドレストの調整

高さの調整

上げるときはヘッドレストをそのまま引き上げます。
下げるときはロックノブを押してヘッドレストを下げます。

傾きの調整

手でヘッドレストを前後に動かして調整します。

> ⚠ **警　告**
>
> **乗車しているときは、必ずヘッドレストを取り付け、正しい位置に調整してください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。**

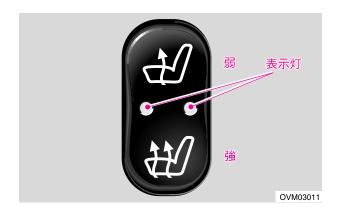
> **注　意！**
>
> ヘッドレストの中央が目の高さになっているかを確認し、必要に応じて再調整してください。

取り外すとき

① バックレストを少し後方に倒します。
② ヘッドレストを引き上げます。
③ ロックノブを押してヘッドレストを引き抜いて外します。

> **知　識**
>
> ロックノブを押せない場合は、ヘッドレストを少し引き上げてください。

取り付けるとき

ロックノブを押しながらヘッドレストを押し込みます。

シートヒーター

シートヒーター（前席）のスイッチはインストルメントパネルにあります。
スイッチで強、弱を切り替えます。
エンジンが回転しているとき作動します。
通常は弱で使用してください。

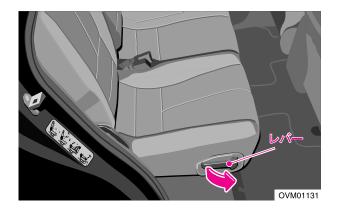
弱：スイッチの上側を押すと約20分間作動します。表示灯が1つ点灯します。
強：スイッチの下側を押すと約5分間作動し、その後弱に切り替わり約20分間作動します。強のときは表示灯が2つ点灯します。

作動を止めるときは
弱のときはスイッチの上側を、強のときはスイッチの下側を押します。

注　意！

◆シートに凸部のある重量物を置かないで下さい。ヒーターを損傷するおそれがあります。
◆コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用したり、シートヒーターを連続して使用すると、異常過熱により低温火傷（紅斑、水ぶくれ）をしたり、故障するおそれがあります。
◆以下のような方が使用するときは、熱すぎたり、低温火傷（紅斑、水ぶくれ）をするおそれがありますので、充分注意してください。
- 乳幼児、お年寄り、病人、体が不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 過労や寝不足の方
- 眠気を誘う薬を試用された方
- 飲酒した方

知　識

バッテリーの電圧が低くなると、シートヒーターは一時的に作動を停止し、表示灯が点滅します。電圧が回復すると作動を再開します。

リアシート

リアシートは分割可倒式です。シートの位置を前後に移動したり、バックレストを前方に倒すことで荷室を広くすることができます。

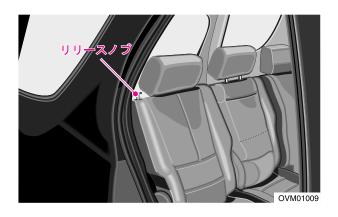
⚠警　告

- ●リアシートのアームレストに子供を乗せないでください。
- ●バックレストを倒す必要がないときは、バックレストを起こしヘッドレストを装着してください。緊急ブレーキや急ハンドルのとき、荷物が飛び出して乗員がけがをするおそれがあります。
- ●走行中はリアシートの調整をしないでください。緊急ブレーキなどでけがをするおそれがあります。

注　意！

- ◆シートをスライドさせたときには、「カチッ」という音がしてシートが確実に固定されたことを確認してください。
- ◆バックレストを倒すときは、身体を挟まないように注意してください。
- ◆乗車するときは、シートベルトが正しく着用できる位置にリアシートを調整してください。

リアシートをスライドさせるとき

レバーを矢印の方向へいっぱいに引きながらシートを前後にスライドさせてください。

バックレストを倒すとき

① リアシートのヘッドレストを外します。

② リアシートのリリースノブをいっぱいに引き、その状態を保ちながらバックレストを前方に倒します。

知　識

フロントシートに当たって完全に倒せないときは、フロントシートを前方にスライドさせてください。

バックレストを元に戻すとき

① バックレストのリリースノブをいっぱいに引いたままバックレストを起こします。

② ヘッドレストを取り付けます。

⚠ 警　告

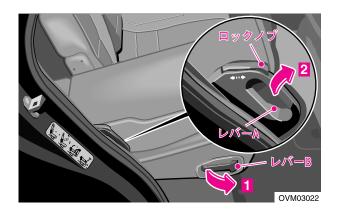
リアシートのバックレストは、倒して使用するときも、起こして使用するときも必ずロックしていることを確認してください。

注　意！

◆バックレストを倒す前にリアのカップホルダーおよび灰皿を閉じてください。

◆リリースノブの赤い部分が見えているときは、バックレストがロックされていません。ノブの赤い部分が見えなくなるまでバックレストを確実にロックしてください。

◆シートを操作するときには、シートとリアピラーとの間に手を挟まないように注意してください。

◆バックレストを元に戻すときは、シートベルトを挟まないように注意してください。

リアシートを低くするとき

① バックレストを倒します。
② レバー**B**を矢印**1**の方向に引いた状態で、ロックノブの前部を押しながらレバー**A**を矢印**2**の方向に引きます。
③ リアシートがロックされるまで下に押します。

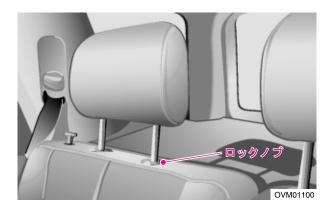
リアシートを元の高さに戻すとき

レバー**B**を矢印**1**の方向に引き、リアシートを引き上げます。

⚠ 警　告

●シートが低い位置のままで、バックレストを起こして乗車しないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
●レバーを引いたときに、レバーに指を挟まないように注意して操作してください。

注　意！

◆バックレストを倒す前にリアのカップホルダーおよび灰皿を閉じてください。
◆リアシートの前や下に物を置かないでください。シートを下げるときに、挟まれるおそれがあります。

ヘッドレストの調整

■高さの調整
上げるときはヘッドレストをそのまま引き上げます。
下げるときはロックノブを押してヘッドレストを下げます。

■傾きの調整
手でヘッドレストを前後に動かして調整します。

警　告

乗車しているときは、必ずヘッドレストを取り付け、正しい位置に調整してください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

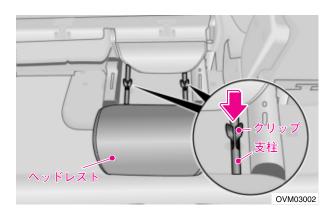
注　意！

ヘッドレストの中央が目の高さになっているか確認し、必要に応じて再調整してください。

■取り外すとき
① ヘッドレストを引き上げます。
② ロックノブを押してヘッドレストを引き抜いて外します。

知　識

ロックノブを押せない場合は、ヘッドレストを少し引き上げてください。

■取り付けるとき
ロックノブを押しながらヘッドレストを押し込みます。

⚠ 警　告

後席の中央に乗車するときは、必ずヘッドレストを取り付け、正しい位置に調整してください。事故のとき、首にけがをするおそれがあります。

ヘッドレストの収納

中央のリアヘッドレストを取り外し、リアシート下に収納することができます。
後席中央に乗員がいないときは、中央のリアヘッドレストを収納して後方視界を確保してください。

① 中央のリアヘッドレストを外します（3-12ページ）。
② スライドプレートを取り外します（3-28ページ）。
③ バックレストを倒し（3-10ページ）、リアシートを低くします（3-11ページ）。
④ リアヘッドレストを図の向きに置き、支柱部分をクリップに取り付け、確実に固定します。

ドア

⚠ 警　告

事故の原因になるおそれがありますので、ドアの開閉は以下の点に注意してください。
- **半ドアでは走行中にドアが開くおそれがあるので、確実に閉じてください。**
- **開くときは周囲の安全を確かめてください。**
- **子供には開閉させないでください。**

注　意！

◆ドアを閉じるとき、手や物を挟まないように注意してください。

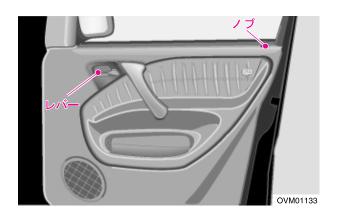
◆ドアを施錠しているときでも、ドアレバーを引くと、ドアが開きます。走行中はドアレバーに触れないでください。

■ドアの開閉

開く

車外からはドアハンドル、車内からはドアレバーを引きます。

閉じる

車外からはドアハンドルを持って、車内からはドアグリップを引いて確実に閉じます。

■ドアの解錠／施錠

リモコンキーでドアの解錠／施錠ができます。

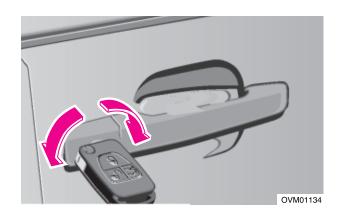
車内からは各ドアのロックノブを押し込むとドアごとに施錠できます。ロックノブが押し込まれていても、ドアレバーを引けば解錠されてドアが開きます。

車内からフロントドアを開くと、他のドア、テールゲート、燃料給油フラップも解錠されます。

知　識

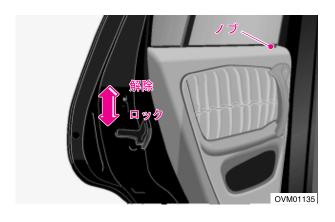
◇助手席側ドアおよびリアドアは、ドアを開いているときにロックノブを押し込んでドアを閉じると施錠されます。

◇ドアが施錠されていても、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ドアは自動的に解錠されます。

OVM01134

キーによる解錠／施錠
リモートコントロールが機能しないときは、ドアハンドルのキーシリンダにキーを差し込み、ドアを解錠／施錠することができます。

解錠：車両前方に回します。
施錠：車両後方に回します。

注　意！

◆車から離れるときは、エンジンを停止し、必ずドアを施錠してください。
◆キーでドアを解錠／施錠すると、操作したドアのみが解錠／施錠されます。他のドア、テールゲート、燃料給油フラップは連動して解錠／施錠されませんが、解錠した運転席側のドアを開くと連動して解錠されます。
◆施錠後は、すべてのロックが確実に施錠されていることを確認してください。ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアをいったん開き、再度閉じてから施錠してください。

チャイルドプルーフロック（リアドア）

車内のドアレバーを引いてもドアが開かないようにする装備です。
ドアにあるレバーを下側のロック位置にしてドアを閉じると施錠されます。
子供を乗せたときに使用してください。

⚠ 警　告

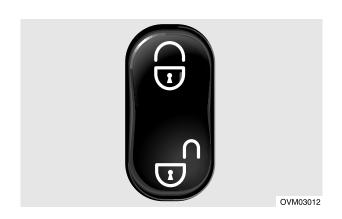
車内に子供を残して車から離れないでください。チャイルドプルーフロックを使用中でもフロントドアを開くことができ、子供や周囲に危険をおよぼす可能性があります。

注　意！

ロックノブが下がっているときは、車外からもリアドアを開くことができません。リモートコントロールまたは車内のドアレバーを引いてドアを解錠してから車外のドアハンドルで開いてください。

知　識

チャイルドプルーフロックを使用していても、ノブはリモートコントロールによる解錠／施錠に連動して上下します。

OVM03012

ドアロックスイッチ

すべてのドア、テールゲート、燃料給油フラップを解錠／施錠することができます。
スイッチの上側を押すと施錠し、下側を押すと解錠します。

⚠ 警　告

車内に子供を残して車から離れないでください。ドアのロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開き、子供や周囲に危険をおよぼす可能性があります。

注　意！

リモートコントロールでドアを施錠してあるときは、ドアロックスイッチで解錠／施錠することはできません。

知　識

ドアロックスイッチで施錠してあるとき、車内からフロントドアを開くと、他のドア、テールゲート、燃料給油フラップも解錠されます。

OVM03012

車速感応ドアロック

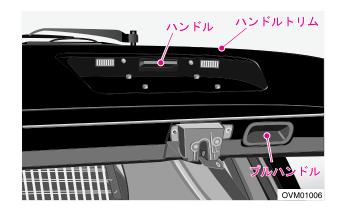
速度が約15km/h以上になると、ドア、テールゲート、燃料給油フラップを自動的に施錠する機能です。ドアロックスイッチでこの機能を設定したり解除することができます。

車速感応ドアロックの設定／解除
すべてのドアを閉じてエンジンスイッチを**2**の位置にし、ドアロックスイッチの上側を約10秒間押すと設定され、下側を約6秒間押すと解除します。

注　意！

◆車速感応ドアロックを設定した状態で、車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、エンジンスイッチを**0**の位置にしてください。タイヤが回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。
◆車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、速度がいったん約10km/h以下にならないと、再度車速感応ドアロックは作動しません。

知　識

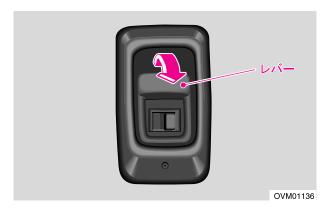
◇シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、すべてのドアロックは自動的に解錠されます。
◇この車速感応ドアロックの機能は、後退時にも作動します。

テールゲート

開くとき： 車外から開くときはハンドルを手前に引きます。車内からはテールゲート内側のレバーを手前に引きます。

知　識

ドアロックスイッチやリモコン操作で施錠しているときは、テールゲートを開くことはできません。

閉じるとき： テールゲート内側のプルハンドルに手をかけ、テールゲートを下げてからハンドルトリムを確実に押して閉じます。

⚠ 警　告

- **車内に子供を残して車から離れないでください。リアドアのチャイルドプルーフロックを使用していてもテールゲートが開き、子供や周囲に危険をおよぼす可能性があります。**
- **エンジンが回転しているときは、排気ガスが室内に入るためテールゲートを開いたままにしないでください。排気ガスに含まれている一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。**

注　意！

◆車から離れるときは、エンジンを停止させ、必ずテールゲートも施錠してください。
◆テールゲートを閉じるときは、身体や物を挟まないように注意してください。車の周りに子供がいる場合は、特に注意してください。
◆車内のレバーに手をかけてテールゲートを閉じないでください。レバーを損傷するおそれがあります。
◆テールゲートはルーフ面より高い位置まで開きます。テールゲートを開くときは、後方や上方に充分な空間があることを確認してください。
◆テールゲートのダンパの強さは気温によって変化します。必要に応じてテールゲートが停止する位置まで手で動かしてください。
◆貴重品はラゲッジルーム内に保管しないでください。

テールゲートの解錠／施錠

車外から
リモートコントロール（3-2ページ）による解錠／施錠ができます。

車内から
ドアロックスイッチ（3-17ページ）またはテールゲートの内側のノブによる解錠／施錠ができます。テールゲート内側のノブで施錠するときはノブを施錠の位置にします。解錠するときはノブを解錠の位置にします。

知　識

テールゲートを開けているときにノブを施錠の位置にしてテールゲートを閉めると施錠されます。

パワーウィンドウ

前席操作用のスイッチ**1**～**4**は、センタコンソールにあります。後席操作用のスイッチは、センタコンソールの後方にあります。エンジンスイッチが**2**の位置のときに開閉できます。

スイッチの⇩側を軽く押すと開き、⇧側を軽く押すと閉じます。手を放すとその位置で停止します。
スイッチの⇩側を強く押すと自動で全開します。
止めたいときは、スイッチを軽く押します。
スイッチの⇧側を強く押すと自動で全閉します。
止めたいときは、スイッチを軽く押します。

セーフティスイッチ**5**を○が見えるように動かすと、後席のパワーウィンドウスイッチでもウィンドウの開閉操作ができます。
セーフティスイッチ**5**を●が見えるように動かすと、後席のパワーウィンドウスイッチではウィンドウの開閉操作ができなくなります。
子供をリアシートに乗せるときに使用してください。

注　意！

パワーウィンドウを閉じるときは、けがを防ぐため以下の点に注意してください。
- 子供に操作させないでください。
- 操作時は子供の身体や異物を挟まないように周囲の安全を確かめてください。
- 短時間の降車時でもキーを抜き取ってください。

知　識

◇パワーウィンドウを自動で全閉しているときに挟み込みなどの抵抗があると、ウィンドウが直ちに停止し、その位置から少し下降します。

◇いったんエンジンスイッチを**2**の位置にした後は、**0**か**1**の位置に戻しても、またはキーを抜いてもフロントドアを閉じていると約5分間はパワーウィンドウの操作をすることができます。

ウィンドウが自動で全開／全閉しないとき

バッテリーの脱着などにより一時的に電源の接続を断った後などは、パワーウィンドウが自動で全開／全閉できなくなることがあります。このときは、スイッチを軽く押してウィンドウを全閉にし、そのままスイッチを1秒以上押し続けてください。自動全開／全閉機能が回復します。この操作を各ウィンドウで行なってください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

スライディングルーフ＊

スイッチはルーフの前部にあります。
エンジンスイッチが**2**の位置のとき作動します。

スライディングルーフの操作

ルーフを開くとき：スイッチを**1**の方向に引きます。
タッチするように引くと自動で約2/3開きます。もう一度タッチするように引くと全開になります。

ルーフを閉じるとき：スイッチを**2**の方向に押します。タッチするように押すと自動で約1/3閉じます。もう一度押すと、押している間だけ閉じます。

チルトアップするとき：スイッチを**3**の方向に押します。

チルトダウンするとき：スイッチを**4**の方向に引きます。

自動で開閉できないとき

バッテリーが上がったり、バッテリーの脱着などで電源の接続を断った後などは、スイッチを操作しても、スライディングルーフが一度に少しづつしか開かなくなります。
機能を回復させるには、スライディングルーフをチルトアップするまでスイッチを**3**の方向に押して、そのままスイッチを1秒以上押し続けてください。
詳しくは指定サービス工場におたずねください。

⚠ 警　告

走行中はスライディングルーフから身体を出さないでください。けがをするおそれがあります。

＊：仕様などにより装備が異なります

注　意！

◆スライディングルーフを操作するときは以下の点に注意してください。挟まれて重大なけがをすることがあります。
- 開口部から身体を出さないでください。
- 子供に操作させないでください。
- 操作時は子供の身体や異物を巻き込まないように周囲の安全を確かめてください。
- 短時間の降車時でもキーを抜き取ってください。

◆スライディングルーフの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。
- 開口部に腰をかけたり、荷物を載せないでください。
- 洗車時や降車時はスライディングルーフを閉じてください。
- 凍結時や積雪時は開閉しないでください。

◆スライディングルーフの開口部から、荷物の出し入れをしないでください。開口部の防水シールを損傷するおそれがあります。

◆降雨後や積雪後にスライディングルーフを開くときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。

知　識

◇スライディングルーフを開いて走行すると、走行風の影響で空気の振動を感じることがあります。これはスライディングルーフの開度を変えるか、ウィンドウを少し開けば軽減します。

◇エンジンスイッチを**2**の位置にした後は、**0**か**1**の位置に戻しても、またはキーを抜いてもフロントドアを閉じていると約5分間はスライディングルーフの操作をすることができます。

クランクレンチ
カバー
OVM04026

スイッチで操作できないとき
バッテリーあがりやスライディングルーフの故障によりスイッチでの開閉ができないときは手動で閉じることができます。
ルームランプの内側に、手動用の駆動部があります。ルームランプのカバーを外し、付属のクランクレンチを駆動部に差し込んで回します。

開いているルーフを閉じるとき
時計回りに回します。

チルトアップしているルーフを下げるとき
反時計回りに回します。

注　意！

◆クランクレンチは止まるまで奥に差し込み、操作時は片手で駆動部に押し付けるようにしながら回してください。確実に差し込まれていないと、駆動部を損傷したり、けがをしたりすることがあります。
◆クランクレンチで容易に駆動部が回せないときは、スライディングルーフのレール部分に異物のかみ込みなどが考えられます。無理に動かさずに異物を取り除くか、指定サービス工場で点検を受けてください。
◆スイッチで作動しないときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

サンシェード＊

手で開閉します。
スライディングルーフを開くと連動して開きます。
閉じるときは連動しません。

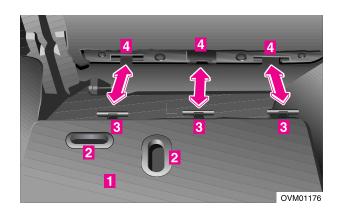
＊：仕様などにより装備が異なります

荷物用フック

ラゲッジルームには4個のフックがあります。

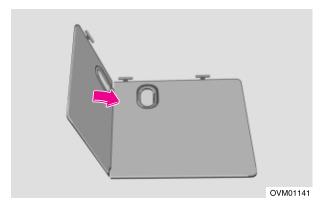
使用するとき
軽い荷物を固定したり、ストラップなどを使用してラゲッジルームに立てかけた荷物などを固定します。

注　意！

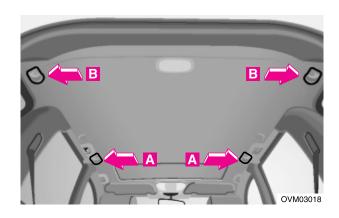
◆荷物用フックは重さ約4kg未満の荷物を固定してください。荷物用フックを損傷するおそれがあります。
◆荷物用フックと固定用リング（3-33ページ）を合わせて使用しないでください。
◆荷物用フックには均等に力がかかるようにしてください。

スライドプレート

後部座席の後ろの左右のスライドプレート**1**は取り外すことができます。

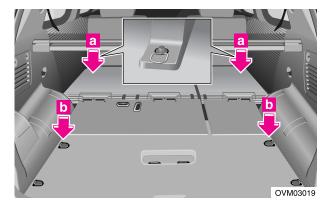
スライドプレートを取り外すとき
スライドプレートは上に持ち上げて外します。

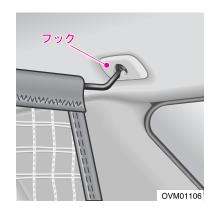
スライドプレートを取り付けるとき
2の穴開き部分を持って、ガイドピン**3**をソケット**4**の中に挿入してください。

左側のスライドプレートは折りたたむことができます。

注　意！

取り外したスライドプレートは、車から降ろすか、確実に固定してください。緊急ブレーキ時などに、放り出されて乗員がけがを負うおそれがあります。

セーフティネット

大きな荷物や多くの荷物を積んだときはセーフティネットを使用してください。
セーフティネットは、車内のルーフとフロアのそれぞれ2箇所A（ルーフ）、a（フロア）とB（ルーフ）、b（フロア）に取り付け位置があります。

・a（フロア）は、フロントシートの下部後方にあります。
・b（フロア）は、図の位置にあります。

⚠ 警　告

●セーフティネットは補助的なものです。緊急ブレーキや事故のときなどに重い荷物が飛び出すことを防ぐことはできません。重い荷物などは必ずフロアに置いて確実に固定してください。
●リアシートに人が乗車するときはB（ルーフ）、b（フロア）の位置にセーフティネットを取り付けてください。緊急ブレーキや事故のとき乗員がけがをするおそれがあります。

セーフティネットを取り付けるとき

① セーフティネットのバーの両端を押し縮めながらルーフのフックに取り付け、前方にスライドさせて固定します。

② セーフティネットのストラップのフックをフロアの固定用リングに取り付けます。

③ ネットに張りを持たせるため、ストラップを引きます。

⚠ **警　告**

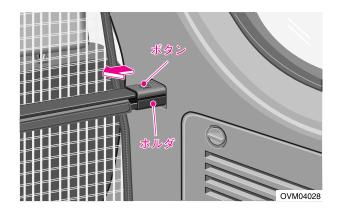
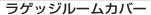
●セーフティネットは必ず張りを持たせて使用してください。走行中にセーフティネットが外れると、荷物が前方に放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。

●セーフティネットをA（ルーフ）、a（フロア）の位置に取り付けるときは、フロントシートの端部に注意してください。けがをするおそれがあります。

注　意！

◆セーフティネットが確実に固定されていることを確認してください。

◆セーフティネットをA（ルーフ）、a（フロア）の位置に取り付けたときは、リアシートの位置を低くしないでください。

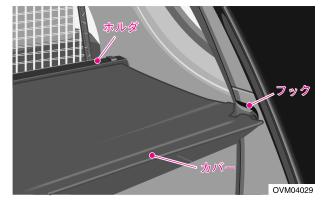
◆損傷したセーフティネットは、使用しないでください。

ラゲッジルームカバー

ホルダからカバーを引き出して、車の後部のフックに取り付けます。

ホルダを取り付けるとき

① ホルダがロックするまでホルダの右端を押し込みます。
② ホルダの左端を車の左側取り付け部に差し込みます。
③ ホルダの右端を取り付け部に合わせながら、ボタンを押して取り付けます。

ホルダを取り外すとき

① ホルダ右端を、矢印の方向にロックするまで押し込みます。
② ホルダを外します。

⚠ 警　告

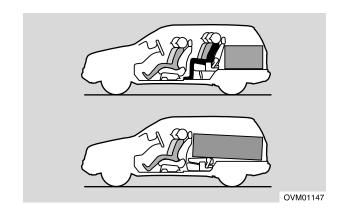
●ラゲッジルームカバーの上に物を置かないでください。緊急ブレーキや急ハンドル時などに、物が放り出されて乗員がけがをするおそれがあります。

●ホルダが確実に固定されていることを確認してください。緊急ブレーキ時などにホルダが外れ、乗員がけがをするおそれがあります。

注　意！

ホルダ右端はスライドするので、押し込んだときに手を挟まないように注意してください。

OVM01147

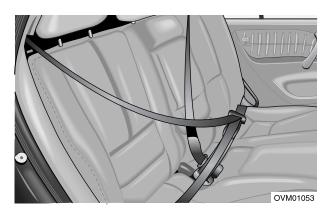
OVM01053

荷物の積みかた

荷物を積むときは

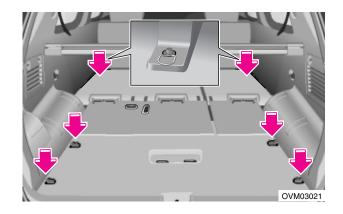
◇荷物はシートの背面に接するように積んでください。また、重い荷物はできるだけ前方に積んでください。荷物の積みかたは走行安定性に大きく影響します。

◇荷物をバックレストより高く積み上げないでください。

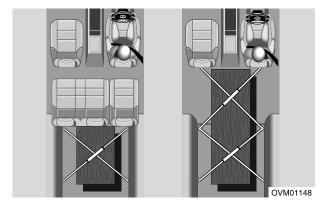
◇ウィンドウに荷物が当たらないように注意してください。ウィンドウを破損したり、リアデフォッガーの熱線を損傷するおそれがあります。

◇大きな荷物を積まないときは、リアシートのバックレストを起こし、ヘッドレストを装着してください。

◇ヘッドランプの照射角度が正しい角度を保てる範囲で荷物を積んでください。

◇緊急ブレーキや急ハンドルのとき荷物が前方に飛び出さないように、きちんと梱包して確実に固定してください。

◇リアシートに人を乗せないときは、図のように左右のシートベルトプレートを反対側のバックルに差し込んで、シートベルトが交差するようにしてください。

荷物を固定するときは

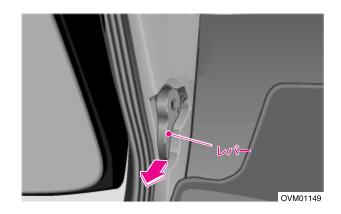
◇荷物はきちんと梱包して確実に固定してください。緊急ブレーキや急ハンドルまたは事故のとき、荷物が放り出され、乗員がけがをするおそれがあります。

◇荷物の固定には擦れに強く丈夫なロープを使用してください。ラゲッジルームに4個、フロントシートの下部後方のフロアに2個の荷物固定用リングがあります。各固定用リングに力が均等にかかるように通して結んでください。

ストラップなどで荷物を固定するときは

◇荷物固定用のストラップなどは、ダイムラー・クライスラー社の基準に合った相当品の使用をお勧めします。
- ・ストラップは、張力700kg以上、幅25mm以下の物を使用してください。
- ・伸縮性のあるロープやネットを使用しないでください。重い荷物を固定することができず、事故のとき、けがをするおそれがあります。

◇固定するロープやネットが荷物のエッジや角にかからないようにしてください。

◇鋭い角のある物は、角の部分にカバーをしてください。

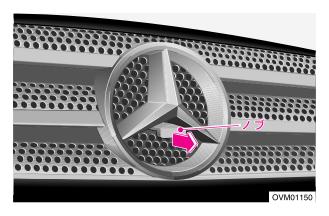
◇ストラップは、図のように荷物の上で交差するようにかけ、力が各荷物固定用リングに均等にかかるようにします。特に締め付け金具を使用する場合は、荷物固定用リングに過大な力がかからないように注意してください。

ボンネット

ボンネットを開くとき

① 室内左側のインストルメントパネル下にあるボンネットロック解除レバーを手前に引きます。

⚠ 警　告

●ボンネットから炎や煙、蒸気が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。

●車が走行しているときにボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

② ラジエターグリルのノブを片方の手で矢印の方向に引きながら、フロントグリルの下部を持ち上げてボンネットを開きます。

注　意！

◆ボンネットを開くときは、必ずフロントグリルの下部を持って開いてください。ノブを持って引き上げると、ノブが折れるおそれがあります。

◆ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。

◆ボンネットが強い風にあおられると、急に下がるおそれがあります。風の強い日にボンネットを開くときは充分に注意してください。

◆エンジンの始動中や回転中、エンジンスイッチが**2**のときは、エンジンルームに手を入れたり、イグニッションシステムに手を触れたりしないでください。手や衣類が巻き込まれたり、感電するおそれがあります。
◆エンジンを停止した後も約30秒間はラジエターファンが動き続けることがありますのでボンネットを不用意に開かないでください。

ボンネットを閉じるとき
ボンネットを引き下げ、軽く反動を付けて閉じます。完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

警　告

走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて事故を起こすおそれがあります。

注　意！

◆エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットが変形するおそれがあります。
◆ボンネットを閉じるときは、手を挟まないように注意してください。

燃料給油口

運転席側のドアが解錠されているとき、フラップが開きます。

キャップを外すとき
キャップを反時計回りに少しゆるめてタンク内の圧力を抜いてから外します。

キャップを取り付けるとき
キャップを時計回りにロック音が鳴るまで回します。

燃料タンク容量：8-20ページ

⚠ 警　告

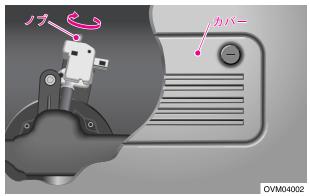
燃料は引火しやすいので取り扱いを誤ると爆発する危険があります。以下の点に注意して、事故や火災、けがを防いでください。

- **給油時はエンジンを止めてください。**
- **周囲に燃料があるときや燃料の臭いがするときは、たばこなどの火気を近づけないでください。**
- **こぼれた燃料はすべて拭き取ってください。**
- **車の周囲や車内で燃料の臭いを感じるときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。**

注　意！

◆給油中、給油ノズルが自動停止した時点で給油を止めてください。燃料を入れすぎるとエンジンが止まったり思わぬトラブルの原因になります。
◆燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料）を給油したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。

知　識

フラップの裏側に、タイヤ空気圧のデータが貼付してあります。

燃料給油フラップが開かないとき

燃料給油フラップが開かないときは、手動でロックを解錠します。

① ラゲッジルーム左側にある小物入れのカバーを外します。

② ノブを時計方向に回して燃料給油フラップを開いてください。

注　意！

カバー内部は鉄板や鋭利な部分が露出しています。保護手袋を使用するなど、けがをしないように注意してください。

ステアリング

ステアリングの角度を調整することができます。
ロックレバーを下げてロックを解除し、ステアリングを上下に動かして調整します。調整が終わったらロックレバーを元の位置に戻します。
調整後はステアリングが確実にロックされていることを確認してください。

ステアリングロック警告灯：
エンジンスイッチが**2**のとき点灯し、エンジン始動後に消灯します。点灯しないときは表示灯の故障が考えられます。エンジン始動後に点灯するときはロックレバーが固定されていません。
ロックレバーを固定し、警告灯が消灯するのを確認してから走行してください。

⚠ 警　告

●走行中はステアリングの調整をしないでください。走行中に調整すると、思わぬ方向にステアリングが動くことがあり車のコントロールを失うおそれがあります。

●ステアリングには、エアバッグを装備しています。「エアバッグ取り扱いの注意」を守ってください（2-9ページ）。

注　意！

◆エンジン回転中にステアリングを左、あるいは右にいっぱいに回した状態を長時間保たないでください。パワーステアリング装置を損傷するおそれがあります。

◆エンジンを止めたまま、けん引走行するときは、パワーステアリング装置が作動しません。「けん引してもらうとき」をお読みください。（6-7ページ）。

ドアミラー

角度調整

スイッチはセンタコンソールにあります。
エンジンスイッチが**2**の位置のとき調整できます。

① 調整したい側（左または右）のミラーボタンを押します。
② 調整スイッチを前後左右に動かしてミラーの角度を調整します。

⚠ 警　告

ミラー類は必ず走行前に、後方が充分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、車のコントロールを失うおそれがあります。

注　意！

◆ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。ドアミラーで後方を確認するときは充分注意してください。
◆ドアミラーには死角があります。車線変更をするときは、必ずルームミラーで後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

知　識

◇いったんエンジンスイッチを**2**の位置にした後は、**0**および**1**の位置に戻しても、またはキーを抜いてもフロントドアを閉じていると約5分間はドアミラーの調整をすることができます。
◇ドアミラーにはヒーターが装着されています。外気温度が下がると自動的に作動して曇りや凍結を防ぎます。

OVM04003

ミラーの格納
スイッチはセンタコンソールにあります。エンジンスイッチが**2**の位置のとき格納できます。

格納スイッチを押すと、ミラーが格納されます。

展開スイッチを押すと、ミラーが元の位置に戻ります。

注　意！

◆ドアミラーは手で格納したり、手で元に戻さないでください。ミラーを損傷するおそれがあります。
◆走行するときはドアミラーを元の位置に戻してください。
◆ドアミラーを動かしているときは、身体を挟んだり、異物が挟まったりしないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。
◆洗車機を使用するときはミラーを格納してください。ミラーを損傷するおそれがあります。
◆ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、走行者などに充分注意してください。
◆速度が約15km/h以上になるとドアミラーは格納できません。
◆ドアミラーの汚れを取るときは、研磨剤（コンパウンド）入りのガラスクリーナを使用しないでください。ミラーに細かな傷がつくおそれがあります。

知　識

◇いったんエンジンスイッチを**2**の位置にした後は、**0**および**1**の位置に戻しても、またはキーを抜いてもフロントドアを閉じていると約5分間はドアミラーの格納／展開ができます。
◇エンジンを停止して停車しているときに歩行者などが当たり、ドアミラーがわずかに曲がった場合、次にエンジンを始動し、速度が約50km/hに達すると、ドアミラーが走行時の位置に戻ります。完全に戻らないときは、スイッチで戻してください。

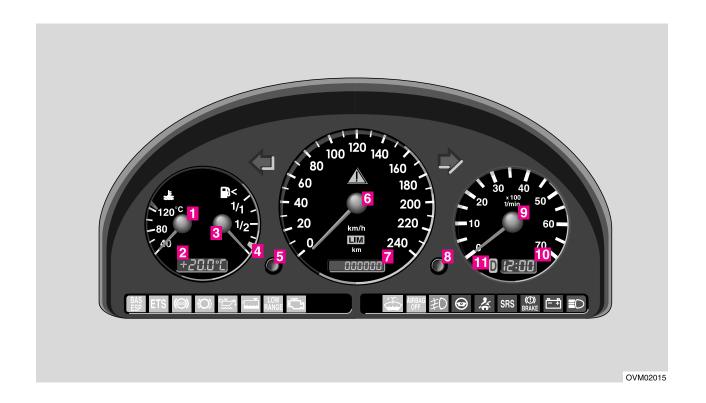
ルームミラー

ルームミラーの角度は手で調整します。
後続車のライトが眩しいときはノブを手前に引いて使用します。

⚠ 警　告

ルームミラーは必ず走行前に後方が充分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、車のコントロールを失うおそれがあります。

メーター

120
140
100
80
160
60
180
40
200
20
220
0
240
km/h
LIM
km
000000
120°C
80
40
+20.0°C
1/1
1/2
30
40
20
x 100
1/min
50
10
60
0
70
D
12:00
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
BAS ESP
ETS
ABS
LOW RANGE
AIRBAG OFF
SRS
BRAKE
OVM02015

1 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

注　意！

水温計の指針がオレンジ色の部分に入ったときは、ただちに安全な場所に停車してエンジンを冷却してください。オーバーヒートのおそれがあります。エンジン冷却の方法については6-19ページをお読みください。

2 外気温度計

路面付近の外気温度を表示します。

警　告

表示している外気温度が0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には充分注意してください。

知　識

◇外気温度の上昇や下降は、少し遅れて表示に反映されます。

◇外気温度をフロントバンパー部で測定しているため、表示温度は、路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって表示温度が実際の外気温度と異なることがあります。

3 燃料計

燃料の残量を示します。

注　意！

給油のときはエンジンを停止してください。

知　識

走行前に燃料の残量が充分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

4 燃料残量警告灯

エンジンスイッチが**2**のとき点灯しエンジン始動後に消灯します。点灯しないときは警告灯の故障が考えられます。点灯したときは燃料残量が約12ℓ以下になっています。できるだけ早く給油してください。

知　識

坂道やカーブなどでは、警告灯の点灯が早くなることがあります。

5 メーターパネル照度調節ノブ

ライトスイッチが Auto（エンジンスイッチが**2**のとき）、 か のとき、ノブを左右に回してメーターパネルの照明の明るさを調節します。

6 スピードメーター

車の走行速度をkm/hで表示します。

7 トリップメーター／オドメーター／メンテナンスインジケーター

トリップメーター／オドメーターは以下のときに表示され、約30秒後に消灯します。また、ノブ**5**を押すたびに切り替ります。

・運転席ドアを開く。
・エンジンスイッチを**1**か**2**の位置にする。
・ノブ**5**を押す。
・ランプスイッチを [車幅灯] か [前照灯] の位置にする。

トリップメーター：
リセットしてからの走行距離をkmで表示します。リセットするときはトリップメーターを表示させて、リセット（000.0km）されるまでノブ**5**を押します。
オドメーター：
これまでに走行した距離の総合計をkmで表示します。
メンテナンスインジケーター：
メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

8 時計調節用ノブ

ノブを引いて時計回りに回すと分が調整でき、反時計回りに回すと時間が調整できます。

9 タコメーター

1分間あたりのエンジン回転数を表示します。

知　識

エンジン回転数が許容範囲を越えるときは、自動的にリミッターが働きエンジンを保護します。

10 時計

時刻を表示します。

11 シフト位置表示

オートマチックトランスミッションのシフト位置を表示します。

表示灯と警告灯

BAS ESP BAS／ESP警告灯（2-21、2-23ページ）

ETS ETS警告灯（2-26ページ）

ABS ABS警告灯（2-19ページ）

ブレーキパッド摩耗警告灯（4-17ページ）

オイル量警告灯（8-8ページ）

冷却水量警告灯（8-6ページ）

LOW RANGE ローレンジ表示灯（4-14ページ）

エンジン警告灯（4-4ページ）

ウォッシャー液量警告灯（8-14ページ）

AIRBAG OFF エアバッグオフ表示灯（2-8、2-14ページ）

フロントフォグランプ表示灯（3-54ページ）

ステアリングロック警告灯（3-38ページ）

シートベルト警告灯（2-6ページ）

SRS エアバッグシステム警告灯（2-8ページ）

BRAKE ブレーキ警告灯（4-16、8-12ページ）

充電警告灯（6-20ページ）

上向き表示灯（3-50ページ）

方向指示表示灯（3-56ページ）

ESP／ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）表示灯（2-23、2-26ページ）

LIM 可変スピードリミッター表示灯（4-21ページ）

安全なドライブのために
安全装備
運転するまえに
運転するとき
快適・室内装備
万一のとき
車との上手なつきあいかた
点検と整備・サービスデータ
こんなときは

メンテナンスインジケーター

メーカー指定点検整備を行なう時期が近づくと、その時期までの走行距離または日数を表示します。ディスプレイはトリップメーター／オドメーターと共用です。

次回のメーカー指定点検整備を行なう時期の10日前または、約1,000km前になると、エンジンスイッチを**2**にするたびに約10秒間、ディスプレイにメンテナンスインジケーター または、 と日数または距離を表示します。

メンテナンスインジケーターが表示されるときは、メーカー指定点検整備を実施します。詳しくは、整備手帳を参照、または指定サービス工場に問い合わせてください。

注　意！

メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量の警告表示やエンジンオイルのレベル表示ではありません。

知　識

◇メーカー指定点検整備を行なう時期を過ぎると、距離または日数の前にー（マイナス）が付き、エンジンスイッチを**2**にしたときにその表示が点滅します。

◇次回のメーカー指定点検整備を行なう時期までの走行距離は、運転のしかたや状況によって異なります。エンジン回転数を必要以上に上げないように走行したり、エンジンが充分に温まらないうちに走行を止めるような短距離の走行を避けることにより、次回に行なうメーカー指定点検整備までの走行距離が長くなることがあります。

◇バッテリーの端子を外している間の日数は加算されません。

メンテナンスインジケーターを表示させるとき

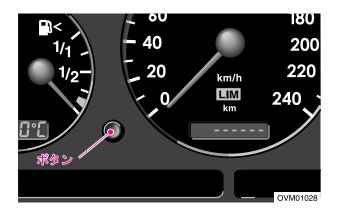
ボタンをすばやく2度押します。
メンテナンスインジケーターが約10秒間表示されます。表示中にボタンを押すと表示が消えます。

メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備後に指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットします。
メンテナンスインジケーターをリセットすると、次回のメーカー指定点検整備までの距離は15,000km、日数は365日に再設定されます。

注　意！

◆メンテナンスインジケーターのリセットは指定サービス工場で行なってください。
◆メンテナンスインジケーターに何らかの異常があるときには指定サービス工場で必ず点検を行なってください。

OVM01028

エンジンオイルレベルインジケーター

メーターパネルのディスプレイでエンジンオイルレベルを点検することができます。
ディスプレイはトリップメーター／オドメーター／メンテナンスインジケーターと共用です。

エンジンオイル点検の方法

① 車を水平な場所に停めます。
② エンジンを始動し、オイルを暖めます。
③ エンジンを停止して、5分ほど待ちます。
④ エンジンスイッチを**2**にします。数秒後にディスプレイが以下のように表示されます。

------

⑤ ボタンを素早く2度押します。オイルレベルに応じて以下のように表示されます。

OIL .0

エンジンオイルを補給する必要はありません。

- 1.0L

エンジンオイルを約1.0 ℓ 補給してください。

- 1.5L

エンジンオイルを約1.5 ℓ 補給してください。

- 2.0L

エンジンオイルを約2.0 ℓ 補給してください。

OIL HI

オイルレベルが上限を超えています。指定サービス工場に連絡してください。

注　意！

エンジンオイルが多すぎるとエンジンや触媒装置を損傷するおそれがあります。

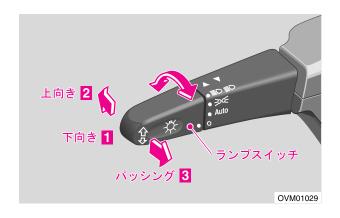
⑥ オイル量警告灯が表示されたとき、またはオイルが下限以下のときは、指定のオイルを補給します。

ディスプレイの表示は、取扱説明書作成時点でのものであり、予告なく変更されることがあります。

注　意！

◆ディスプレイに表示されるオイルレベルは、エンジンオイル補給量の目安です。エンジンのレベルゲージでオイル量を確認しながら補給してください。
◆ディスプレイでのエンジンオイル量の表示は約−2.0ℓまでしか表示されません。エンジンのレベルゲージ（8-8ページ）でオイル量を確認してください。
◆何度操作してもオイルレベルが表示されないときは、エンジンのレベルゲージを使ってオイルレベルを点検してください（8-8ページ）。オイルレベルの点検は、指定サービス工場で行なうことをお勧めします。
◆エンジンオイルは走行条件や運転スタイルなどにより、1,000kmあたり最大約0.8リットルを消費することがあります。エンジンオイルレベルを必ず日常点検などで確認してください。

知　識

ディスプレイが上図のように点滅表示されるときは、オイルレベルを正確に計ることができません。少し時間をおいてから再度操作してください。

ランプスイッチ

ステアリング左側のランプスイッチを回して操作します。

○　ランプ類が消灯します。

Auto　周囲の明るさに応じて自動的に点灯/消灯します（3-52ページ）。

車幅灯、テールランプ、ライセンスランプ、インストルメントパネル照明が点灯します。

上記に加えてヘッドランプが点灯します。

P　スイッチをこの位置 P にして方向指示レバーを右折の位置にすると、右側のパーキングランプが点灯し、左折の位置にすると、左側のパーキングランプが点灯します。

上向き表示灯：
ヘッドランプが上向きのときに点灯します。

注　意！

エンジンが停止している状態では、ランプを点灯したままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

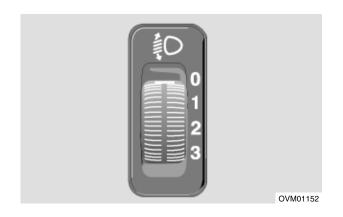
知　識

◇ランプ（パーキングランプを除く）を消灯しないでエンジンスイッチからキーを抜き取りドアを開くと、ランプ消し忘れブザーが鳴ります。

◇パーキングランプは、エンジンスイッチが**0**および**1**の位置、またはキーを抜いているときに点灯します。

ヘッドランプの切り替え
ヘッドランプ点灯中に、下向き／上向きを切り替えることができます。
下向き：
ヘッドランプ点灯中にレバーを1の位置にすると、ヘッドランプが下向きになります。
上向き：
下向きの状態からレバーを2の位置に押すと、ヘッドランプが上向きになり、メーターパネル内の上向き表示灯が点灯します。
パッシング：
下向きの状態からレバーを手前に引いている間、ヘッドランプが上向きに点灯します。レバーを放すと、元の位置に戻ります。

注　意！
対向車とすれ違うときや市街地を走行するときは上向きを使用しないでください。

OVM01152

ヘッドランプ照射角度の調整＊
乗員数が増えたり荷物を積載してヘッドランプの照射角度が変わったときに調整します。
エンジンが回転しているときに調整できます。

0　　１名乗車時（運転席）または２名乗車時（運転席と助手席）。
1～3　乗員数および荷物の積載量に応じて調整します。

注　意！
対向車に迷惑がかからないように注意しながら調整してください。

＊：仕様などにより装備が異なります

AUTO位置の機能

車外ランプの自動点灯機能
周囲の明るさに応じて、車幅灯やヘッドランプを自動的に点灯／消灯する機能です。
ランプスイッチを Auto にすると、以下のように自動的に点灯します。

■エンジンスイッチが2のとき
車幅灯、テールランプ、ライセンスランプやインストルメントパネル照明が点灯します。

■エンジン回転中
車幅灯などのほかにヘッドランプ（下向き）が点灯します。

注　意！

◆車外のランプの点灯／消灯操作は、運転者に責任があります。自動点灯機能は、運転者の操作を支援するだけの機能にすぎません。
◆ランプスイッチが Auto の位置のときでも、点灯しなかったり、点灯が遅れることがあります。この時は運転者の判断により手動で点灯してください。
◆ランプスイッチが Auto の位置で自動点灯しているときは、対向車のライトにより一時的に消灯することがあります。

知　識

◇フロントウィンドウのセンサー部が汚れていると自動点灯機能が作動しなくなることがあります。
◇ランプスイッチが Auto の位置のときでも、フォグランプを点灯することができます。

車外ランプ消灯遅延機能

周囲が暗いとき、車を降りてドアを閉じても一定時間車外ランプを点灯させ、周囲を明るくする機能です。
ランプスイッチが Auto の位置にあると、以下のように自動的に点灯／消灯します。

停車後、エンジンを停止すると、車外ランプが点灯します。車を降りてすべてのドアを閉じると、この時点から設定した時間点灯した後、自動的に消灯します。
この設定時間（遅延時間）は、0～60秒を選ぶことができます。0秒を選ぶと、ランプは点灯しません。

知　識

◇点灯する車外のランプは、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプ、フォグランプです。
◇エンジン停車後ランプを点灯させたままドアを開かなかったり、ドアを開いて点灯させた後にドアを閉じなかった場合は約60秒後に自動で消えます。
◇ドアを閉じてから約10分以内に再びドアを開くと車外のランプが点灯します。

■一時解除

この機能を一時的に解除するときは、エンジン停止後、エンジンスイッチを**2**に回してから再度**0**の位置に戻すと、消灯遅延機能がOFFになります。

■遅延時間の設定

エンジンスイッチを**2**、ランプスイッチを ○ の位置にします。
フォグランプスイッチの上側 1 を約5秒間押すと時計のディスプレイに遅延時間が表示されます。
フォグランプスイッチの上側を押すたびに遅延時間を0～60秒の範囲で15秒ごとに変更することができます。
希望する時間が表示されたら、そのまま約5秒間待つと遅延時間が設定され、時計表示に戻ります。
再度フォグランプスイッチの上側を約5秒間押すと、遅延時間を確認できます。

フォグランプ

フォグランプスイッチはインストルメントパネルにあります。エンジンスイッチが2の位置でランプスイッチが Auto 、 、 のときに点灯させることができます。

点灯するとき

スイッチの上側1を押すと、フロントフォグランプが点灯します。スイッチの下側2を押すと、フロントおよびリアフォグランプが点灯し、スイッチ中央の表示灯が点灯します。

消灯するとき

フロントフォグランプのみが点灯しているときは、スイッチの上側1を押します。
フロントおよびリアフォグランプが点灯しているときは、スイッチの下側2を押すか、スイッチの上側1を2回押します。また、リアフォグランプのみ消灯したいときはスイッチの上側1を1回押します。

フロントフォグランプ表示灯：
エンジンスイッチが2のとき点灯しエンジン始動後に消灯します。点灯しないときは表示灯の故障が考えられます。フォグランプを点灯すると表示灯が点灯します。

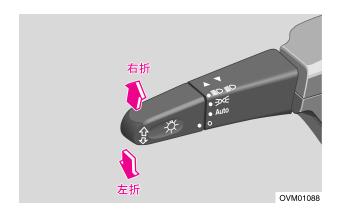
注　意！

◆フォグランプは、霧などの悪天候で充分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。対向車や後続車の迷惑になります。
◆エンジンが停止している状態では、フォグランプを点灯したままにしないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

OVM02005

ヘッドランプウォッシャー＊

エンジンスイッチが**2**の位置のとき作動します。

ヘッドランプウォッシャーの操作
スイッチの上側を押すとノズルからウォッシャー液がヘッドランプに向けて噴射されます。

注　意！

◆ヘッドランプウォッシャーを使用するときは、通行人などにウォッシャー液がかからないように注意してください。
◆ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているので、必ず純正の専用ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。

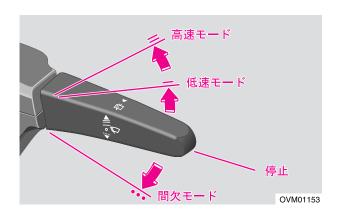
＊：仕様などにより装備が異なります

方向指示の操作

エンジンスイッチが**2**の位置のとき作動します。
レバーを上または下へ操作すると右または左の方向指示灯が点滅します。
メーターパネルの表示灯も点滅します。

ステアリングを戻すとレバーは自動的に戻りますが、戻らないときは手で戻してください。
車線変更など短時間だけ方向指示灯を使用するときは、レバーを操作したときに手ごたえが感じられる位置で手を放すと方向指示灯が2～3回点滅します。

知　識

方向指示灯（ドアミラーを除く）のいずれかの電球が切れると、方向指示灯や表示灯の点滅と音の間隔が短くなります。ただちに電球を交換してください。

ワイパー／ウォッシャー

フロントワイパーの操作

ステアリング右側のレバーを矢印の方向に動かして操作します。エンジンスイッチが**1**か**2**のとき作動します。

間欠モード：レバーを1段下げます。
低速モード：レバーを1段上げます。
高速モード：レバーを2段上げます。

◇間欠モードで走行時、車速が170km/hを越えると自動的に低速モードに切り替わります。

フロントウォッシャーの操作

レバーを手前に引いている間ウォッシャー液が噴射され、フロントワイパーが数回作動します。

リアワイパーの操作

エンジンスイッチが**1**か**2**のとき作動します。

作動：スイッチの上側を押すと表示灯が点灯し、間欠モードで作動します。
停止：スイッチの上側を再度押します。

リアウォッシャーの操作

スイッチの下側を押し続けるとウォッシャー液が噴射され、リアワイパーが数回作動します。

安全なドライブのために
安全装備
運転するまえに
運転するとき
快適・室内装備
万一のとき
車との上手なつきあいかた
点検と整備・サービスデータ
こんなときは

注　意！

◆ウィンドウを拭くときなどは、必ずワイパーを停止してください。ワイパーが動き、けがをするおそれがあります。
◆ウィンドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウィンドウの表面に細かい傷が付くおそれがあります。
◆停車時にワイパーを使用するときは、通行人などに水がかからないように注意してください。
◆寒冷時にはワイパーがガラスに貼りつくことがあります。作動させる前に貼りついていないことを確認してください。貼りついたままワイパーを操作すると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。
◆ワイパーに雪などの障害物が付着しているときは、エンジンスイッチからキーを抜き、障害物を取り除いてからワイパーを動かしてください。
◆ウィンドウが汚れているときは、必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを使用してください。ウィンドウの表面に細かい傷が付くおそれがあります。
◆ウォッシャー液リザーブタンクが空のときは、ウォッシャーを操作しないでください。モーターを損傷するおそれがあります。
◆自動洗車機を使用する前には、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

知　識

◇エンジン回転中にフロントワイパーを使用している時、トランスミッションのセレクタを R に入れると、リアワイパーが自動的に作動します。
◇間欠モードでフロントワイパーを使用しているときにフロントドアを開くと、フロントワイパーの作動が一時的に停止します。

表示灯
リアデフォッガースイッチ
OFF
OVM01060

リアデフォッガー

リアウィンドウの曇りを取るときに使います。エンジンが始動しているときに作動します。

スイッチを押すと作動し、もう1度押すと停止します。作動中はスイッチの表示灯が点灯します。

注　意！

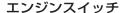
◆消費電力が大きいため、リアウィンドウの曇りが取れたらスイッチを切ってください。
◆リアウィンドウに氷や雪が付いている場合は、取り除いてから使用してください。

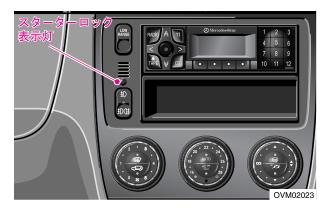
知　識

◇リアデフォッガーは外気温度によって約6分から17分間作動し、自動的に停止します。
◇バッテリーの電圧が低くなったときは、一時的にスイッチが切れ、表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再び自動的にスイッチが入ります。

4. 運転するとき

エンジンスイッチ

⚠ 警　告

●ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供が乗車している場合は一緒に降ろしてください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になることがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱射病や脱水症状を起こすおそれがあります。

●走行中は、どんな場合でもキーを抜き取らないでください。ステアリングがロックされ、重大事故を起こすおそれがあります。

●走行中は、どんな場合でもエンジンを停止しないでください。エンジンが停止しているとBASなどの装置が作動しません。

0：キーを差し込む／抜く位置。

1：エンジンをかけずに電気装置の一部を使用するときの位置。
インストルメントパネルのスターターロック表示灯が点滅します。

2：エンジン回転中の位置。
すべての電気装置が使用できます（パーキングランプを除く）。

3：エンジンを始動する位置。
エンジンスイッチをいったん**3**の位置まで回せば、手を放しても自動的にスターターが作動し、エンジンを始動します。

ステアリングロック

エンジンスイッチからキーを抜き取るとステアリングがロックされて回すことができなくなります。キーを差し込みエンジンスイッチを**1**の位置に回すとステアリングのロックが解除されます。

スターターロック表示灯

■エンジン始動時

◇キーを差し込み、エンジンスイッチが**0**の位置のときは消灯しています。
◇エンジンスイッチを**1**の位置に回すと点滅し、**2**の位置に回すと消灯します。
◇エンジン回転中は、消灯しています。

■エンジン停止時

◇エンジンスイッチを**1**の位置に回すとエンジンが停止し、表示灯が点滅します。
◇エンジンスイッチを**0**の位置に戻しても点滅していますが、キーを抜くと消灯します。

注　意！

◆キーをエンジンスイッチに差し込んで、**1**の位置に回してもスターターロック表示灯が点滅しない場合は、指定サービス工場で点検を受けてください。
◆車のバッテリーあがりを防止するために、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。
◆走行中にエンジンを止めないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

知　識

◇セレクターレバーが**P**に入っていないときはキーを抜くことができません。
◇キーをエンジンスイッチに差し込んだままにすると、キーが回せなくなることがあります。そのときはキーをいったん抜き、再度差し込んで回してください。
◇キーが回しにくいときは、ステアリングを左右に動かしながらキーを回して、ステアリングロックを解除してください。
◇純正以外のキーでは、エンジンを始動することができません。

エンジンを始動するとき

エンジン警告灯：
エンジンスイッチが**2**の位置のとき点灯しエンジン始動後に消灯します。点灯しないときは警告灯の故障が考えられます。消灯しなかったり、走行中に点灯したときはエンジンの制御システムに異常が考えられます。指定サービス工場でただちに点検を受けてください。

※表示灯／警告灯（9-10ページ）をご覧ください。

① 駐車ブレーキが確実に効いていることを確かめます。
② セレクターレバーが **P** に入っていることを確かめます。
③ ブレーキペダルを確実に踏み込みます。
④ アクセルペダルを踏まずにエンジンスイッチを**3**の位置まで回してから手を放します。

注　意！

◆エンジンは、セレクターレバーが **N** のときでも始動できますが、安全のため **P** の位置で始動してください。
◆少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
◆約20秒以上スターターを回転させないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

知　識

◇エンジンスイッチをいったん**3**まで回した後、キーから手を離しても、スターターが自動的に回ります。この時エンジンスイッチを**0**に戻すとスターターは停止します。
◇純正以外のキーで車の解錠／施錠ができても、エンジンを始動することはできません。
◇ライトやエアコンディショナーなど、エンジンの負担になる装置を停止しておくと始動性が良くなります。
◇エンジンを空ぶかしすると約4,000回転でリミッターが効き、それ以上回転が上がりません。

エンジンの再始動

エンジンを始動できなくて再始動するときは、いったん、キーを**0**の位置まで戻してから再始動してください。

知　識

始動できないときは、セレクターレバーの位置を確認してください。セレクターレバーが **D** か **R** に入っていると、エンジンを始動することができません。

エンジンが始動しないとき

燃料が入っているか燃料計で確かめてください。
燃料が入っていて、エンジンが始動しないときは、指定サービス工場に連絡してください。
また、セレクターレバーが **P** の位置に入っていることを確かめてください。

注　意！

キーをエンジンスイッチに差し込んで **1** の位置に回してもスターターロック表示灯が点滅しないときは、スターターロック機能が故障しているおそれがあります。指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンを停止するとき

① 車を完全に停止します。
② ブレーキペダルを踏んだまま、駐車ブレーキペダルを踏み込み、セレクターレバーを **P** に入れます。
③ エンジンスイッチを**0**の位置にします。
④ ブレーキペダルから足をゆっくり放します。

注　意！

エンジン冷却水温が高めのときは、数分間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

知　識

エンジンを停止してもエンジン温水循環ポンプが作動することがありますが異常ではありません。ポンプは自動的に停止します。

セレクターレバー

エンジンスイッチを**2**にすると、メーターパネルのシフト位置インジケーターにシフト位置が表示されます。シフト位置はセレクターレバーの横にも表示してあります。

P **パーキング**
駐車およびエンジン始動／停止の位置。

R **リバース**
後退の位置。

N **ニュートラル**
エンジンの動力が伝わらない位置。押したり、けん引してもらって車を移動することができます。

D **ドライブ**
通常走行の位置。
1～5速ギアを自動変速します。

ティップシフト：
D の位置から＋または－の方向にセレクターレバーを動かして変速範囲を選択します（4-7ページ）。

知　識
エンジンスイッチが**2**の位置で、ブレーキペダルを踏んでいないと、セレクターレバーを **P** から動かすことはできません。

シフト位置インジケーター
OVM01056

ティップシフト

セレクターレバーが D の位置にあるときは、セレクターレバーを⊕または⊖の方向に動かし、路面や走行の状況に合った変速範囲を選択することができます。選択した変速範囲（ティップシフト位置）は、メーターパネルのシフト位置インジケーターに数字で表示されます。

ティップシフト位置

4 1～4速の範囲で自動的に変速します。
走行性を重視した運転などに適しています。

3 1～3速の範囲で自動的に変速します。
穏やかな坂道などを走行するときに適しています。

2 1～2速の範囲で自動的に変速します。
険しい山道を走行するときや、エンジンブレーキが必要なとき、他車をけん引するときなどに適しています。

1 1速ギアに固定されます。
重い荷物を積んで発進するときや、**2** の位置よりも強いエンジンブレーキが必要なときなどに使用します。

⚠ 警　告

滑りやすい路面で過度のエンジンブレーキを効かせると、スリップを起こして車のコントロールを失うおそれがあります。

注　意！

エンジン許容回転数を超える範囲では、セレクターレバーを操作してもシフトダウンできません。このときは、ブレーキペダルで減速してからシフトダウンし、速度に応じたエンジンブレーキを効かせてください。

知　識

◇ティップシフト操作時、シフト位置インジケーターの表示する数字は選択した変速範囲を示しており、実際のギアを示すものではありません。
◇セレクターレバーを＋の方向に押して保持すると、シフト位置インジケーターの表示が **D** になり、1～5速を自動的に変速します。
◇シフト位置インジケーターの表示が **D** のときにセレクターレバーを＋の方向に押すと、エンジン回転数や走行速度により1段上のギアへシフトアップします。
◇セレクターレバーを－の方向に押して保持すると、そのときの加速や減速に最も適したレンジが選択され、そのレンジがシフト位置インジケーターに表示されます。
◇セレクターレバーを－の方向に押すと、現在選択されている変速範囲で最も高いギアにすでにシフトされている場合は、1段下のギアにシフトします。
◇ティップシフトと実際に変速が行なわれるタイミングには差があります。

パーキングロックの解除

エンジンスイッチが**2**の位置でブレーキペダルを踏んでいても、セレクターレバーを **P** の位置から動かせないときは、以下の方法で動かすことができます。
故障時、車をけん引するときなどにこの方法でロックを解除してください。

① エンジンを停止し、駐車ブレーキを確実に効かせます。
② ロッドなどをシフト表示の**-D＋**マーク下に差し込みます。
③ ブレーキペダルを踏みます。
④ ロッドを押したままセレクターレバーを **P** の位置から動かします。
⑤ ロッドを抜きます。

注　意！

◆この方法でセレクターレバーを動かせないときは、指定サービス工場に連絡してください。
◆セレクターレバーを動かすことができたときでも、指定サービス工場でただちに点検を受けてください。

オートマチック車の運転

オートマチック車の特性を理解し、正しく安全に走行してください（1-11ページ）。

オートマチック車の特性

クリープ現象

エンジンが回転しているときに、セレクターレバーが走行位置に入ると動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくりと動き出します。
これをクリープ現象といいます。

キックダウン

走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低速ギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。
これをキックダウンといいます。

発進

① エンジンを始動します。
② ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏み込んだときにペダルが一定のところで止まることを確かめます。
③ エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確かめ、ブレーキペダルを踏んだまま、セレクターレバーを走行の位置 **D** または、 **R** に入れます。

⚠ 警　告

アクセルペダルを踏み込んだまま、セレクターレバーを操作しないでください。車が急発進するおそれがあります。

④ 駐車ブレーキを解除します。
⑤ ブレーキペダルを徐々に放して、アクセルペダルを静かに踏み込みます。

注　意！

急な上り坂で発進するときは、駐車ブレーキを確実に効かせたままブレーキペダルから足を放し、アクセルペダルを静かに踏み込み、車が動き出すのを確かめてから駐車ブレーキを解除して発進してください。

通常走行

通常は **D** を選んで走行します。アクセルペダルの踏み加減や車速に応じて、自動的に変速が行なわれます。

⚠ 警　告

走行中はセレクターレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故の原因になったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

知　識

エンジンが冷えているときは、通常時よりも高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。

急加速

アクセルペダルを踏み込み、キックダウンさせて急加速します。

坂道での走行

■上り坂

坂の勾配に応じてティップシフトで 3 ～ 1 を選択しておくと、シフトダウンによる変速回数が減り、なめらかに走行することができます。

■下り坂

下り坂を通常走行の位置 D で走行すると、エンジンブレーキが効かずに速度が出すぎることがあります。このようなときは、坂の勾配に応じてティップシフトで 3 ～ 1 を選びエンジンブレーキを効かせながら走行します。必要に応じてブレーキペダルを踏み込んで減速してください。

⚠警　告

●長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを効かせてください。ブレーキペダルを長く踏み続けると、ブレーキが過熱してベーパーロックを起こし、最悪の場合、停車できなくなるおそれがあります。

●過度のエンジンブレーキを効かせないでください。スリップを起こして車のコントロールを失うおそれがあります。

滑りやすい路面の走行

急加速や急減速を避けた走行を心がけてください。滑りやすい路面では、車輪に必要以上の駆動力がかかると、車のコントロールや制動距離に悪影響が出ることがあります。

⚠警　告

滑りやすい路面で過度のエンジンブレーキを効かせると、スリップを起こして車のコントロールを失うおそれがあります。

注　意！

エンジン許容回転数を超える範囲では、セレクターレバーを操作してもシフトダウンできません。このときは、ブレーキペダルで減速してからシフトダウンし、速度に応じたエンジンブレーキを効かせてください。

停車

セレクターレバーを **D** か **R** の位置に入れたままブレーキペダルを踏みます。
長時間停車するときは、駐車ブレーキを確実に効かせ、セレクターレバーを **P** に入れてください。

⚠ 警　告

停車中はエンジンの空吹かしをしないでください。万一セレクターレバーが D 、R の位置にあると車が急発進して重大な事故を起こすおそれがあります。

注　意！

◆急な上り坂ではアクセルペダルの踏み加減によって停車状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
◆停車中はブレーキペダルを確実に踏んでください。ブレーキペダルから足を放すとクリープ現象（4-9ページ）により車が動き出します。
◆車が完全に停止しないうちにセレクターレバーを **P** に入れないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

① 車を完全に停止させ、ブレーキペダルを踏んだまま、駐車ブレーキを確実に効かせます。
② セレクターレバーを **P** に入れます。
③ エンジンスイッチを**0**の位置にして、キーを抜きます。
④ ブレーキペダルからゆっくり足を放します。

⚠ 警　告

駐車時や車から離れるときは、必ずセレクターレバーを P の位置に入れ、駐車ブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止してください。セレクターレバーが N の位置でエンジンを始動したときに誤ってセレクターレバーに触れると車が急発進するおそれがあります。

注　意！

◆セレクターレバーを **P** の位置にしただけでは車を確実に止めることはできません。必ず駐車ブレーキを確実に効かせてください。
◆急な坂道で駐車するときは、前輪の向きを路肩側にしてください。また、木片、石などを利用して輪止めをしてください。
◆車から離れるときは、子供だけを車内に残さないでください。また、ウィンドウとスライディングルーフを閉じ、必ず車を施錠してください。

変速できないとき

オートマチックトランスミッションに故障が発生しギアが変速できなくなった場合、以下の方法でギアを2速とリバースに入れることができるようになり、走行できる場合があります。（エマージェンシーモード）安全な場所まで移動して指定サービス工場に連絡してください。

ギアを2速かリバースに入れるとき

① 車を完全に停車させせます。
② セレクターレバーを **P** に入れ、エンジンスイッチを**0**の位置のまま約10秒間待ちます。
③ エンジンを始動します。
④ その後、セレクターレバーを **D** に入れると2速ギアに入り固定されます。また、セレクターレバーを **R** に入れるとリバースに入ります。

2速に変速できなかったり、変速できても走行できないときは指定サービス工場に連絡してください。

注　意！

オートマチックトランスミッションが故障したときは、指定サービス工場でただちに点検を受けてください。

OVM03006

ローレンジモード

ローレンジモードは未舗装路、ぬかるみなどの悪路、または急勾配を走行するときなどに適しています。

ローレンジスイッチ
ローレンジスイッチはインストルメントパネルにあります。
路面の状況や走行に合わせてローレンジモードに切り替えることができます。

LOW RANGE **ローレンジ表示灯：**
イグニッションスイッチが**2**のとき点灯し、エンジン始動後に消灯します。点灯しないときは表示灯の故障が考えられます。
ローレンジに切り替えたときに点灯します。

※表示灯／警告灯（9-10ページ）をご覧ください。

ローレンジに切り替えるとき
① 車を停車させます。
② 駐車ブレーキを確実に効かせます。
③ ブレーキペダルを踏み込みます。
④ オートマチックトランスミッションのセレクターレバーを **N** に入れます。
⑤ エンジンをアイドリングにします。
⑥ ローレンジスイッチの上側を押します。
⑦ ローレンジ表示灯が3回点滅したあと、点灯します。

⚠ 警　告

凍結路を走行するときはローレンジに切り替えないでください。オフロードABS（2-20ページ）が作動したときに車が走行安定性を失い、事故を起こすおそれがあります。

注　意！

◆ローレンジの切り替えは、必ず車を停車させ（車速が0km/h）、ブレーキペダルを踏み、セレクターレバーを **N** に入れ、アイドリング状態にしてから行なってください。エンジン回転を上げると駆動装置が破損するおそれがあります。

◆ローレンジ切り替え時に表示灯が早く点滅するときは、切り替えの条件が満たされていないか装置が損傷しているおそれがあります。切り替え操作をくりかえしても表示灯が点滅するときは指定サービス工場で点検を受けてください。

ノーマルレンジに切り替えるとき

① 車を停車させます。
② 駐車ブレーキを確実に効かせます。
③ ブレーキペダルを踏み込みます。
④ オートマチックトランスミッションのセレクターレバーを **N** に入れます。
⑤ エンジンをアイドリングにします。
⑥ ローレンジスイッチの上側を再度押します。
⑦ ローレンジ表示灯が3回点滅したあと、消灯します。

駐車ブレーキ

駐車ブレーキを効かせるときは右足でブレーキを踏み、左足で駐車ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込みます。
解除ハンドルを手前に引くと解除します。

⚠ 警　告

●駐車ブレーキを効かせたまま走行しないでください。ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。
●車から離れるときは、子供も一緒に降ろしてください。駐車ブレーキを解除してしまうおそれがあります。

注　意！

◆駐車ブレーキは車が完全に停止してから効かせてください。
◆急な坂道に駐車するときは、前輪の向きを路肩側にしてタイヤに輪止めをしてください。
◆駐車ブレーキを解除せずに走行すると、警告アラームが鳴ります。

(!) BRAKE **ブレーキ警告灯：**
エンジン・スイッチが**2**の位置のとき点灯し、エンジン始動後に消灯します。点灯しないときは警告灯の故障が考えられます。
エンジン始動後、駐車ブレーキが効いているときは、点灯したままになります。
駐車ブレーキを解除しても消灯しないときや、走行中に点灯する場合は、ブレーキ液レベルが低下しています。すみやかに安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。

※表示灯／警告灯（9-11ページ）をご覧ください。

ブレーキ

ブレーキパッド摩耗警告灯：
エンジンスイッチが**2**のとき点灯し、エンジン始動後に消灯します。点灯しないときは警告灯の故障が考えられます。
消灯しなかったり、走行中にブレーキペダルを踏んだときに点灯した場合は、前輪のブレーキパッドが摩耗しています。指定サービス工場で点検を受けてください。
また、ブレーキパッド摩耗警告灯の点灯と同時にブレーキ警告灯が点灯し、警告音がすることがあります。

※表示灯／警告灯（9-9ページ）をご覧ください。

警　告

- **長い下り坂や急な下り坂では必ずエンジンブレーキを効かせてください。ブレーキペダルを長く踏み続けると、ブレーキが過熱してベーパーロックを起こし、最悪の場合、停車できなくなるおそれがあります。**
- **走行中にブレーキ警告灯が点灯したときは、ただちに車を安全な場所に停車し、指定サービス工場に連絡してください。そのまま走行を続けるとブレーキが効かなくなるおそれがあります。**
- **ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。**

注　意！

◆ブレーキが過熱している状態では、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを破損するおそれがあります。
◆故障などでエンジンを止めてけん引してもらうときは、充分注意してください。エンジンが停止しているときは、通常のときに比べてブレーキペダルを非常に強く踏まなくてはなりません。
◆洗車後や水たまり走行後、または激しい雨の中で長時間ブレーキを使用しないで走行した後は、ブレーキの効きが遅れたり、いつもより強く踏まなければならないことがあります。このようなときは、いつもより長めに車間距離を取り、効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。
◆必ず指定のブレーキパッドを使用してください。指定以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

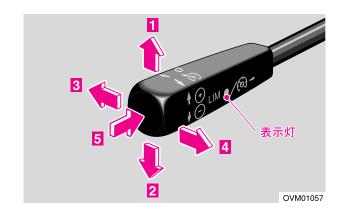
クルーズコントロール

アクセルペダルを踏まなくても、設定した一定速度で走行することができます。
約30km/h以上で速度を設定できます。

⚠警　告

●車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
●以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
・急な下り坂、急カーブ、曲がりくねった道路
・加減速を繰り返すような交通状況や交通量の多い道路
・降雨時や雪道、凍結路などの滑りやすい路面

注　意！

クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。

クルーズコントロール操作レバー
クルーズコントロールの操作レバーは、可変スピードリミッターと共用しています。
レバーの表示灯が点灯しているときは、可変スピードリミッターの操作レバーになります。この場合はレバーを5の方向に押して、クルーズコントロール（表示灯消灯）に切り替えて使用します。

■速度を設定するとき

①クルーズコントロールを使用するときは、レバーの表示灯およびメーターパネルの可変スピードリミッタ表示灯 LIM が消灯していることを確認してください。

②希望の速度まで加速または減速します。

③希望の速度に達したとき、レバーを1か2の方向に動かして手を放します。

以上の操作で定速走行を開始します。

■一時的に加速するとき

追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

■設定速度を変えるとき

◇レバーを1の方向に押しつづけると加速します。希望の速度になったら手を放します。手を放したときの速度に設定されます。

◇レバーを2の方向に押しつづけると減速します。希望の速度になったら手を放します。手を放したときの速度に設定されます。

注　意！

◆急な上り坂では、設定した速度を維持できないことがあります。このようなときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

◆急な下り坂では、エンジンブレーキの効きが充分に得られずにクルーズコントロールが速度を維持できないことがあります。このようなときは、ブレーキペダルを踏んで減速してください。

◆必ず指定された同銘柄の同一サイズのタイヤを装着してください。サイズの異なるタイヤを装着すると、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。

知　識

レバーを1か2の方向に1回操作すると、約1km/h単位で速度の設定ができます。

クルーズコントロールを解除するとき

◇レバーを3の方向に押します。
◇レバーを5の方向に押します。

次の操作をすると自動的に解除されます。
◇セレクターレバーをNに入れたとき
◇ブレーキペダルを踏んだとき

⚠ 警　告

クルーズコントロールはセレクターレバーをNに入れても解除されますが、走行中はセレクターレバーをNに入れないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故の原因になったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

知　識

5の方向に押すと、クルーズコントロールが解除され可変スピードリミッターに切り替わり、レバーの表示灯が点灯します。

解除前に設定していた速度に戻すとき

約30km/h以上の速度で走行しているときにレバーを4の方向に引くと、解除前に設定していた速度まで加速し、定速走行に戻ります。

⚠ 警　告

解除前に設定していた速度に戻したいときは、周囲が安全な状況にあることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速して事故を起こすおそれがあります。

知　識

エンジンスイッチを一度**0**か**1**の位置にすると、メモリに記憶された速度は消去され、その後はレバーを**4**の方向に引いても、解除前に設定していた速度に戻すことはできません。

可変スピードリミッター

車の最高速度を制限する装置です。任意の速度に設定すると、アクセルペダルを踏み込んでも、その設定速度以上の速度にはなりません。

通常設定

設定できる速度：30～210km/h

ただし、最高速度以上に設定しても、車の最高速度以上の速度で走行することはできません。

設定できる速度の範囲は、予告なく変更されることがあります。

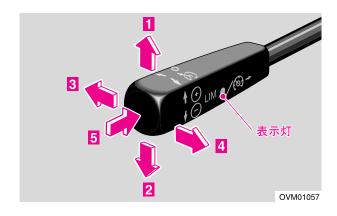
⚠ 警　告

可変スピードリミッターは以下の点に注意して使用してください。

- **走行速度を制限する装置ですが走行中は法定速度を守ってください。**
- **使用中に運転者を交代するときは、スピードリミッターを解除し、次の運転者にこの装置の操作方法を説明してください。可変スピードリミッターが作動していると、加速できずに追突されるなど、重大な事故につながるおそれがあります。**
- **クルーズコントロールとは用途が異なります。ブレーキペダルを踏み込んでも制限速度を解除したり、装置の作動を解除することはできません。**

注　意！

◆可変スピードリミッターで設定した速度とスピードメータの速度表示がわずかに異なることがあります。

◆急な下り坂などで惰性がつき、可変スピードリミッターが設定速度を維持できないときは、警告アラームが鳴り、メーターパネルの可変スピードリミッター表示灯 LIM とディスプレイの設定速度表示が点滅します。このときはブレーキペダルを踏んで減速してください。

制限速度を設定するとき

クルーズコントロールと同じレバーを使用します。レバーの表示灯およびメーターパネルの可変スピードリミッター表示灯 LIM が点灯しているときに設定することができます。表示灯が消灯しているときは、レバーを 5 の方向に押して、可変スピードリミッターに切り替えてください。

停車中と走行中では設定方法が異なります。

■停車中（エンジン回転中）

① レバーを 4 の方向に引くと、メーターパネルのディスプレイに“30”と表示されます。すでに速度が設定されているときは、その速度が表示されます。

知　識

車をしばらく使用していなかったり、バッテリーの接続を外していたときなどは、ディスプレイが任意の速度を表示することがあります。この場合はレバーを操作し、速度を設定しなおしてください。

② 速度を設定します。

◇レバーを 1 の方向に操作すると、設定速度が10km/h単位で上がります。

◇レバーを 2 の方向に操作すると、設定速度が10km/h単位で下がります。

◇レバーを 4 の方向に操作すると、設定速度が1km/h単位で上がります。

知　識

設定速度を1km/h単位で下げることはできません。

③ 希望する速度になったらレバーから手を放します。

■走行中
走行している速度によって操作後の設定速度が変わります。
例えば、約45km/hで走行しているときは、
◇レバーを1の方向に上げると、速度が50km/hに設定されます。
◇レバーを2の方向に下げると、速度が40km/hに設定されます。
◇レバーを4の方向に引くと、走行速度に関係なくすでに設定してある（メモリが記憶している）速度に設定されます。
以上のいずれかの操作をした後にレバーを4の方向に引くと、設定速度が1km/h単位で上がります。

注　意！

走行中に走行速度より低く設定すると、自動的に減速されます。後続車に注意し、安全を確かめてから操作してください。

■可変スピードリミッターの解除
解除するとメーターパネルのLIMが消灯します。
◇レバーを3の方向に押したとき。
◇レバーを5の方向に押して、クルーズコントロールに切り替えたとき。

知　識

次の操作をしたときは、可変スピードリミッターが自動的に解除されます。
・アクセルペダルを踏み込んでキックダウンしたとき。
ただし、設定速度より20km/h以上低い速度までは、一時的にキックダウンしても可変スピードリミッターは解除されません。
・エンジンを停止したとき。

注　意！

可変スピードリミッターを解除しても、設定速度はメモリに記憶されています。レバーの表示灯が点灯しているときに、レバーを4の方向に引くと、この記憶速度が呼び出されます。
したがって、記憶速度が走行速度よりも低い場合に記憶速度を呼び出すと、車はアクセルペダルを踏んでいても減速します。

■解除前の設定速度に再設定するとき

走行速度と設定速度の差が約30km/h以下のときは、レバーを**4**の方向に引くと、解除する前の速度に再設定されます。

知　識

走行速度と設定速度の差が約30km/h以上のときにレバーを**4**の方向に引くと、ディスプレイの設定速度表示が数回点滅し、可変スピードリミッターは解除されます。

＊：再設定できる速度範囲は予告なく変更されることがあります。

4輪駆動車の運転

悪路を走行する前に

タイヤ：　タイヤの溝の深さと空気圧および損傷の有無を確認してください。また、石などが挟まっている場合は取り除いてください。バルブキャップが紛失している場合は取り付けてください。

ホイール：損傷がある場合は、走行前に交換してください。

車載工具：ジャッキが正常に動くか確認してください。万一のためにスパナ、ロープ、折りたたみ式のスコップを常に車内に保管してください。

悪路走行後は

◇ローレンジモードを解除します。

◇タイヤ溝に挟まった異物を取り除き、すべてのタイヤを点検してください。

◇ヘッドランプやテールランプ、ナンバープレート、ウィンドウの汚れを取り除きます。

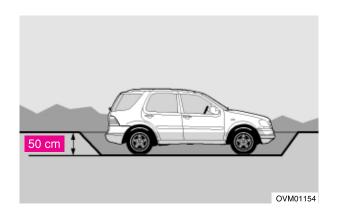
◇タイヤやホイール、ホイールアーチ、下回りに付着した汚れも取り除きます。

◇泥地走行後は、ラジエター、サスペンション、エンジン、ブレーキ、ホイールの内側を洗浄してください。サスペンションと各部の給脂状態やブレーキホースに異常がないか点検し、ブレーキの効きも確認してください。

悪路を走行するとき

◇車の左右両輪で同時に高低差のある段差を乗り越えると、車体、シャーシや駆動装置を損傷するおそれがあります。
◇段差や荒れ地では、必ずゆっくりと走行してください。常に状況にあった速度で走行していれば、思いがけない障害物を確認できるため、車の損傷を防ぐことができます。
◇砂地は走行抵抗が著しく大きいためスタック（立ち往生）するおそれがあるので、走行しないでください。
◇環境に配慮して走行し、自然破壊をしないでください。
◇悪路走行中は、途中で停車すると発進できなくなるおそれがあります。悪路は低速で走り抜けてください。
◇走行中に車をジャンプさせないでください。シャーシや駆動装置が損傷するおそれがあります。
◇必要に応じてローレンジモード（4-14ページ）にしてください。悪路での車の特性とローレンジモードの操縦性を把握する必要があります。悪路走行の前に簡単な条件下での練習をおすすめします。
◇走行中はウィンドウとスライディングルーフを閉じてください。

川などを渡るとき

◇川などの水深が不明な場合は絶対に走行しないでください。

◇浅瀬を渡るときも、必ず深さと流れを確認してローレンジモードに切り替えたうえで歩行と同じ程度の速度で渡ってください。
◇速度を上げると波が立ちエンジンや補助部分にダメージを与えるおそれがあります。
◇セレクターレバーでギアを変えたり、エアコンディショナーを作動させずに渡りきってください。水中での停車はスタック（立ち往生）の原因になります。また、エンジンは絶対に停止させないでください。
◇水の中での走行は水の抵抗を受け、ハンドルを取られるなどして故障や事故につながることもあります。
◇川などを渡った後は、タイヤの溝を洗浄して、ブレーキペダルを軽く踏んでブレーキパッドを乾かしてください。

勾配を走行するとき

◇常に勾配に対して対面し、直線的に走行してください。最大登勾配角度は60%です。

◇途中で方向転換すると横転するおそれがありますので、登りきれないときは後退で下り、登り直してください。

◇長い勾配を下った後は、ブレーキの効きを点検してください。

◇勾配を下るときは斜めに横切って走行すると横転するおそれがあります。万一、斜めに横切る状態になって横転しそうなときは、勾配の下り方向へハンドルを切って姿勢を立て直してください。

◇勾配を下るときはエンジン回転に注意しながらエンジンブレーキを効かせてください。

◇坂の途中でエンジンブレーキを効かせても減速できない場合は、ブレーキペダルをゆっくりと踏んでください。ローレンジモードに切り替えているときは、オフロードABSの特性により、フロントホイールを強制的にロックさせ、制動力を発生させます。ただし、ホイールがロックするため、車の操縦性に影響をおよぼすおそれがあります。
予期せず急な勾配を下るときには、車体が横滑りしないように、エンジンブレーキを最大限に効かせ、注意深くブレーキを踏み込んでください（走行後はブレーキを確認してください）。

◇雪や雨などで滑りやすい急な勾配ではETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）が働き、発進・走行安定性・操縦性が高まります。
ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）は、車輪の空転（スリップ）を感知してフロントホイールにブレーキをかけ、リアホイールにトルクを伝達し発進しやすくします。

◇急な勾配を登り切る手前でアクセルペダルを戻し、余力で登ってください。

注　意！

急な勾配を走行するときはローレンジモードに切り替えてください。

スタック（立ち往生）したとき

アクセルを踏み込み続けると、穴が深くなるばかりで脱出が困難になります。また、タイヤが破裂したり、異常に過熱して事故につながります。ローレンジモードにすると脱出しやすくなります。

効果的な脱出方法：

① タイヤの前後にある土や雪を取り除く。
② タイヤの下に木や石をあてがう。
③ タイヤチェーンを装着する。
④ 前進、後退を繰り返し惰性を利用する。

注　意！

脱出するときは必ず周囲の安全を確認してください。

OVM01155

障害物、砂利道、わだち（走行跡）を走行するとき

◇障害物が車の底面、車体やサスペンション部分にダメージを与えないように注意してください。

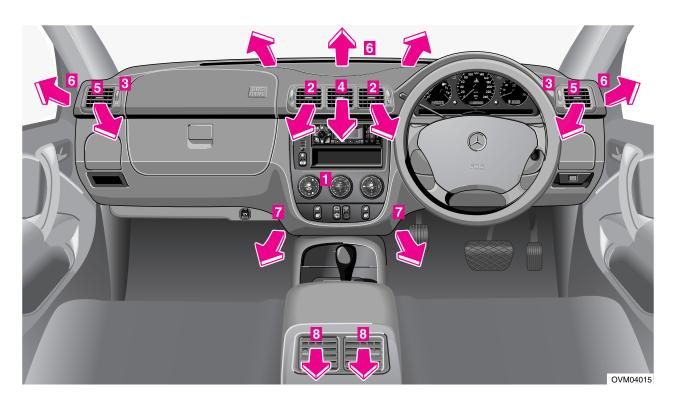
◇岩や穴、切り株、わだちなどの障害物を乗り越えることは避けてください。
やむをえず切り株や岩などを越えなければならないときは、同乗者に確認してもらいながら、ゆっくり車体を動かしてください。

◇他の車が残した浅いわだちをなぞると、走行しやすいうえに車へのダメージも少なくなります。
ただし、他の車が残したわだちが深い場合は、車の底部が接触して走行が困難になることもありますので注意してください。

5. 快適・室内装備

エアコンディショナー

エアコンディショナー（クライメートコントロール）は、設定温度や外気温度などに応じて、送風量や送風口などを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。エアコンディショナーはエンジンが回転しているときに作動します。

各部の名称

1. フロントコントロールパネル
2. 中央送風口開閉ダイヤル
3. 左右送風口開閉ダイヤル
4. 中央送風口
5. 左右送風口
6. ウィンドウ送風口
7. 足元送風口
8. リア送風口

送風口の操作

・中央と左右の送風口は、開閉ダイヤルを上に回すと開き、下に回すと閉じます。
・送風口のノブを上下左右に動かして風向きを調節します。

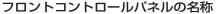
●エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒R134aを使用しています。
●地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ず指定サービス工場にご相談ください。

注　意！

◆皮膚の弱い方は、送風口に身体を近づけすぎないように注意してください。
◆ボンネットとフロントウィンドウ間の外気導入口を雪などでふさがないでください。

知　識

◇設定温度をむやみに替えても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。エンジン冷却水、外気、車内の各温度などを感知し、最適な送風量と送風温度に制御されます。
◇日なたでの駐車後などは、ウィンドウを開けて先に車内の熱気を逃がしてからエアコンディショナーをONにしてください。
◇冷房時は、除湿された水分がボディ下側に水滴となって排出されます。

フロントコントロールパネルの名称

1　風量調整ダイヤル
2　温度調整ダイヤル
3　送風口切り替えダイヤル
4　デフロスタースイッチ
5　内気循環スイッチ
6　オートスイッチ
7　ACオフ／余熱ヒータースイッチ
8　リアデフォッガースイッチ（3-67ページ）
9　リアエアコンディショナー停止スイッチ
10　室内温度センサー

注　意！

室内温度センサーには、触れないでください。

通常の使いかた

オートモード

オートスイッチ6を押すと、「オートモード」で作動し、風量・送風口の切り替えが自動で制御されます。
オートモードのときは、オートスイッチ6の表示灯が点灯し、温度調整ダイヤル2を回して設定温度を変更します。

フルオートモード

オートスイッチ6を3秒以上押し続けると、「フルオートモード」で作動し、温度・風量・送風口の切り替えが自動で制御されます。
フルオートモードのときは、設定温度は22度に自動調整されます。

マニュアルモード

オートモードのときにオートスイッチ❻を押すと「マニュアルモード」として作動します。
マニュアルモードに切り替わると、オートスイッチ❻の表示灯が消灯し、風量ダイヤル❶は**2**の位置に、送風口切り替ダイヤルは▲▼の位置にインジケータが点灯します。

知　識

◇温度調整ダイヤル❷を反時計方向へいっぱいに回し青いマークの位置にすると急速冷房モードになります。
時計方向へいっぱいに回し赤いマークの位置にすると急速暖房モードになります。
オートモードでは、自動的に風量が最大になります。マニュアルモードでは風量調整ダイヤルを回して、風量を最大にしてください。

◇急速冷房を行なっているときは、自動的に内気循環に切り替わり冷房効率を高めます。このとき内気循環スイッチの表示灯は点灯しません。

◇車外の湿度が高いときにフロントウィンドウの外側が曇ることがあります。このときは、フロントウィンドウに冷気が当たらないように送風口を切り替えると曇りが軽減されます。

◇冷房時、湿った空気が急に冷やされて霧が吹き出したように見えることがありますが、異常ではありません。

◇冷房は、エンジンが回転しているときに作動します。

◇エアコンディショナーを使用しないときでも、システムを良好な状態に保つため、1カ月に1回、約10分間はコンプレッサーを作動させてください。

◇マイクロフィルターを装着しているため、定期的にマイクロフィルターを交換してください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

フルオートモード設定温度の変更

フルオートモード時の設定温度は、以下の手順で変更することができます。

① 温度調整ダイヤル**2**を回し、希望の温度に合わせます。

② オートスイッチ**6**を10秒以上押すと、この温度がフルオートモード使用時の設定温度として記憶されます（約3秒後にいったん以前の設定温度が点灯しますが、押し続けると新らしい温度が記憶されます）。

風量・送風口の変更（マニュアルモード）

フルオートモード／オートモード使用時に風量ダイヤル**1**または送風口切り替えダイヤル**3**を回すと、フルオートモード／オートモードは解除され、マニュアルモードとして使用できます。風量と送風口はそれぞれのダイヤルで変更することができます。

このときオートスイッチ**6**の表示灯が消灯し、風量ダイヤル**1**と送風口切り替えダイヤル**3**にインジケーターが点灯します。

送風口の表示：

- ▭▭：中央、左右送風口など
- ▲：フロントウィンドウ、左右送風口など
- ▼：足元に送風（左右送風口、足元など）
- ▲▼：中央、左右送風口、足元、フロントウィンドウなど

オートモードに戻したいときは、オートスイッチ**6**を押します。

フルオートモードに戻したいときは、オートスイッチ**6**を3秒以上押します。

スイッチの使いかた

デフロスタースイッチ

スイッチを押すと表示灯が点灯し、フロントウィンドウとドアウィンドウに最大風量と最高温度の設定で送風し、ウィンドウの曇りを取ることができます。

知　識

◇フロントウィンドウへの送風量を増やすため、後席への送風は自動的に停止します。
◇デフロスターが作動しているときは、リアデフォッガー以外の設定ができなくなります。

デフロスタースイッチまたはオートスイッチ6をもう一度押すと元のモードに戻り、表示灯が消灯します。

知　識

曇りがとれたら、すみやかにデフロスターを解除してください。

内気循環スイッチ

車外に異臭がするときやトンネル内など、一時的に外気導入を中止することができます。

スイッチを押すたびに外気導入と内気循環を切り替えます。
内気循環のときは表示灯が点灯します。

内気循環モードは一定時間を経過すると、外気導入モードへ自動的に切り替わり、表示灯が消灯します。
・エアコンディショナー使用時：約30分後
・エアコンディショナー未使用時：約5～10分後
・外気温度7℃以下のとき：約5分後

注　意！

外気温度が5℃以下のとき、内気循環にするとウィンドウが曇りやすくなります。

知　識

◇急速冷房を行なっているときは、自動的に内気循環に切り替わり冷房効率を高めます。このとき表示灯は点灯しません。
◇内気循環モードは以下の操作を行なったとき、自動的に外気導入モードへ切り替わります。
- デフロスタースイッチ4を押したとき。
- ACオフスイッチ7を押したとき。
- マニュアルモードでオートスイッチ6を押したとき。

ACオフスイッチ

コンプレッサーが停止し、エアコンディショナーの冷房と除湿をOFFにすることができます。
コンプレッサーを停止させることで燃料消費量が少なくなります。

スイッチを押すたびにONとOFFを切り替えます。
コンプレッサーが停止しているとき、表示灯が点灯します。

知　識

◇ACオフスイッチをONにするとウィンドウの内側が曇りやすくなります。使用は短時間にとどめてください。
◇ACオフスイッチがONになっているときは、温度調整ダイヤル**2**を回しても室内温度は外気温度以下になりません。

余熱ヒータースイッチ

エンジンを停止した後でも、エンジン冷却水の余熱で室内を暖房することができます。

エンジンスイッチが**0**か**1**の位置、またはキーを抜いても使用できます。
スイッチを押すと作動し、もう一度押すと停止します。
作動中は表示灯が点灯します。

以下のとき、余熱ヒーターは自動的に作動を停止します。
・エンジンスイッチを**2**に回したとき
・作動後約30分経過したとき
・バッテリー電圧が低下したとき

知　識

◇エンジン冷却水の温度が低いときは、作動しないことがあります。
◇このスイッチを操作しても冷房および除湿はできません。

リアエアコンディショナー停止スイッチ

後席への送風を停止することができます。

スイッチを押すと表示灯が点灯します。
表示灯が点灯している間は、リアコントロールパネルが使用できなくなり、後席への送風も停止します。

もう一度スイッチを押すと表示灯が消灯します。
後席への送風が開始され、リアコントロールパネルが使用できます。

リアコントロールパネル

後席操作用にセンターコンソール後部にリアコントロールパネルがあります。
リアコントロールパネルはリアエアコンディショナー停止スイッチ9の表示灯およびデフロフタースイッチ4の表示灯が消灯しているときに使用することができます。

リアコントロールパネルのオートスイッチ3を押すと、フロントコントロールパネルの設定に従い温度・風量・送風切り替えが自動で制御されます。
オートモードのときは、オートスイッチ3の表示灯が点灯します。

オートモード使用時に風量スイッチ1または送風方向切替スイッチ2を押すと、オートモードの作動は解除され、後席で独立した風量と送風方向に設定することができます。
このときオートスイッチ3の表示灯が消灯し、風量スイッチ1と送風口切替スイッチ2の外周のインジケーターが点灯します。

▲：リア送風口からの送風量が増加します。
▼：フロントシート下の足元からの送風量が増加します。

オートモードに戻したいときは、オートスイッチ3を押します。
このときオートスイッチ3の表示灯が点灯します。

後席のエアコンディショナーを止めたいときは、送風が停止するまで風量スイッチ1の下側を押します。または、フロントコントロールパネルのリアエアコンディショナー停止スイッチ9を押してください。

安全なドライブのために
安全装備
運転するまえに
運転するとき
快適・室内装備
万一のとき
車との上手なつきあいかた
点検と整備・サービスデータ
さくいん

リア送風口

フロントシート下側とセンターコンソール後部に後席乗員用のリア送風口があります。

風向きの調整

風向き調整ノブ 1 2 を上下、左右に動かします。
また、リアコントロールパネルの送風方向切替スイッチでフロントシート下側またはリア送風口に送風方向を調整できます（5-9ページ）。

OVM04016

フロントルームランプ

フロントドアが閉じているとき、矢印部分を押すたびに点灯／消灯に切り替わります。
リモートトコントロール機能でフロントドアを解錠したとき、またはフロントドアを開いたときに自動的に点灯し、閉じると約10秒で消灯します。

知　識

自動的に点灯したルームランプは、エンジンスイッチを**2**の位置にするとただちに消灯します。

注　意！

◆車を施錠したときは、ルームランプが消灯することを確かめてください。
◆手動で点灯させたときは、もう一度矢印部分を押さないと消灯しません。車を離れるときは消灯していることを確認し、バッテリーあがりに注意してください。
◆フロントルームランプの中央の部分は、ガレージ用のリモートトコントロールを収納する場所です。リモートトコントロールを収納していないときに、黒いカバーを押すとカバーが破損するおそれがあります。
ただし、日本仕様には収納場所に適合したリモートトコントロールの設定はありません。

知　識

◇フロントドアを開いたときに点灯したフロントルームランプは、フロントドアを開いた状態でも約30分後に自動的に消灯します。
◇ライトスイッチをOFFにした後、エンジンスイッチをOFFにすると、ルームランプが約10秒間点灯します。
◇ルームランプスイッチ（5-12ページ）を消灯の位置にしているときは、フロントルームランプは点灯しません。

ルームランプスイッチ

ドアを開いたときのフロントルームランプ／リアルームランプの点灯／消灯をルームランプスイッチで設定することができます。また、リアルームランプを点灯／消灯することもできます。

ルームランプ点灯のしかた

スイッチを中立の位置にします。フロントドアを開くとフロントルームランプが、リアドアを開くとリアルームランプが自動的に点灯し、閉じると約10秒で消灯します。

リアルームランプを点灯させるとき

スイッチの1を押します。リアルームランプが点灯します。

リアルームランプを消灯させるとき

スイッチの1をもう一度押します。リアルームランプが消灯します。このとき、リアルームランプをリアルームランプスイッチで点灯させていても消灯します。

知　識

◇個々のルームランプのスイッチを押すことで個別に点灯することができます。

◇フロントルームランプのスイッチで点灯している場合でも、ルームランプスイッチ2を押すとすぐに消灯します。

ルームランプ消灯のしかた

スイッチの2を押します。フロントドア／リアドアを開いてもルームランプは点灯しません。また、フロントルームランプを押しても点灯しません。

リアルームランプ

リアドアが閉じているとき、矢印部分を押すたびに点灯／消灯が切り替わります。また、リモートコントロール機能でドアを解錠したとき、またはリアドアを開いたときに点灯し、リアドアを閉じると約10秒後に消灯します。

知　識

◇リアドアを開いたときに点灯したリアルームランプは、リアドアを開いた状態でも約30分後に自動的に消灯します。

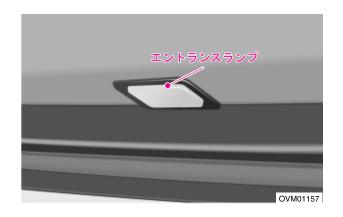
◇リアルームランプを手動で点灯させたときは、自動的に消灯しません。

ラゲッジルームランプ

ランプ本体のスイッチには3つの位置があります。

1の位置　：常時消灯します。

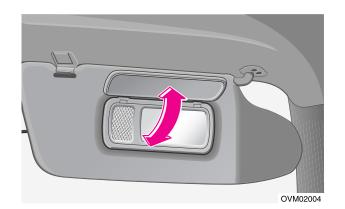
2の位置　：常時点灯します。

3の位置　：テールゲートを開くと点灯し、閉じると消灯します。

エントランスランプ／フロントレッグルームランプ

エントランスランプ／フロントレッグルームランプはルームランプと連動しており、ドアを開くと点灯し、ドアを閉じると消灯します。

エントランスランプ
フロントドアとリアドアの下部に装備しています。

フロントレッグルームランプ
インストルメントパネルの下部に装備しています。

OVM01159

サンバイザー

直射日光などが眩しいときに使用します。
横からの光が眩しいときは、サンバイザーをフックから外して横に回すこともできます。

バニティミラー

カバーを上方に開きます。
エンジンスイッチが**1**または**2**のとき、サンバイザーの裏側にあるバニティミラーのカバーを開くと照明が点灯します。
使用後はバニティミラーカバーを閉じ、サンバイザーを上げます。

⚠ 警　告

眩惑を防ぐため、走行中はミラーカバーを閉じてください。

灰皿

灰皿はセンターコンソールの前部と後部にあります。

フロントの灰皿

開くとき　：カバーの上部を軽く押します。
閉じるとき：カバーを押して閉じます。

注　意！

開くときはカバーの下部を押さないでください。カバーの開閉機構を損傷するおそれがあります。

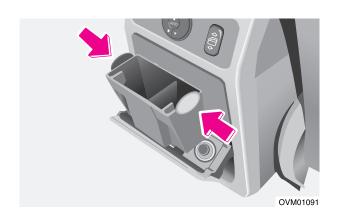
取り外すとき　：レバーを右方向に押して灰皿を上方に抜き取ります。
取り付けるとき：灰皿が確実に固定されるまで押し込みます。

⚠ 警　告

セレクターレバーが P のときに灰皿の取り外し／取り付けを行うと、セレクターレバーと灰皿の距離が近いため、誤ってセレクターレバーに触れ、車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。必ずエンジンを停止させた状態で駐車ブレーキを確実に効かせ、エンジンスイッチを2の位置にし、セレクターレバーを N に入れて、灰皿の取り外し／取り付けを行なってください。

OVM01091

リアの灰皿

開くとき　　　：カバーの上部を軽く押します。
閉じるとき　　：カバーを押して閉じます。
取り外すとき　：灰皿をいっぱいに開き、矢印の位置を押しながら上に引き出します。
取り付けるとき：灰皿が確実に固定されるまで押し込みます。

注　意！

◆吸いがらやマッチなどを灰皿に捨てるときは、完全に火を消してください。
◆灰皿の中に紙などの燃えやすい物を捨てないでください。火災が発生するおそれがあります。
◆リアシートのバックレストを倒すときは、リアの灰皿を閉じてください。

シガーライター

シガーライターは、フロントとリアの灰皿カバーの中にあります。
エンジンスイッチが**1**か**2**の位置のとき使用できます。
シガーライターを押し込んで元の位置に戻るのを待ち、抜いて使用します。
使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻してください。

⚠ 警　告

シガーライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。

注　意！

◆安全のため、子供を乗せるときはライターを抜き取ってください。
◆シガーライターを押し込んだ後、押さえつづけないでください。ライターを損傷したり火災が発生するおそれがあります。
◆赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。
◆シガーライターを改造したり、純正品以外のシガーライターを使用しないでください。ライターが戻らなかったり、飛び出したりするおそれがあります。
◆シガーライターが戻らなくなったときは、エンジンスイッチを**0**の位置にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、指定サービス工場に連絡してください。

知　識

ライターのソケットは定格消費電力が50Wまでの電気アクセサリーとしても使用できますが、エンジンが停止した状態で長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

OVM04013

電源ソケット

助手席とラゲッジルームに電源ソケットが装備されています。
電源ソケットには常時DC12Vが供給されています。
使用するときはカバーを上方に開きます。
アクセサリー製品などの電源として使用してください。

注　意！

◆必ずDC12Vの規格に合ったアクセサリー製品を使用してください。また、最大消費電力が180Wを越えないアクセサリー製品を使用してください。規格外のアクセサリー製品を使用するとヒューズが切れたり、火災が発生するおそれがあります。
◆指などを入れないでください。感電するおそれがあります。
◆エンジンが停止した状態で長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。
◆電源ソケットを使用しないときはカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障の原因になることがあります。

知　識

電源ソケットにシガーライターを差し込んでも使用できません。

グローブボックス

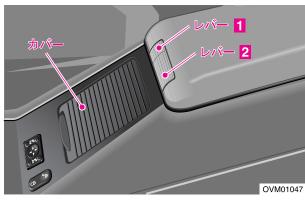
開くとき　：ハンドルを引いて開きます。
閉じるとき：確実に固定するまでカバーを押します。

エンジンスイッチが**1**または**2**のとき、グローブボックスを開くと照明が点灯します。

⚠ 警　告

走行中は、必ずグローブボックスのカバーを閉じてください。万一のとき、乗員がグローブボックスのカバーにぶつかったり、内部の収納物が放り出されるおそれがあります。

注　意！

貴重品はグローブボックス内に保管しないでください。

フロントアームレストの小物入れ

上段と下段の2段および前側の計3ヶ所に収納できます。

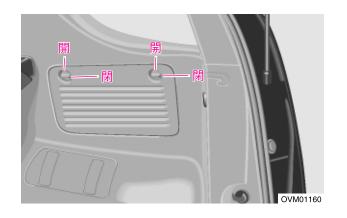
・レバー1を押して開くと、上段の小物入れを使用できます。また、アームレストの裏側には、コインホルダーがあります。
・レバー2を引いて開くと、下段部分が開きます。

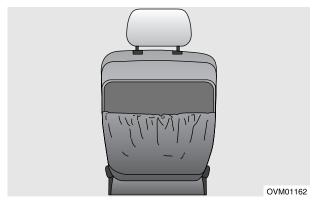
前側の収納部は、カバーを後方にスライドさせて開きます。

⚠ 警　告

走行中は、必ずアームレストの小物入れを閉じてください。緊急ブレーキや事故のときなどに内部の収納物が放り出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

注　意！

貴重品はアームレストの小物入れに保管しないでください。

ラゲッジルームの小物入れ

小物入れはラゲッジルームの右側にあります。
小物入れにはジャッキと工具、CDオートチェンジャーが収納されています。
左右のノブを回して開きます。

シートバックポケット

フロントシートの後側に地図や雑誌などを入れることのできるポケットが装備されています。

注　意！

シートバックポケットには重い物や鋭い角のある物を入れないでください。ポケットが損傷するおそれがあります。

カバー

OVM01163

カップホルダー

注　意！

◆火傷防止のため、熱い飲み物を置かないでください。
◆カップホルダーのサイズにあったカップを置いてください。
◆走行中はカップホルダーを使用しないでください。

フロント

インストルメントパネルの左右にあります。
使用するとき　：カバーの上部を押して開きます。
収納するとき　：カバーを押して閉じます。

リア

センターコンソールの後側にあります。
使用するとき：カバーの上部を軽く押します。
収納するとき：カバーを押して閉じます。

OVM01049

注　意！

リアシートのバックレストを倒すときは、リアのカップホルダーを収納してください。

アシストグリップ

フロントウィンドウとリアウィンドウの上部に、アシストグリップが装備されています。コーナリング時の姿勢保持などに使用します。
リアのアシストグリップには、コートフックが装備されています。

⚠ 警　告

SRSウィンドウバッグの作動を妨げたり、作動時に物が飛んで乗員がけがをするおそれがありますので、以下の点に注意してください。

- **アシストグリップにハンガーやアクセサリーなど物をかけないでください。**
- **コートフックには軽く柔らかい衣服以外の物をかけないでください。**
- **コートフックを使用するときはハンガーなどを使用しないでください。**

注　意！

◆アシストグリップにぶらさがったり、必要以上の大きな荷重をかけないでください。アシストグリップが破損することがあります。
◆運転者は走行中にアシストグリップを使用しないでください。
◆コートフックを使用するときは、衣服が運転者の視界の妨げにならないようにしてください。

6. 万一のとき

事故が起きたとき

⚠ 警　告

燃料などが漏れている場合は、すぐにエンジンを停止してください。また、車に火気を近づけないでください。火災や爆発のおそれがあります。

あわてずに以下の処置をとってください。

① 続発事故を防いでください。他の交通の妨げにならないような安全な場所に車を停車し、エンジンを停止してください。

② 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、負傷者が頭部に傷を負っている場合は、負傷者を動かさないでください。
続発事故のおそれがあるときは安全な場所に移動してください。

③ 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。

④ 相手側の氏名や住所、電話番号などを確認してください。

⑤ お買い上げの販売店と保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所へ車を移動し、非常点滅灯を作動させてください。

高速道路や自動車専用道路では、後続車によくわかるように停止表示板を車の後方に置くことが義務づけられています。また、後続車に追突されるおそれがありますので、車内の乗員を安全な場所に避難させてください。

路上で動けなくなったとき

同乗者や付近の人に救援を求めて安全な場所まで押してもらいます。このとき、エンジンスイッチは**2**の位置に回し、セレクターレバーを**N**に入れ、駐車ブレーキを解除して、ゆっくりと移動させます。

踏切内で動けなくなったとき

上記の方法で、同乗者や付近の人に救援を求めて安全な場所まで押してもらいます。車を移動できないときは、ただちに乗員を安全な場所へ避難させます。踏切警報機に設置してある非常ボタンを押して列車に踏切内で車が止まっていることを知らせます。

非常点滅灯

故障や事故などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。
非常点滅灯は、エンジンスイッチの位置に関係なく、またキーを抜いていても使用できます。
スイッチを押すとすべての方向指示灯とスイッチのランプが点滅します。
解除するときは再度スイッチを押します。

注　意！

◆非常時以外は使用しないでください。
◆エンジンを停止して長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

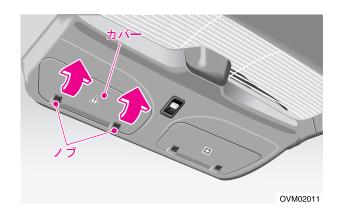
知　識

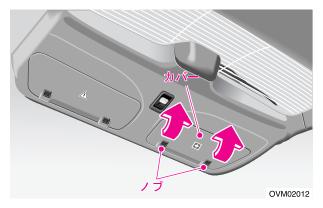
エアバッグが作動すると、非常点滅灯が自動的に点滅します。自動的に点滅した非常点滅灯を解除するときは、スイッチを2度押します。

非常信号用具

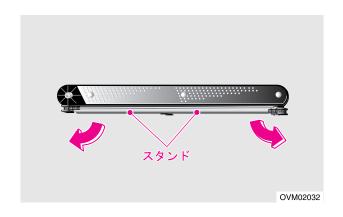
非常信号用具として赤色灯付き懐中電灯がドアポケットに収納されています。

知　識

◇新車時は電池の放電を防止するため、電池の間に紙が入っています。使用するときは紙を取り外してください。長い間使用しないときは電池を外しておくか、紙を挟んでください。
◇懐中電灯は定期的に点検し、充分な明るさで点灯することを確認してください。

停止表示板、救急セット

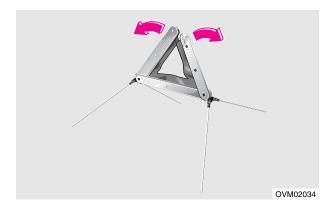
停止表示板はテールゲートの右側小物入れの中に収納されています。
ノブを矢印の方向に引いてカバーを取り外します。

救急セットはテールゲートの左側の小物入れの中に収納されています。
ノブを矢印の方向に引いてカバーを取り外します。

注　意！

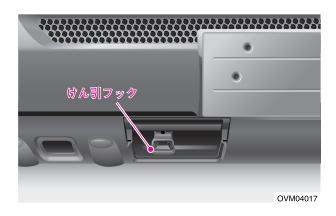
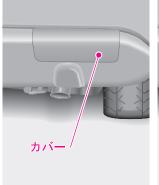
救急セットの備品を使用したときは、すべての品が揃うように補充してください。
また、定期的に状態を点検してください。

停止表示板の使いかた

① 右側のスタンドを右方向に引き出し、次に左側のスタンドを左方向に引き出します。

② 左右のスタンドを拡げて地面に立てます。

※：車種により形状が一部異なる場合があります

③ 両側の反射板を引き出し、頂点をかみ合わせてロックします。

けん引してもらうとき

注　意！

◆けん引してもらうときは、専門業者に依頼してください。やむを得ずけん引しなければならないときは支障がない限りけん引される車のエンジンを停止しないでください。エンジンが停止していると、ブレーキ倍力装置やパワーステアリングに動力の補助がないため、通常のときに比べて操作に非常に大きな力が必要です。

◆他車でけん引してもらうときは、以降に記載する説明にしたがってください。

フロント

フロント側のけん引フックはフロントバンパーのナンバープレート右側下方のカバーの中にあります。
カバーは、ドライバーなどを差し込んで外します。

リア

リア側のけん引フックはリアバンパー右側下方のカバーの中にあります。
カバーは、ドライバーなどを差し込んで外します。

けん引の手順

① ロープをけん引フックにかけます。
② 車間距離が5m以内になるようにロープを結びます。
③ ロープの中央に白い布（30cm四方以上）を付けます。
④ エンジンを始動できるときは、エンジンを回転させ、セレクターレバーを **N** に入れます。
エンジンが始動できないときは、エンジンスイッチを**2**に回し、セレクターレバーを **N** に入れます。

エンジンまたはトランスミッションが損傷した場合

けん引距離が50km以内の場合は、セレクターレバーを **N** に入れてください。また、けん引距離が50kmを越えないようにしてください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。
けん引距離が50kmを越える場合、またはトランスミッションが損傷している場合は、トランスファとリアアクスル間のプロペラシャフトを取り外してください。

注　意！

前輪または後輪だけを持ち上げてけん引するときは、車速感応ドアロックを解除（3-18ページ）し、セレクターレバーを **N** に入れエンジンスイッチを**1**にしてください。

トランスファが損傷した場合

トランスファとアクスル間のプロペラシャフトを取り外してください。

フロントアクスルが損傷した場合

トランスファとリアアクスル間のプロペラシャフトを取り外し、前輪を持ち上げてけん引してください。

リアアクスルが損傷した場合

後輪を持ち上げてけん引してください。この場合、前輪は必ず台車に載せてください。

注　意！

◆エンジンを停止した状態でけん引走行するときでも、エンジンスイッチからキーを抜き取らないでください。ステアリングロックが作動し、ステアリング操作ができなくなります。
◆プロペラシャフトの取り付けナットは再使用できません。プロペラシャフトを取り付けるときは、必ず新品の取り付けナットを使用してください。
◆けん引するときは、駆動装置などを損傷するおそれがあるので、以下の事項を守ってください。
◇陸送用トレーラなどを使用し、できるだけ4輪を持ち上げた状態で搬送してください。

◇やむを得ず車の前輪または後輪を上げてけん引するときは、プロペラシャフトを外してください。
◇車の前輪または後輪を上げてけん引するときは、エンジンスイッチを**2**にしないでください。ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）が作動し、接地している車輪のブレーキが作動します。

◆長い坂道、急な坂道を下るときは、陸送用トレーラなどを使用してください。ブレーキが効かなくなるおそれがあります。
◆けん引の速度は30km/h以下です。
◆けん引する車との車間距離は5m以内です。
◆けん引フック以外のところにロープをかけないでください。車を損傷するおそれがあります。また、けん引フックはけん引にのみ使用してください。
◆自車より重い車のけん引や、けん引フックに大きな衝撃が加わるようなけん引をしないでください。取り付け部が変形、損傷するおそれがあります。ゆっくりと慎重に引いてください。
◆けん引ロープをたるませないように、前の車のブレーキランプに注意してください。
◆車を押すときは、車速感応ドアロックの設定を解除してください。車速感応ドアロックを設定した状態でホイールが回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

スペアタイヤを使用するとき

⚠ 警　告

●応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず80km/h以下で走行してください。短い時間の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。

●応急用スペアタイヤと標準タイヤの、サイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行特性が大きく変化します。注意して走行してください。

注　意！

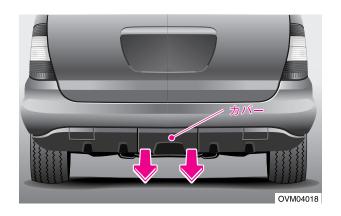
◆車に装備されている応急用スペアタイヤはこの車専用です。他の車に使用したり、代わりに他の車のスペアタイヤを使用しないでください。事故などの原因になることがあります。

◆応急用スペアタイヤは、パンクしたときなど、一時的に使用します。できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

◆応急用スペアタイヤの取り出しを行うときは必ず軍手など手袋を着用してください。

◆応急用スペアタイヤを2本以上装着して走行しないでください。

◆応急用スペアタイヤの溝が摩耗限度になったら、直ちに新品と交換してください。

◆摩耗具合にかかわらず、6年以上経過したタイヤは新品と交換してください。

スペアタイヤ

応急用スペアタイヤは車両後部の床下のキャリアに格納されています。

スペアタイヤを取り出すとき

① バンパー中央にあるカバーを手前に引いて外します。

注　意！

カバーを外すときは、中央部を持たないでください。カバーが損傷するおそれがあります。

爪
レバー
固定ボルト
OVM04019

OVM04031

注　意！

キャリアを手前に引き寄せるときに、応急用スペアタイヤの荷重がかかり、キャリアが自重で後方へ移動するので、キャリアを確実に握りキャリアを持ち上げながら引き寄せてください。

② ホイールレンチ（6-12ページ）でキャリア固定ボルトを完全にゆるめます。
③ キャリアを持ち上げて保持します。
④ ドライバーでレバーを上側に押し、爪を矢印の方向へ開いて、キャリアを降ろします。
⑤ 応急用スペアタイヤとキャリアを手前に引き寄せます。
⑥ 応急用スペアタイヤ中央のノブを左に回して外します。
⑦ カバーと応急用スペアタイヤをキャリアから取り外します。

スペアタイヤを収納するとき

応急用スペアタイヤの収納は、取り外すときと逆の手順で行ないます。

注　意！

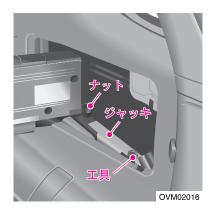
◆パンクした標準タイヤはキャリアに収納できません。パンクした標準タイヤは車載の収納袋へ入れてラゲッジルームへ収納してください。
◆定期的に応急用スペアタイヤの取り付け状態を点検し、キャリア固定ボルトがゆるんでいないことを確かめてください。

知　識

応急用スペアタイヤをキャリアに収納するときは、矢印の凹みの部分をキャリアの凸部に合わせて収納します。

OVM01112

OVM02016

OVM01165

ジャッキ、工具

ジャッキと工具はラゲッジルーム右側の小物入れの中に固定されています。

ジャッキを取り外すとき

① ラゲッジルーム右側のカバーを取り外します(5-22ページ)。
② CDオートチェンジャーを固定しているダイヤルをゆるめ、引き出します。
③ ジャッキを固定しているナットを左に回して取り外します。
④ ジャッキを持ち上げてジャッキ後部から引き出します。

ジャッキを収納するとき

① アームを最下部まで下げてから、ハンドルを折りたたみます。
② 取り外しと逆の手順で収納します。

⚠ 警　告

●ジャッキアップ中は、どんな場合でも車の下に身体を入れたり、もぐり込んだりしないでください。万一、ジャッキが外れると重大なけがをするおそれがあります。
●ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。

注　意！

ジャッキを使用するときは、同乗者や荷物を車から降ろしてください。

工具

ホイールレンチはジャッキ側面に取り付けられており、ドライバーが収納されています。

タイヤ交換

タイヤ交換は、地面が固く水平で、充分に安全を確保できる場所で行ってください。

⚠ 警　告

●ジャッキアップ中は、どんな場合でも車の下に身体を入れたり、もぐり込んだりしないでください。万一、ジャッキが外れると重大なけがをするおそれがあります。

●ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。

●路上でタイヤ交換をするときは、車の後方に充分注意しながら停止表示板を置き、非常点滅灯を作動させてください。

注　意！

◆ジャッキアップする前に同乗者や荷物を車から降ろしてください。

◆ジャッキアップ中は、ドアやテールゲートを開閉しないでください。

◆タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、車速感応ドアロック（3-18ページ）の設定を解除してください。車速感応ドアロックを設定した状態でホイールが回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

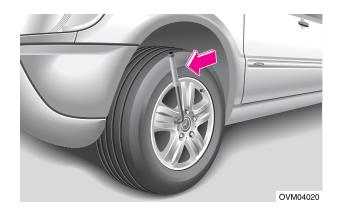
① 安全な場所に停車後、駐車ブレーキを確実に効かせてから、セレクターレバーを **P** に入れ、エンジンを停止します。ステアリングを直進状態にしてキーを抜き、ステアリングをロックします。

② ジャッキ、スペアタイヤ、ホイールレンチを準備します。

③ 交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤに輪止めをします。やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、交換するタイヤの反対側の前後のタイヤの下り側に輪止めをします。

知　識

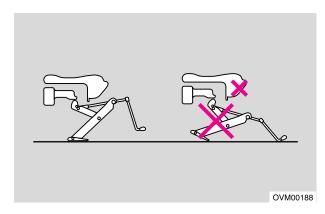
輪止めは車に装備されていません。市販のタイヤストッパか、適当な大きさの木片か石を上記の手順に従って必ず使用してください。

OVM04020

④ ホイールレンチで交換するタイヤのホイールボルト（5本）を矢印の方向に一回転ほどゆるめます。まだホイールボルトは外さないでください。

注　意！

◆ホイールレンチを使用しているとき、ホイールボルトから外れるとけがをしたり、ボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込む
- 足で踏んで回さない
- 両手で握り、ホイール側に押しつけるようにしながら回す

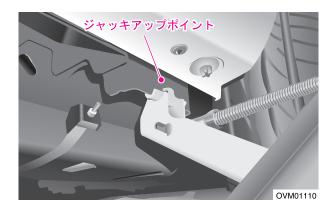
OVM00188

⑤ 交換するタイヤに近いジャッキアップポイントにジャッキをセットします。

注　意！

◆ジャッキがジャッキアップポイントに完全にセットされていることを確認してください。

◆ジャッキは側面から見て車に対して垂直になるように取り付けてください。（傾斜地であっても同様です）

◆車載のジャッキはこの車専用です。以下の点に注意してください。

- 舗装された固く、平らな地面で使用する
- この車のタイヤ交換以外には使わない
- 不具合や損傷があるときは使わない
- ジャッキアップポイント以外の場所に使わない

知　識

ジャッキアップポイントは前輪の後方、後輪の前方のボディ下部に計4カ所設けられています。

⑥ ジャッキのハンドルを右に回し、タイヤが地面から約3cm離れるまで、ゆっくりとジャッキアップします。

⚠警　告

●ジャッキアップ中は、どんな場合でも車の下に手や足を入れたり、もぐり込んだりしないでください。万一、ジャッキが外れると重大なけがをするおそれがあります。

●ジャッキアップしているときは、エンジンをかけないでください。

注　意！

車を持ち上げているときは、エンジンを始動したり、駐車ブレーキを解除しないでください。ジャッキが外れ、車が落下するおそれがあります。

⑦ ゆるめたホイールボルトを外し、タイヤを交換します。

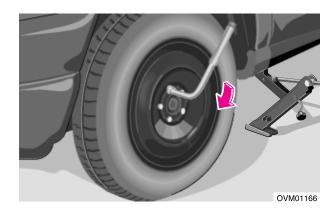
注　意！

◆取り外したホイールボルトは地面に置かないでください。
◆タイヤは、ホイールの外側を上向きにして水平に置いてください。外側を下向きに置くと、ホイールに傷がつきます。
◆ホイールを外したときは、ホイールの内側を充分に清掃し、点検をしてください。リムのへこみや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

⑧ スペアタイヤを装着する前に、ホイール取り付け面とホイール側の接触面を清掃し、錆や汚れを取り除いてください。

注　意！

◆ホイールボルトが損傷していたり、ねじ山に錆があるときは新品と交換してください。
◆ホイールボルトを取り付ける前に泥などの汚れや油脂分を取り除いてください。ねじ山に汚れや油脂分が付着していると正しく締め付けることができず、走行中にボルトがゆるむおそれがあります。
◆ホイールボルトには、グリースやエンジンオイルなどの油脂を塗布しないでください。
◆ホイールハブのネジ山に傷が付いたときは、すぐに指定サービス工場で修理してください。

OVM01166

⑨ ホイールを取り付け、ホイールボルトを軽く締め付けます。

⚠ 警　告

ジャッキアップした状態で、ホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いで、ジャッキが外れるおそれがあります。

知　識

スペアタイヤが回転方向の指定されたタイヤの場合、取り付ける位置によって、回転方向が逆向きになってしまうことがあります。応急的な走行には支障ありませんが、すみやかに標準タイヤに戻してください。

⑩ 車を下げてからジャッキを外し、ホイールボルトを図の順序1～5で数回に分けて締め付けます。

ホイールボルト締め付けトルク：15kg-m（150Nm）

タイヤ交換後は、すみやかに指定サービス工場で締め付けトルクを確かめてください。

注　意！

◆ホイールレンチを使用しているとき、ホイールボルトから外れるとけがをしたり、ボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールボルトに止まるまで確実に差し込んでください。
- 回すときは足で踏まないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押しつけるようにしながら回してください。

◆ホイールレンチに、パイプなどを取り付けて必要以上に締め付けないでください。ホイールボルトを損傷するおそれがあります。

⑪ ジャッキ、ホイールレンチなどを所定の位置に、外した標準タイヤは車載の収納袋へ入れてラゲッジルームに収納します。

⚠警　告

●ホイールボルトは、ホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のホイールボルトを使用すると、走行中にボルトがゆるみホイールが脱落して重大な事故を起こすおそれがあります。
●タイヤの空気圧が低いままで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂するおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
●タイヤに空気を入れすぎないでください。空気圧が高すぎると、路上の金属破片やガラス片などにより損傷を受けたり、パンクを起こしやすくなります。必ず規定の空気圧を守ってください。
●応急用スペアタイヤに交換したときは、必ず80km/h以下で走行してください。できるだけ短い距離の使用にとどめ、できるだけ早く標準タイヤに戻してください。標準タイヤに戻さないと車の安定性や操縦性が確保できない場合があります。
●どんな場合でもタイヤの許容最高速度を超えないでください。許容速度を超えると、タイヤが過熱して破裂するおそれがあります。
- 冬用タイヤ装着時は、そのタイヤの許容速度を確かめてください。

注　意！

◆タイヤに空気を入れてもすぐに空気圧が低下するようなときは、タイヤのパンク、ホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどを点検してください。
◆ジャッキ、ホイールレンチを使用した後は、必ず元の位置に収納してください。

タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルを燃料給油フラップ内側に貼付しています。ラベルはシンボル表記になっており、前輪、後輪、スペアタイヤの空気圧をそれぞれ「bar(=kg/cm^2）単位」と「psi（インチ単位)」で示しています。たとえば、「2.0bar」は「2.0kg/cm^2」になります。

知　識

走行直後や炎天下のようにタイヤ自体が高温になっているときは、約0.3 bar（kg/cm^2）程度空気圧が高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。

オーバーヒート

エンジンがオーバーヒート（エンジン過熱）を起すと、以下のような現象が起こります。

◇水温計の指針がオレンジ色の部分（120℃）付近を示している。

◇エンジンルームから蒸気が出たり、冷却水が噴き出している。

⚠ 警　告

●エンジンルームから蒸気が出たり、冷却水が噴き出しているときは、ただちに安全な場所に停車し、エンジンを止めて車から離れてください。エンジンルーム内に漏れ出した液体に引火したり過熱により車両火災が起きるおそれがあります。

●冷却水温度が充分に下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や熱湯が噴き出して火傷をするおそれがあります。

注　意！

◆オーバーヒートを起したまま走行を続けたり、冷却水が噴き出した状態でエンジンを回転させていると、エンジンなどに重大な損傷を起します。ただちに安全な場所に停車し、エンジンを冷却してください。

◆オーバーヒートしたときは必ず指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは、以下のように対処してください

① ただちに安全な場所に停車します。

② エンジンをアイドリング状態で冷却します。
冷却ファンが停止しているとき、冷却水が噴き出しているときは、エンジンを停止して冷却してください。

注　意！

◆充電警告灯が点灯しているときは、Ｖベルトが損傷しているおそれがあります。エンジンを停止して、指定サービス工場に連絡してください。

◆Vベルトが損傷して充電警告灯が点灯したときは、パワーステアリングにエンジン動力の補助が働かないため、通常のときに比べて操作に非常に大きな力が必要です。

③ エンジンが充分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、Vベルトなどを点検します。

④ 冷却水が不足していたら補給します (8-6ページ)。

バッテリーはエンジンルームの右側に装備しています。
バッテリーのタイプや容量は予告なく変更される場合があります。

充電警告灯：
エンジンスイッチが**2**のとき点灯しエンジン始動後に消灯します。点灯しないときは警告灯の故障が考えられます。消灯しなかったり、走行中に点灯したときは、発電または充電系の異常か、Vベルトが損傷しているおそれがあります。
そのままエンジンを回転させると、オーバーヒートを起こしてエンジンを損傷するおそれがあります。安全な場所に停車して点検してください。

※表示灯／警告灯（9-12ページ）をご覧ください。

注　意！

Vベルトが損傷して充電警告灯が点灯したときは、パワーステアリングにエンジン動力の補助が働かないため、通常のときに比べて操作に非常に大きな力が必要です。

バッテリー取り扱いの注意

⚠警　告

●バッテリーを取り扱うときは以下の点に注意してください。
- バッテリー液が目に入ると失明するおそれがあります。バッテリーを取り扱うときは、保護眼鏡を着用してください。
- 皮膚に付着すると火傷します。ただちに、多量の流水で5分以上洗い流したあと、医師の診断を受けてください。
- 衣服や塗装面などに付着すると、腐食が起こります。ただちに多量の流水で洗い流してください。
- 火気は近づけないでください。
- バッテリーケース側面部の液量表示が「min（最低液面線）」以下のときは、車を使用したりバッテリーを充電しないでください。液量不足のまま充電すると、劣化を早めたり爆発するおそれがあります。ただちに指定サービス工場へ連絡してください。
- 接続するときは、極性（プラス⊕、マイナス⊖）を間違えずに接続してください。
  また、プラス⊕端子とマイナス⊖端子をショート（短絡）させると、爆発のおそれがあります。

●バッテリーを取り扱うときは、傾けたり横倒しにしないでください。バッテリー液が漏れ出すことがあります。

注　意！

◆バッテリーケーブルの接続を外すときは、⊖側を先に外し、接続するときは⊕側を先に接続します。
- 接続を外す前にエンジンスイッチを**0**に回すかキーを抜き取り、すべての電気装置をOFFにしてください。
- バッテリー端子の取り付けボルトは確実に締め付けてください。

◆バッテリーを充電するときは車から取り外してください。

◆車載したままでバッテリーを充電するときは、バッテリーケーブルを外して充電します。

◆バッテリーの取り扱いは、以下の点に注意してください。
- エンジンの回転中は、バッテリーケーブルを外したり、ゆるめたりしないでください。
- 定期的にバッテリーの点検をして、バッテリー液が減っているときはバッテリー液を補給してください。

知　識

◇長期間、車を使用しないときや短距離短時間の走行が主体のときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。

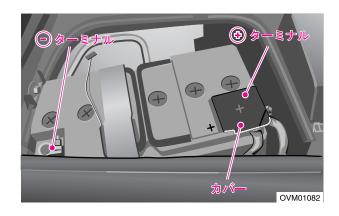
◇バッテリーの接続が一時的に断たれた後は、エンジン始動後に、警告灯が点灯することがあります。このときは以下の手順で警告灯を消灯させてください。
①安全な場所に停車し、エンジンを始動します。
②ステアリングを左右どちらかに止まるまで回し、次に反対側へ止まるまで回します。
また、時計、パワーウィンドウのリセットやオーディオなども再設定が必要になります。
不明な点は、指定サービス工場におだずねください。

環境保護のため、使用済みのバッテリーは、バッテリー販売店に処分を依頼してください。

バッテリーがあがったとき

バッテリーあがり（バッテリーの過放電）が起きると以下のような現象を示します。

◇リモコンでドアやテールゲートを解錠／施錠できない。
◇スターターが回らない、または回転が弱く、エンジンを始動できない。
◇ホーンが鳴らない、または音量が小さい。

バッテリーあがりを起こして、エンジンを始動できないときは、ブースターケーブルを使い他車（救援車）のバッテリーを電源として始動することができます。大きな電流を通す太めのブースターケーブルを使用してください。
バッテリーがあがり、セレクターレバーを **P** から動かすことができなくなったときは手動で動かすことができます（4-8ページ）。

⚠ 警　告

●ブースターケーブルでエンジンを始動するとき、バッテリーの取り扱いやブースターケーブルの接続を誤ると、バッテリーが爆発してけがをしたり、車の電装部品を損傷するおそれがあります。「バッテリー取り扱いの注意」および、「バッテリーあがりを起こしたときの注意」の指示に従ってください。

●ブースターケーブルを使って始動しているときはバッテリーをのぞき込まないでください。爆発してけがをするおそれがあります。

始動の方法

① バッテリー電圧が同じ（12V）で、バッテリーの容量が同程度の救援車を用意します。このときバッテリーがあがった車と救援車を接触させないでください。
② 両方の車のエンジンスイッチを**0**の位置にします。
③ バッテリーがあがった車の電気装備をすべてOFFにします。
④ バッテリーの⊕ターミナルカバーを開けます。
⑤ ⊕ターミナルと救援車のバッテリーの⊕端子を赤色ブースターケーブルで接続します。
⑥ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。
⑦ 救援車のバッテリーの⊖端子に黒色ブースターケーブルの一方を接続し、反対側をバッテリーがあがった車の⊖ターミナルと接続します。
⑧ バッテリーがあがった車のエンジンを始動します。

注　意！

電気回路を守るため、エンジンが始動できたら、ランプ類以外の電気装置（ヒーター送風ファンやデフォッガーなど）を作動させてください。

⑨ 接続したときと逆の順序でケーブルを外します。
⑩ ⊕ターミナルカバーを取り付けます。

注　意！

バッテリーあがりを起こしたときの注意

◆急速充電器などを直結してエンジンを始動しないでください。車の電気系統を損傷します。

◆触媒装置を損傷しないようにするため、以下の点に注意してください。
- 「押しがけ」や下り勾配を利用してエンジンを始動しないでください。
- エンジンが暖まっているときは、ブースターケーブルでエンジンを始動しないでください。
- エンジン始動を2〜3回試みても始動できないときは指定サービス工場へ連絡してください。

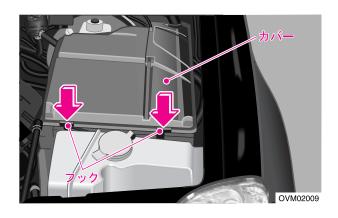
◆ブースターケーブルは充分な容量（太さ）のケーブルを使用してください。
- ケーブル部分や絶縁部分が損傷している物は使わないでください。
- ケーブルが救援車のラジエター冷却ファンや回転ベルトに巻き込まれないようにしてください。

知　識

◇バッテリーあがりを起こしているバッテリー液は、約－10℃で凍結します。凍結しているときは、火気を近づけずにバッテリー全体を暖め（50℃以下に限る）、バッテリー液の凍結を解消してからブースターケーブルでエンジンを始動してください。

◇バッテリーがあがりを起したり、バッテリーの接続が一時的に断たれた後は、エンジン始動後に、警告灯が点灯することがあります。このときは以下の手順で警告灯を消灯させてください。
①安全な場所に停車し、エンジンを始動します。
②ステアリングを左右どちらかに止まるまで回し、次に反対側へ止まるまで回します。
また、時計、パワーウィンドウのリセットやオーディオなども再設定が必要になります。
不明な点は、指定サービス工場におだずねください。

OVM02009

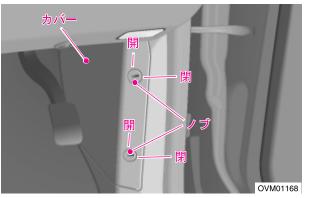
OVM01168

ヒューズの交換

ランプ類が点灯しないときや電気系の装備が作動しないときは、ヒューズが切れていることが考えられます。
ヒューズが切れているときは、ヒューズを交換してください。

ヒューズボックスの位置

ヒューズボックスはエンジンルームの左側と室内前席右側の足元にあります。

エンジンルームのヒューズボックス

矢印の位置にあるフックを外してカバーを開きます。カバーを閉じるときは、カバーの後端を先にはめ込んでからカバーを閉じます。

足元のヒューズボックス

ノブにマイナスドライバーやコインなどを差し込み、左に回してカバーを開きます。閉じるときは右に回して閉じます。

スペアヒューズ

スペアヒューズはエンジンルームのヒューズボックスカバーの裏にあります。スペアヒューズを使用したときは同じ容量（アンペア）のヒューズを補充してください。

ヒューズの交換

① エンジンスイッチを**0**の位置にします。
② ヒューズボックス（エンジンルーム）のカバー裏側にあるヒューズリムーバーを使用して該当するヒューズを取り外します。
③ ヒューズを点検し、切れている（溶断）ときは同じ容量（色）のスペアヒューズと交換します。

注　意！

◆規定より大きな容量のヒューズを使用したり、ヒューズの改造、針金などによる代用をしないでください。火災が発生するおそれがあります。
◆ヒューズを交換してもすぐに切れたり、装置が作動しないときは、他に原因があります。指定サービス工場で点検を受けてください。
◆ヒューズボックスの中には湿気が入らないようにしてください。
◆自動車電話やテレビなど、電装品を使用するときは、指定サービス工場にご相談ください。
◆ヒューズが切れていないのに、ランプ類が点灯しなかったり電気系の装備が作動しないときは、電球切れや故障が考えられます。指定サービス工場で点検を受けてください。

知　識

◇ヒューズボックスカバーの裏側にヒューズの配置表が入っています。
◇ヒューズの容量（アンペア）と取り付け位置は予告なく変更されることがあります。またモデルと装備により取り付けられていない場合もあります。

ヒューズ一覧＜参考＞

知　識

仕様／装備などの違いにより装備されているヒューズが異なることがあります。

室内のヒューズボックス

1 7.5A ：コンバインドライト／エアバッグ警告灯
2 15A ：フロントシガーライター、リアシガーライター
3 15A ：リアワイパー
4 40A ：フロントブロアモーター
5 15A ：インストルメントクラスター／エアコンディショナー
6 20A ：フロント電源ソケット
7 — ：未使用
8 — ：未使用
9 — ：未使用
10 35A ：パワーシート（左）
11 35A ：パワーシート（右）
12 — ：未使用
13 20A ：フューエルポンプ
16 — ：未使用
17 25A ：リアデフォッガー
19 30A ：ヘッドランプウォッシャーシステム＊／ワイパーシステム
20 7.5A ：ハイビーム（右）
21 7.5A ：ハイビーム（左）／ハイビームインジケーター
24 25A ：リアパワーウィンドウ、ドアミラー
25 25A ：フロントパワーウィンドウ

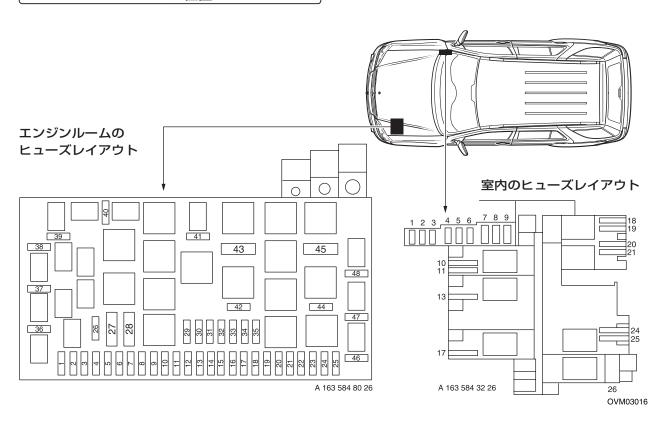
＊：仕様などにより装備が異なります

エンジンルームのヒューズボックス

1 — ：未使用
2 7.5A ：方向指示灯（左）
3 — ：未使用
4 20A ：スライディングルーフ＊
5 — ：未使用
6 20A ：シートヒーター
7 30A ：フロントワイパー／ウオッシャーシステム
8 25A ：トランスファーケース／エマージェンシーシステム＊
9 7.5A ：メーター照明、ライセンスプレートランプ
10 10A ：バニティミラー／エマージェンシーシステム＊／ラジオ／グローブボックス照明
11 15A ：インジェクションバルブ、エンジン関係
12 7.5A ：パーキングランプ（左）
13 10A ：ステアリング舵角センサー、フロントレッグルームランプ、故障診断
14 — ：未使用
15 10A ：ブレーキランプ、ブレーキランプスイッチ
16 15A ：エアバッグコントロールユニット、エアコンディショナー、セレクターレバーモジュール、インストルメントクラスター
17 20A ：リア電源ソケット
18 — ：未使用
19 15A ：ラムダセンサー、ジェネレーションバルブ、フューエルタンクベンチレーション、バキュームポンプ、エンジン関係
20 — ：未使用
21 15A ：ラジオ
22 15A ：トラクションコントロール、ステアリング舵角センサー
23 15A ：ダイナミックビームコントロール（キセノン装備車）
24 7.5A ：パーキングランプ（右）
25 7.5A ：方向指示灯（右）
26 15A ：イグニッションコイル
27 40A ：ABSハイドロリックユニット
28 — ：未使用
29 — ：未使用
30 — ：未使用
31 15A ：ミラーライト
32 — ：未使用
33 — ：未使用
34 — ：未使用
35 — ：未使用
36 10A ：ドアミラーヒーター
37 20A ：ホーン
38 — ：未使用
39 — ：未使用
40 — ：未使用
41 — ：未使用
42 20A ：セントラルロッキングシステム
43 20A ：リアヒーターファン
44 15A ：リアウォッシャーポンプ
または
40A ：リアウォッシャーポンプ　エアコンディショナーファン
45 40A ：エアインジェクションリアクターポンプ
46 7.5A ：リアフォグランプ
47 15A ：フロントフォグランプ
48 — ：未使用

＊：仕様などにより装備が異なります

ヒューズ位置

エンジンルームの
ヒューズレイアウト
室内のヒューズレイアウト
A 163 584 80 26
A 163 584 32 26
OVM03016

電球の交換

電球が切れてランプが点灯しないときは、同じ規格の電球と交換してください（電球一覧：8-22ページ）。また、電球の交換はできるだけ、指定サービス工場へ依頼してください。やむを得ずユーザー自身で交換するときは、以下の注意を守って該当箇所の電球を交換してください。

キセノンヘッドランプ＊

⚠ 警　告

DANGER
GEFAHR
PERICOLO
PELIGRO
25 000 V
A 129817 2820
Light off!
Licht aus!
Eteindre la lumière!
Spegnere i fari!
¡Apagar la luz!

●キセノンヘッドランプに触れると感電するおそれがあります。電源が接続された状態で、バルブソケットや配線に手を触れないでください。

●キセノンヘッドランプのバルブ交換は、必ず指定サービス工場で行なってください。

ハロゲンランプ

ヘッドランプやフロントフォグランプには、ハロゲンランプを使用しています。電球を交換するときは、以下の点に注意してください。

注　意！

◆交換作業をする前にエンジンスイッチを**O**の位置にしてください。

◆指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になることがあります。

◆ハロゲンランプが熱くなっているときは、電球に触れたり、電球を取り外さないでください。ハロゲンランプには圧力のかかったガスが封入されているので、破裂することがあり、ガラスの破片などでけがをするおそれがあります。

◆落とした電球や、表面に傷のある電球は使用しないでください。破裂するおそれがあります。

◆ハロゲンランプ（ヘッドランプ、フォグランプ）を交換するときは、軍手などの手袋および保護メガネを着用し、直接手で電球に触れないようにしてください。ハロゲンランプは使用時に高温になるので、電球の表面に油などが付着すると部分的に過熱して電球が切れやすくなります。油脂分や汚れが付いたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布でよく拭き取ってください。

＊：仕様などにより装備が異なります

知　識

方向指示灯（ドアミラーを除く）のいずれかの電球が切れると、方向指示灯や表示灯の点滅と音の間隔が短くなります。ただちに電球を交換してください。

7. 車との上手なつきあいかた

車の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも美しく保つことができます。詳しくは、指定サービス工場にお問い合わせください。

⚠ 警　告

- **一部の合成クリーナーなどには、揮発性有機溶剤や可燃性物質を含んでいることがあります。必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示にしたがってください。車内で使用するときは、ウィンドウガラスを開け、充分に換気しながら使用してください。有機溶剤による中毒や静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。**
- **車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガス部分に引火して火災を起こすおそれがあります。**
- **車の手入れ用品や容器は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり、保管しないでください。**

注　意！

洗車時など、サイドステップが濡れているときはステップに足を乗せないでください。足を滑らせてけがをするおそれがあります。

日常の手入れ

◇走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
◇少なくとも月に一度は洗車してください。
◇飛び石により塗装面に傷がつくと錆の原因になります。純正タッチアップペイントで早めに補修してください。
◇保管や駐車は、風通しのよい車庫や屋根のある場所をおすすめします。
◇泥や虫の死がい、鳥のふん、樹液、油脂類およびガソリンなどが付着したときは、すみやかに拭き取ってください。特に鳥のふんは塗装面を損傷しやすいので、できるだけ早く水で洗い流してください。
◇凍結防止剤が散布してある道路の走行後は、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。

知　識

誤って傷をつけたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、すみやかに指定サービス工場で補修することをおすすめします。

環境保護のため、使い終わった容器などは各自治体の基準に従って処分してください。

外装の手入れ

洗車

知　識

水が凍るほど寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。

① ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。
② 水に純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液を用意し、車全体に吹き付けます。外気取り入れ口付近では少量吹き付けるだけにし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。
③ スポンジや人工セーム革などを使用して、充分な量の水で洗い流します。
④ 洗車後はすみやかに水滴を拭き取ります。

◇虫の死がいなどは、洗車前に純正インセクトリムーバーで取り除いてください。
◇コールタールやアスファルトの汚れは、純正タールリムーバーで拭き取ってください。乾いてしまうと落としにくくなるので、早めに処理してください。
◇ヘッドランプを含むランプ類は樹脂製レンズです。流水または水と純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、強くこすると細かい傷をつけることがあります。
◇車の下側を洗車したときは、ホイールアーチも忘れずに洗車してください。

自動洗車機の使用

自動洗車機で洗車するときは以下の点に気をつけてください。

◇汚れがひどいときは、軽く流水で洗い流してください。
◇洗車前にドアミラーを格納し、ワイパーの操作レバーが停止位置になっていることを確認します。
◇回転ブラシの堅さによっては、細かな傷がつき、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。

高圧スプレー式洗車機の使用

◇洗車ノズルは、車から30cm以上離して使用してください。
◇洗車ノズルをウィンドウガラス接合面やボディパネルやライトの継ぎ目部分などに近づけないでください。水圧が高すぎるため、車内に水が侵入したり、防水シールを損傷するおそれがあります。
◇洗車ノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高すぎるため、タイヤに傷をつけることがあります。

塗装面

注　意！

直射日光が強く当たる場所や走行直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。

塗装面の手入れには以下の純正カーケア用品を使用してください。手入れ方法は、添付の取扱説明書をお読みください。

◇ペイント保護剤
　塗装面に被膜をつくりボディの光沢を守ります。
◇ペイントポリッシュ
　光沢を失った塗装面の汚れを落とします。
◇スポットクリーナ
　腐食の原因となる鳥のふんや樹脂など、ボディにこびりついた頑固なシミを除去します。
◇タッチアップペイント
　塗装面にできた小さな傷の応急補修に使用します。

ホイール

注　意！

走行直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ディスクを損傷するおそれがあります。

◇ぬるま湯に純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。
◇落ちにくい汚れのときは、純正アルミホイールクリーナを使用してください。

知　識

誤って傷をつけたり、誤った手入れにより錆などが発生したときは、すみやかに指定サービス工場で補修することをおすすめします。

ウィンドウ、スライディングルーフガラス

ガラスの室内側には、曇り止め配合の純正インテリアガラスクリーナーを使用します。外側の汚れがひどいときは純正ウィンドウクリーナーを使用します。

注　意！

リアウィンドウのガラス面に極細の電熱線がプリントされています。ガラス面の内側を清掃するときは、柔らかい布を使い、熱線に沿って拭き取り、傷をつけないように注意してください。

ドアミラー

ドアミラーの汚れを取るときは、研磨剤（コンパウンド）入りのガラスクリーナーを使用しないでください。ミラーに細かな傷がつくおそれがあります。

エンジンルーム内

◇手作業で拭いてください。火傷や感電をしないように注意してください。

◇エンジンルームには多くの電気系の装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

車内の手入れ

内装部品

◇プラスチックやゴム製部分は純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液または、純正プラスチッククリーナーで拭き取ります。ほかの洗剤やワックスなどは使用しないでください。

◇ステアリングやセレクターレバー、メーターパネルなどは、純正カーシャンプーを混ぜた洗浄液を使い、糸くずの出ない布で拭き取ります。

◇メーターパネルの内側に水分が入らないように注意してください。

シートベルト

◇ぬるま湯または石けん水で清掃します。

◇シートベルトには強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しないでください。また、ドライヤーなどの使用、直射日光による乾燥、漂白や染色をしないでください。シートベルトの強度が低下し、事故のとき、充分な効果を発揮することができなくなるおそれがあります。

シートの手入れ

ファブリック

◇ブラシなどでほこりを払い落とします。

◇汚れがひどいときは、純正クロスクリーナーを使い、染み抜きには純正スポットリムーバーを使います。

ベロアー

水分や熱によって毛足が寝てしまうと汚れたように見えます。このようなときは軽く湿らせたブラシで整えます。

本革

汚れを落としてから、純正レザーケアフォームを使用します。使用方法については指定サービス工場におたずねください。

人工皮革

純正カーシャンプーを使用します。

知　識

他にも純正カーケア用品があります。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

寒くなる前に

寒冷時には、通常時とは異なる対策や取り扱いが必要になります。以下の注意事項をお読みになり、正しく安全に車を使用してください。

燃料

◇燃料タンクの水抜きをしてください。燃料タンクに水分がたまると、凍結して故障の原因になることがあります。

冷却水、バッテリー

冷却水やバッテリーについて、指定サービス工場で点検を受けてください。

◇冷却水の不凍液の濃度が適性であること。

◇バッテリーの液量や充電状態に不足がないこと。

ウォッシャー液

純正ウィンドウ・ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用のウォッシャー液を使用してください。

冬用タイヤ、タイヤチェーン

積雪地域では、冬用タイヤが必要です。

タイヤチェーンは、タイヤサイズに合った物を正しく装着してください。

運転する前に

積雪

ボディやウィンドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアの凍結

凍結しているところは走行開始前に解凍するか、氷を取り除いてください。氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウィンドウを傷つけないように注意してください。

ドアが凍結して開かないときは、ドア開口部周囲にぬるま湯をかけて解凍してから開き、余分な水分はきれいに拭き取ってください。凍結したまま無理に開こうとすると、ドア周囲の防水シールを損傷するおそれがあります。

ボディ下側の着氷

ボディ下側やサスペンションアーム、スプリングなどに氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら取り除いてください。スプリングなどに氷塊が付いていると、スプリングが作動しなかったり、ボディを損傷するおそれがあります。

ワイパーなどの凍結

ワイパーや電動格納式ドアミラー、パワーウィンドウ、スライディングルーフなどが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。解凍してから操作してください。また、電動格納式ドアミラーは手動で動かさないでください。

乗車前に

◇靴底などに付いた雪や氷を取り除いてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウィンドウガラス内側が曇りやすくなります。

◇足まわりやフェンダー内などに雪や氷塊が付着しているときは、ボディや部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。

◇走行前に車の各部を点検してください。足回りやその周辺、特にブレーキ系統が凍結した状態のまま走行すると、重大な事故につながるおそれがあります。

雪道の走行

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。充分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。安全な走行と操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

◇冬用タイヤ、またはタイヤチェーンを必ず使用してください。

◇冬用タイヤは4輪に装着してください。

◇凍結路を走行するときは、ローレンジモード（4-14ページ）に切り替えないでください。約30km/h以下の速度では、ブレーキペダルを踏んだときにオフロードABS（2-20ページ）が作動し、ステアリング操作が困難になります。

◇「急」のつく操作、急ハンドル、急ブレーキ、急加速などを避けてください。

◇はね上げた雪や水しぶきが走行中に凍結し、ボディ下側やフェンダー内部などに氷となって付着します。トラブルの原因になりますので、取り除いてください。

◇最悪の場合はタイヤが氷に接触してステアリング操作ができなくなるおそれがあります。休憩時などに点検し、氷の固まりが大きくなる前に取り除いてください。

◇ブレーキの効きが悪くなることがあります。前後の車に充分注意し、ときどきブレーキペダルを軽く踏んでブレーキの効き具合を確かめてください。

冬用タイヤ

冬用タイヤは、4輪ともメーカー、銘柄、サイズ、トレッドパターンが同じ物を装着してください。

⚠ 警　告

冬用タイヤのメーカー、銘柄、サイズ、トレッドパターンの異なるタイヤ、摩耗差の著しいタイヤを組み合わせて装着すると、操縦性に悪影響をおよぼし、車のコントロールを失うおそれがあります。また、オートマチックトランスミッションに故障が発生し走行できなくなるおそれがあります。

注　意！

◆冬用タイヤを装着しているときにスペアタイヤを使用すると、車の操縦性能や制動性能が大きく低下するので、注意して走行してください。スペアタイヤは応急的に使用し、できるだけ早く冬用タイヤに戻してください。

◆冬用タイヤの溝が4mm以下になったときは、必ず新品と交換してください。

◆冬用タイヤを装着していても、雪道や凍結路面ではクルーズコントロールは使用しないでください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンについては、指定サービス工場にお問い合わせください。

タイヤチェーン

タイヤチェーンを装着したときは、以下の点に注意してください。

◇タイヤチェーンはダイムラー・クライスラー社指定品を使用してください。取り付け方法や取り扱いについては、タイヤチェーンに添付されている取扱説明書にしたがってください。不明な点は、指定サービス工場にお問い合わせください。

◇タイヤチェーンは、4輪に装着してください。タイヤチェーンが2輪分しかないときは、後輪に装着してください。

◇タイヤチェーン装着時は約30km/h以下の速度で走行してください。なお、タイヤチェーンの種類によっては許容速度が異なる場合がありますので、添付されている取扱説明書にしたがってください。許容速度を越えると、チェーン本来の性能を発揮できなかったり、チェーンが切れることがあります。

◇路面に雪や凍結がなくなったときは、すみやかにタイヤチェーンを外してください。

◇タイヤチェーン装着中は、ESPをOFFにしたほうが走行しやすい場合があります。

注　意！

◆タイヤチェーンの取り付け／取り外しは、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。

◆指定品以外のタイヤチェーンを装着すると、車体に触れることがあります。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先に排気口（排気ガスの出口）と車の周りから雪を取り除いてください。積雪により、排気口がふさがれて排気ガスが車内に入ってくるおそれがあり、危険です。

⚠ 警　告

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンを回転させていると、排気ガスが車内に入り一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死することがあります。一酸化炭素は、無味、無臭、無色のため車内に入り込んでも気づかず、無意識のうちに吸い込んでしまいます。

駐車するとき

◇駐車ブレーキを使用せず、セレクターレバーを **P** に入れ、輪止めをしてください。
◇できるだけ風下や建物の壁、太陽のあたる方向にエンジンルームを向けて駐車し、少しでもエンジンが冷えすぎないように心がけてください。
◇軒下や樹木の下に駐車しないでください。雪やつららが落ちて車を損傷することがあります。
◇エンジンを毛布でおおったり、フロントグリルの内側に段ボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

冬季の手入れ

冬季の高速道路や主要国道などでは、路面凍結防止のため、凍結防止剤（塩化化合物）を散布しています。凍結防止剤が散布された路面の走行後は、ボディ下側やフェンダー内部に凍結防止剤が付着しており、放置するとボディ鋼板の腐食につながります。

凍結防止剤が散布される地域や道路を主体に走行するときは、１年ごとにボディ下側の洗浄と防錆処理の実施をおすすめします。詳しいことは、指定サービス工場にお問い合わせください。

雨の日や濃霧時の運転

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、路面が濡れて滑りやすく視界も悪くなります。以下の点に注意し、いつもより慎重に走行してください。

◇路面が滑りやすいので、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離が長くなります。また、見通しが悪いので歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を余分にとって慎重に運転してください。

◇濡れた路面では過度のエンジンブレーキを効かせないでください。

⚠ 警　告

滑りやすい路面で過度のエンジンブレーキを効かせると、スリップを起こして車のコントロールを失うおそれがあります。

◇路面が濡れているときは、クルーズコントロールは使用しないでください。

◇大雨のときや雨天の高速走行中は、ブレーキディスクが濡れてブレーキの効きが悪くなることがあります。このときは、後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキ性能が回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏み込んでください。

◇安全な視界を確保するため、デフロスターやリアデフォッガー、またはエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。

◇雨天や濃霧時は、自分の車の存在を周囲にアピールするため、ヘッドランプやフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドランプを上向きにすると、雨粒や濃霧に反射して視界を損ない、対向車を眩惑するので下向きで点灯してください。

◇濃霧のときはフォグランプを点灯し、速度を落としてゆっくり走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

夏季の取り扱い

◇夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒が不足していないか、指定サービス工場で点検を受けてください。
◇炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどに触れると、場合によっては火傷をするおそれがあります。
◇炎天下の駐車後など、室内温度が高くなっているときは、ウィンドウを開け放して車内の熱気を逃がしてからエアコンディショナーを使用してください。
◇炎天下に駐車するときは、フロントウィンドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートにカバーやタオルなどをかけ、室内温度の上昇を抑えてください。
◇オーバーヒート予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください（8-6ページ）。

8. 点検と設備・サービスデータ

純正部品

ダイムラー・クライスラー社では点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。
ダイムラー・クライスラー社の純正部品は厳格な基準により品質管理されております。点検や整備、修理のときは必ず純正部品を使用してください。

⚠ 警　告

どんな場合でもブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品を純正部品以外の物を使用しないでください。事故やけがの原因になります。

知　識

純正部品以外の部品を代用したときは、該当個所だけでなく関連個所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

ダイムラー・クライスラー社では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

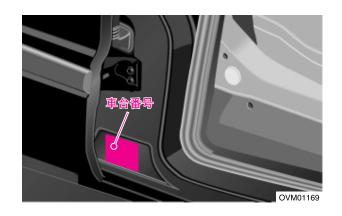
純正アクセサリー

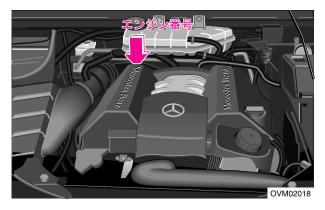
アクセサリーは、ダイムラー・クライスラー社またはダイムラー・クライスラー日本株式会社が指定する製品のみを使用してください。

注　意！

◆エアバッグ、シートベルトテンショナー、インストルメントパネル、センターコンソール、センターピラーのフロアパネル付近の周囲には、エアバッグやシートベルトテンショナーのセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や板金作業などを行うと、エアバッグやシートベルトテンショナーの作動に悪影響を与えることがあります。詳しくは指定サービス工場にお問い合わせください。

◆車載無線機など電装アクセサリーを取り付けるときは、指定サービス工場に相談してください。取り付け方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えることがあります。また、電気配線を間違えると火災や故障の原因になります。

◆ウィンドウに透明な吸盤を貼り付けないでください。透明な吸盤がレンズとして作用し、火災が起こることがあります。

ビークルプレート

ニューカープレート
車の車台番号を記載したニューカープレートは、運転席側か助手席側のセンターピラーに貼付してあります。

エンジン番号
エンジン番号は、エンジンブロックの後部に打刻してあります。

点検と整備

車の性能を充分に発揮させ、安全快適に運転していただくためには、指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

◇ダイムラー・クライスラー社の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

知　識

メンテナンスインジケーター
車のメーターパネルには、メーカ指定点検整備の時期を知らせる目安として、メンテナンスインジケーター（3-46ページ）を装備しています。

◇1年、2年点検整備は、車検時を含め法律で定められ実施するものです。
次の点検時期を示すステッカーがフロントウィンドウに貼付してあります。お確かめください。
詳しくは指定サービス工場におたずねください。

整備手帳
車には整備手帳が備えてあります。実施された作業を整備手帳で確認してください。

日常点検を忘れずに
使用者自身の判断で日常的に行なっていただく点検です。日常点検は法律で義務づけられています。点検項目については別冊の整備手帳をご覧ください。

市街地および苛酷な条件下での運転
発進や停止が多い市街地走行や山間部、路面の悪い道路、トレーラーのけん引など、きびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、オイル、フィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行うことが必要になります。
詳しくは指定サービス工場にお問い合わせください。

エンジンルーム

エンジンルームの点検をするときは以下の事項を厳守してください。

⚠ 警　告

イグニッションシステムに手を触れないでください。高電圧を発生させるので感電するおそれがあります。

注　意！

◆エンジンが回転しているときは、回転部に触れないように充分注意してください。
◆エンジン停止後も、水温の高いときはファンが回転をつづけることがあります。
◆エンジンの熱や動きに充分注意してください。火傷やけがをするおそれがあります。
◆ラジエターに手を触れないでください。火傷やけがをするおそれがあります。
◆作業は安全な場所を選んで行なってください。
◆適切な工具を使用してください。
◆エンジンルーム内に部品や工具を置かないでください。
◆エンジンルームの手入れについては7-5ページをご覧ください。

環境保護のため、油脂類を廃棄するときは、指定サービス工場に相談してください。

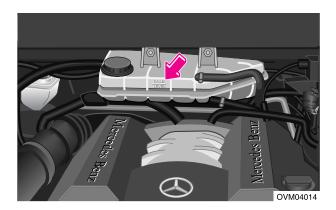
キセノンヘッドランプ＊

⚠ 警　告

●キセノンヘッドランプに触れると感電するおそれがあります。電源が接続された状態で、バルブソケットや配線に手を触れないでください。
●キセノンヘッドランプのバルブ交換は、必ず指定サービス工場で行なってください。

＊：仕様などにより装備が異なります

冷却水、Vベルト

OVM04014

冷却水はリザーブタンクで点検と補給を行ないます。

点検

点検は水平な場所で行ないます。
冷却水が冷えている状態で、リザーブタンクのCOLD LEVELマークまであれば適量です。水温が高いときは約10～15mm高くなります。

冷却水量警告灯：
エンジンスイッチが**2**のとき点灯しエンジン始動後に消灯します。点灯しないときは警告灯の故障が考えられます。
消灯しなかったり走行中に点灯したときは、冷却水量が規定以下になっています。点検を行ない不足しているときは補給してください。

※表示灯／警告灯（9-9ページ）をご覧ください。

⚠ 警　告

- **水温が高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や熱湯が噴き出し、火傷をするおそれがあります。**
- **冷却水や不凍液をエンジンルームにこぼさないようにしてください。**
  これらの液体が熱くなったエンジンに付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。
- **冷却水量を点検、補給するときは、必ずエンジンを停止させてください。**
- **冷却水や不凍液が万一目に入ったときは、直ちに流水で充分に洗い流した後、医師の診断を受けてください。**
- **子供の手が届くところに容器を置いたり、保管したりしないでください。**
- **冷却水や不凍液が手や皮膚に付いたときは、すみやかに石けんを使って洗い流してください。放置すると、体質によっては皮膚障害を起こすことがあります。**

注　意！

◆冷却水が適量でも、水温計（3-43ページ）の指針がレッドゾーンに入ったときは、冷却装置の故障が考えられます。オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
◆冷却水の減りかたが著しいときは、指定サービス工場でただちに点検を受けてください。

冷却水の補給

冷却水が不足しているときは、冷却水が冷えているときにリザーブタンクに補給してください。

■ 補給するとき

① リザーブタンクのキャップをゆっくり反時計回りに回します。約1/2回転まで回して圧力を抜いてからゆっくりとキャップを回して外します。
② レベルに注意して冷却水を補給します。
補給する冷却水は、水道水と純正の不凍液を混ぜてあらかじめ用意します。
車を使用する地域の最低気温を目安にして以下のいずれかに混合します。

■不凍液濃度と凍結防止温度

不凍液濃度（%）	凍結防止温度
約50%	−37℃まで
約55%	−45℃まで

■ キャップを取り付けるとき

キャップを時計回りにロック音が3回鳴るまで回します。

注　意！

◆冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。
不凍液の濃度は50%（凍結温度−37℃）から55%（凍結温度−45℃）未満にしてください。
濃度を55%以上にすると冷却性能が低下します。
◆指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。
◆不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、速やかに水で洗い流してください。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過と共に凍結防止や防錆の効果が劣化しますので定期的な交換が必要です。交換時期については、別冊の整備手帳をお読みください。詳しくは指定サービス工場におたずねください。

Vベルト

自動調整式なので、調整の必要はありません。ベルトに亀裂や破損がないか点検してください。

エンジンオイル

車が水平な状態で、オイルレベルゲージを使ってオイルレベル（油面高さ）を目視で点検します。
メーターパネルのディスプレイのオイルレベルインジケーターでも点検することができます（3-48ページ）。

オイル量警告灯：
エンジンスイッチが**2**のとき点灯しエンジン始動後に消灯します。点灯しないときは警告灯の故障が考えられます。

※表示灯／警告灯（9-9ページ）をご覧ください。

注　意！

消灯しなかったり走行中に点灯したときは、オイルのレベルが規定以下になっています。安全を確認したうえで停車し、オイル量の点検を行ない不足しているときは補給してください。

知　識

警告灯が点灯すると、ディスプレイにオイルレベルインジケーターが表示されます。

OVM01171

オイルレベルゲージで点検する方法

① エンジンを回転させ、15km以上走行しエンジンオイルを暖めます。
② 車を水平な場所に停めます。
③ エンジンを停止して、5分ほど待ちます。
④ オイルレベルゲージを抜き取り、付着しているオイルを抜き取ってから、再び差し込みます。
⑤ 再度オイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイルのレベルと汚れ具合を点検します。付着したオイルのレベルがオイルレベルゲージの上限（MAX）と下限（MIN）の間にあれば正常です。
⑥ エンジンオイルレベルが下限以下のときは、フィラキャップを開いて、指定のエンジンオイルを補給します。

⚠ 警　告

●エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱いときにオイルが付着すると、発火して火傷するおそれがあります。
●エンジンオイルが万一目に入ったときは、ただちに流水で充分に洗い流した後、医師の診断を受けてください。
●子供の手が届くところに容器を置いたり、保管したりしないでください。
●エンジンオイルが手や皮膚に付いたときは、すみやかに石けんを使って洗い流してください。放置すると、体質によっては皮膚障害を起こすことがあります。

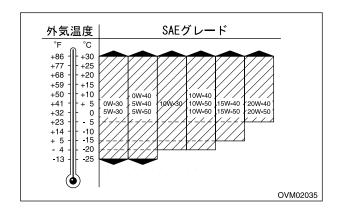
注　意！

◆著しくエンジンオイルが減っているときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
◆必ず承認されたエンジンオイルを使用してください。承認以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。
◆種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。
◆エンジンオイルがこぼれたときは完全に抜き取ってください。
◆エンジンオイル量はオイルレベルゲージの上限を超えないようにしてください。エンジンオイルが多すぎるとエンジンや触媒装置を損傷するおそれがあります。
◆エンジンオイルは走行条件や運転スタイルなどにより、1,000kmあたり最大約0.8リットルを消費することがあります。エンジンオイルレベルを必ず日常点検などで確認してください。

知　識

◇オイルレベルゲージの上限と下限の間は約2ℓです。
◇慣らし運転中のエンジンオイル消費量は多少多くなることがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

外気温度とオイル粘度

主に使用する地域の外気温度に応じ、下図から最適なオイルを選んでください。詳しくは指定サービス工場にお問い合わせください。

エンジンオイルの定期交換

エンジンオイルはエンジンの作動時間に比例して性能が劣化したり、エンジン内部の汚れを吸収してオイルが汚れてきます。また、走行距離にかかわらず使用中の経過時間と共にオイル自体が酸化しますので、オイルフィルターと共に定期的な交換が必要です。
交換時期については、メンテナンスインジケーターの表示にしたがってください。ただし、使用状況によっては早めに交換する必要があります。詳しくは、指定サービス工場にお問い合わせください。

オートマチックトランスミッションオイル

指定サービス工場での点検整備を除き、ユーザー自身で点検や補給をする必要はありません。
オイル漏れがあったり何らかの異常を感じたときは、指定サービス工場で点検を受けてください。

OVM00184

ブレーキ液

車が水平な状態で、ブレーキ液リザーブタンクのレベルマークで点検します。ブレーキ液のレベルがMIN（下限）とMAX（上限）の間にあれば正常です。不足しているときはキャップを開き、指定のブレーキ液を補給してください。

ブレーキ警告灯：

(!) BRAKE エンジンスイッチが**2**のとき点灯しエンジン始動後に消灯します。点灯しないときは警告灯の故障が考えられます。
駐車ブレーキが効いているときは、点灯したままになります。駐車ブレーキを解除しても消灯しないときは、ブレーキ液のレベルが低下しています。指定サービス工場に連絡してください。

※表示灯／警告灯（9-11ページ）をご覧ください。

⚠ 警　告

- 必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混用すると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。
- ブレーキ液を補給するときは、MAX（上限）を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液が熱くなったエンジンに付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。
- ブレーキ液が万一目に入ったときは、ただちに流水で充分に洗い流した後、医師の診断を受けてください。
- 子供の手が届くところに容器を置いたり、保管したりしないでください。
- ブレーキ液が手や皮膚に付いたときは、すみやかに石けんを使って洗い流してください。放置すると、体質によっては皮膚障害を起こすことがあります。
- ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限（MAX）を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液が熱くなったエンジンや排気管などに付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

注　意！

◆ブレーキ液の減りかたが著しいときは、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
◆補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。
◆MAX（上限）を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

ブレーキ液の交換

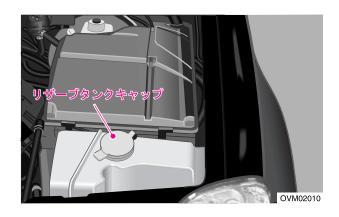
定期的な交換が必要です。交換時期については、別冊の整備手帳をお読みください。詳しくは指定サービス工場にお問い合わせください。

注　意！

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。そのままで長期間使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

知　識

ベーパーロックとは

長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏みつづけると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

リザーブタンクは、リアワイパー、ヘッドランプウォッシャー*のウォッシャーと兼用です。
補給はリザーブタンクのキャップを開いて行ないます。

ウォッシャー液量警告灯：

エンジンスイッチが**2**のとき点灯しエンジン始動後に消灯します。点灯しないときは警告灯の故障が考えられます。
消灯しなかったり走行中に点灯したときは、ウォッシャー液量が規定以下になっています。すみやかに補給してください。

※表示灯／警告灯（9-10ページ）をご覧ください。

*：仕様などにより装備が異なります

⚠ 警　告

- ●ウォッシャー液は可燃性です。火気を近づけたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときには補給しないでください。
- ●ウォッシャー液が万一目に入ったときは、ただちに流水で充分に洗い流したあと、医師の診断を受けてください。
- ●ウォッシャー液が手や皮膚に付いたときは、すみやかに石けんを使って洗い流してください。放置すると、体質によっては皮膚障害を起こすことがあります。
- ●子供の手が届くところに容器を置いたり、保管したりしないでください。

ウォッシャー液

純正の専用ウォッシャー液を水に混ぜてから使用します（8-21ページ）。
混合比についてはウォッシャー液のパッケージに記載してあります。

知　識

ウォッシャー液には夏用と冬用の2種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

注　意！

◆ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。
◆粗悪なウォッシャー液や石けん水などを使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。
◆タンクが空のときウォッシャーを作動させると、モーターを損傷するおそれがあります。
◆ヘッドランプには樹脂製レンズを使用しているので、必ず純正の専用ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。
◆ヘッドランプの汚れを取るときは、乾いた布でこすったり、コンパウンド（研磨剤）入りのガラスクリーナやワックスを使用しないでください。ヘッドランプに細かい傷を付けることがあります。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品または、承認されている物を使用してください。詳しくは指定サービス工場にお問い合わせください。

タイヤの点検

4本のタイヤだけで路面と接地している車にとって、タイヤとホイールは非常に大切な役目を果たしています。給油時などに、以下の点についてタイヤの状態を点検してください。詳しい点検方法は、別冊の「整備手帳」をお読みください。

タイヤ接地部のたわみ状態：

空気圧が適正かどうか

タイヤの損傷：

大きなひび割れ、くぎや石などのかみ込み

タイヤの偏摩耗、摩耗：

スリップサインによる摩耗状態、局部的な摩耗

⚠ 警　告

●タイヤの摩耗には充分に注意し、スリップサインが現われたら速やかに交換してください。タイヤの溝が4mm以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。

●空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。

●ホイールを交換したときは、ホイールに適合した純正品のホイールボルトを使用してください。純正品以外のボルトを使用すると、走行中にボルトがゆるみ、ホイールが脱落して重大な事故につながるおそれがあります。

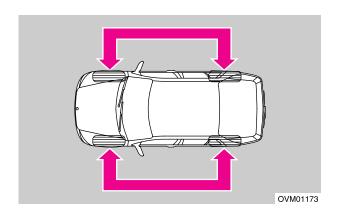
●タイヤのメーカー、銘柄、トレッドパターン、構造の異なるタイヤ（例えばラジアル、バイアス、ベルテッドバイアスなど）を組み合わせて装着しないでください。操縦性に悪影響をおよぼし、車のコントロールを失うおそれがあります。また、オートマチックトランスミッションに故障が発生し走行できなくなるおそれがあります。

●再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

注　意！

◆タイヤのトレッドがひどくすり減ったり、傷が付いているときは交換してください。
◆ホイールやタイヤの選択を誤ると、車全体のバランスに影響し、安全走行に支障をきたすことがあります。
◆1本だけ新品タイヤを装着するときは、前輪に装着してください。装着するタイヤは他のタイヤと同じ銘柄で指定されたサイズの物にしてください。
◆数日間でタイヤの空気圧が低くなるようなときは、タイヤのパンクやホイールの損傷の有無、タイヤバルブの状態を点検してください。
◆タイヤの空気圧を点検するときは、スペアタイヤの空気圧も点検してください。
◆摩耗具合にかかわらず、6年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

知　識

◇新品タイヤを装着したときは、走行距離が約100kmを越えるまでは速度を控えて走行することをお勧めします。
◇走行直後や炎天下のようにタイヤ自体が高温になっているときは、約0.3bar（kg/cm^2）高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
◇冬用タイヤに交換したときは、取り外したタイヤを冷暗所で保管し、オイルやグリース、ガソリンなどに触れないようにしてください。

タイヤローテーション
タイヤの摩耗度は走行距離や使用状況によって異なります。定期的に点検し摩耗の兆候がはっきりしてきたら、タイヤローテーション（前後タイヤの入れ替え）を行なってください。

注　意！

ホイールを外したときは、ホイールの内側を充分に清掃し、点検してください。リムの凹みや曲がりは空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

知　識

◇タイヤローテーションを行なうと、タイヤの摩耗が均一化します。これによってタイヤの寿命を延ばすことができます。
◇タイヤローテーションを行なうときは、タイヤの回転方向を変えないように、前後の位置を入れ替えます。
◇タイヤを入れ替えたあとに空気圧を調整してください。
◇指定空気圧は、燃料給油フラップの内側に空気圧ラベルが貼付してあります。

OVM03001

タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルは燃料給油フラップ内側に貼付されています。ラベルはシンボル表記になっています。乗車人数と荷物の量に応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。単位は「bar（≒kg/cm²)」と「psi」で示しています。たとえば、「2.0bar」は「約2.0kg/cm²」になります。

⚠ 警　告

●タイヤの空気圧が低いままで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。

●タイヤに空気を入れすぎないでください。空気が高すぎると、路上の金属片やガラス片などにより損傷を受けたり、パンクを起こしやすくなります。必ず規定の空気圧を守ってください。

注　意！

必ず法定速度を守って走行してください。

知　識

◇日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず行なってください。

◇走行直後や炎天下のようにタイヤ自体が高温になっているときは、約0.3bar (kg/cm²)ほど空気圧が高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。

※タイヤ空気圧ラベルはイラストと異なる場合があります。

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余分に消費します。

指定給油脂類

必ずダイムラー・クライスラー社の純正品または指定品のみを使用してください。
詳しくは指定サービス工場にお問い合わせください。

注　意！
オートマチックトランスミッションオイルの交換や補給はしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。オイル漏れがあったり、何らかの異常を感じたとき、またはオイルレベルについては指定サービス工場で点検を受けてください。

	容　　量	油　脂　類	備　　考
エンジンオイル	約8.0 ℓ	承認オイル	含、オイルフィルタ
オートマチック トランスミッションオイル	約7.5 ℓ	承認オイル	工場注入時
トランスファオイル	－	承認オイル	－
パワーステアリングオイル	－	純正パワーステアリングオイル	専用オイル
リアアスクル	－	承認オイル	－
フロントアスクル	－	承認オイル	－
ブレーキ液	－	純正ブレーキ液	DOT4規格
燃　料	約83 ℓ	無鉛プレミアムガソリン	警告灯点灯時の残量 約12 ℓ

油脂類の正確な量はレベルゲージで確認してください。

※記載の内容は本取扱説明書作成時のものです。予告なく変更される場合があります。

	容　量		備　　考
冷却水	約12.0 ℓ	純正不凍液	水に純正不凍液を混ぜて使用します。濃度に注意してください（8-7ページ）。
ウォッシャー液	約7.6 ℓ	純正ウォッシャー液 冬用、夏用	水に純正ウォッシャー液を混ぜて使用します。濃度に注意してください。
バッテリー	12V／100Ah		エンジンルーム
エアコンディショナー	R134a		R-12を使用しないこと

標準タイヤ	ホイール	オフセット
275／55R17	軽合金8.5J×17	52 mm

応急用スペアタイヤ	ホイール	オフセット
T155／90D18	スチール4J×18	0 mm

※記載の内容は本取扱説明書作成時のものです。予告なく変更される場合があります。

電球一覧

<table>
<tr><th colspan="3">ランプ</th><th>ワット数</th></tr>
<tr><td rowspan="4">ヘッド
ランプ</td><td rowspan="2">キセノンヘッドランプ
装着車</td><td>上向き／下向き</td><td>35W
（キセノンD2S）</td></tr>
<tr><td>上向き</td><td>55W（H7）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">キセノンヘッドランプ
非装着車</td><td>下向き</td><td>55W（H7）</td></tr>
<tr><td>上向き</td><td>55W（H7）</td></tr>
<tr><td colspan="3">フロントフォグランプ</td><td>35W（H8）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">方向
指示灯</td><td colspan="2">フロント</td><td>21W（黄色）</td></tr>
<tr><td colspan="2">リア</td><td>21W（黄色）</td></tr>
<tr><td colspan="3">バックランプ</td><td>21W</td></tr>
<tr><td colspan="3">ブレーキランプ</td><td>21W</td></tr>
<tr><td colspan="3">ハイマウントストップランプ</td><td>21W</td></tr>
<tr><td colspan="3">車幅灯（フロントパーキングランプ）</td><td>5W</td></tr>
<tr><td colspan="3">リアフォグランプ（右側または左側）／
テールランプ（リアパーキングランプ）</td><td>21W/4W</td></tr>
<tr><td colspan="3">ライセンスランプ</td><td>5W</td></tr>
</table>

※記載の内容は本取扱説明書作成時のものです。予告なく変更される場合があります。

積載荷物の制限重量

ルーフラック	100kg

※積載荷物の制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。

9. こんなときは

発生した故障に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。

トラブル	原因	対応
警告アラームが鳴る。	シートベルトを着用していない。	▶ シートベルトを着用してください（2-6ページ）。
	駐車ブレーキを解除しないで走行している。	▶ 駐車ブレーキを解除してください。
	ランプを消灯していない。	▶ ランプスイッチを ○ にしてください。
長期間、車を駐車しておきたい場合。		▶ バッテリーケーブルの ⊖ 端子を外すなどの処置をします。 ▶ 詳しくは指定サービス工場におたずねください。
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイヤしている。	イグニッションコイルが損傷している。 エンジン制御システムに異常がある可能性がある。 指定燃料以外の燃料を使用している。	▶ アクセルペダルを踏み過ぎないように走行し、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
ヘッドランプの内側が曇っている。	湿度が高い。	▶ ヘッドランプを点灯したまま、少しの間走行すると、曇りが消えます。

トラブル	原因	対応
エンジンが始動しない。	エンジンを始動するときに、エンジンスイッチを **0** の位置に戻していない。 エンジン制御システムに異常がある。 燃料供給に異常がある。	▶ エンジンを始動する前に、エンジンスイッチを **0** の位置に戻してください。 ▶ 始動操作を繰り返してください。ただし、エンジン始動を長時間つづけると、バッテリーがあがるおそれがあります。 ▶ 何度始動を試みてもエンジンが始動しない場合は、指定サービス工場に連絡してください。
	バッテリー電圧が低下している。	▶ ブースターケーブルを使用して始動してください。(6-23ページ) ▶ 何度始動を試みてもエンジンが始動しない場合は、指定サービス工場に連絡してください。
冷却水の温度表示が+120℃以上を示している。	冷却水の温度が上がりすぎて、エンジンが冷却されていない。	▶ すみやかに車を停止し、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ 冷却水レベルを点検し、必要であれば冷却水を補給してください。
	冷却水が適量であればラジエータファンが故障している。	▶ 水温計の針がオレンジ色の部分に入っていなければ走行し、ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。
ガソリンが漏れている。		▶ 状況を問わず、絶対にエンジンを始動しないでください。 ▶ 指定サービス工場に連絡してください。

トラブル	原 因	対 応
リモートコントロールの施錠ボタンを押しても方向指示灯が点滅しない。 リモートコントロールで施錠できない。	ドアまたはテールゲートが完全に閉じていない。	▶ ドアまたはテールゲートを完全に閉じてから施錠してください。
	セントラルロッキングシステムが故障している。	▶ 車内から施錠し、最後に運転席側ドアをキーで施錠してください。 ▶ 指定サービス工場でセントラルロッキングシステムの点検を受けてください。
ドアミラーが無理に前方／後方に曲げられた。		▶ ドアミラー格納／展開スイッチを、ギアが噛み合う音が聞こえるまで、くりかえし押します。
トランスミッションの変速に問題がある。	トランスミッションオイルが減っている。	▶ 指定サービス工場でトランスミッションを点検してください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションに異常がある。	▶ エマージェンシーモードにします。 ▶ 車を停止してください。 ▶ セレクターレバーを P にいれます。 ▶ エンジンを停止します。 ▶ 10秒以上待ってからエンジンを始動します。 ▶ セレクターレバーを D または R に入れます。 ▶ 2速ギアまたはリバースギア以外は使用できません。 ▶ すみやかに指定サービス工場でトランスミッションを点検してください。

トラブル	原因	対応
リモートコントロールで解錠／施錠できない。	リモートコントロールの電池が切れている。	▶ リモートコントロールの電池を点検し、必要であれば指定サービス工場で電池を交換してください。
	リモートコントロールが故障している。	▶ キーで運転席側ドアを解錠／施錠してください。 ▶ 指定サービス工場でセントラルロッキングシステムの点検してください。
	リモートコントロールの同期が外れている。	▶ 指定サービス工場に連絡してください。
リモートコントロールを紛失した。		▶ すみやかに指定サービス工場に連絡してください。 ▶ すみやかに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 指定サービス工場で、新しいリモートコントロールを購入してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
ワイパーが作動しない。	ウインドウに雪などの障害物が付着している。	▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜き取り障害物を取り除いてください。 ▶ ワイパーを作動させてください。
ワイパーが間欠モードで作動しない。	ワイパーモーターが作動していない。	▶ ワイパースイッチを他の位置にしてください。 ▶ 指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。

トラブル	原　因	対　応
シートヒータースイッチの表示灯が点滅している。	多くの電気装備が使用されているためにバッテリー電圧が低下し、シートヒーターが自動的に停止している。	▶ 電圧が回復すると、シートヒーターは自動的に作動を開始します。
エアコンディショナーのACオフスイッチを押すと表示灯が点滅する。	エアコンディショナーの冷媒が不足しているため、エアコンディショナーの作動が自動的に停止している。	▶ 指定サービス工場でエアコンディショナーを点検してください。
リアデフォッガーが短時間で停止し、表示灯が点滅する。	多くの電気装備が使用されているためにバッテリー電圧が低下し、リアデフォッガーが自動的に停止している。	▶ 電圧が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動を開始します。
いくつかの電装品が作動しない。	ヒューズが切れている。	▶ ヒューズを交換してください。 ▶ 指定サービス工場で、ヒューズが切れた原因を調べてください。

表示灯／警告灯	原 因	対 応
⚠ 走行中に黄色のESP／ETS表示灯が点滅する。	タイヤがグリップを失っているため、ESP、ETSなどが作動している。	▶ 路面と天候の状態に合せて運転してください。 ▶ 発進するときにアクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。 ▶ ESPを解除しないでください（雪道などでの走行を除く）。 これらの注意を守らないと事故につながるおそれがあります。
⚠ 走行中に黄色のESP／ETS表示灯が点灯している。	ESPを解除している。	▶ ESP OFFスイッチを押して、ESP OFFの状態を解除してください。 ESP OFFの状態が解除できないときは、路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。 これらの注意を守らないと事故につながるおそれがあります。
LIM 走行中にスピードメーターの黄色の LIM ランプが点滅し警告アラームが鳴る。	急な下り坂などで惰性がつき、可変スピードリミッターが設定速度を維持できなくなった。	▶ ブレーキペダルを踏んで減速してください。

<table>
<tr><th>表示灯／警告灯</th><th>原　因</th><th>対　応</th></tr>
<tr><td rowspan="3">BAS
ESP
エンジンの始動後、または走行中に、黄色いBAS/ESP警告灯が点灯する。</td><td>バッテリーの接続が断たれたり、電圧供給が一時的に断たれたため、ＥＳＰが初期状態になった。</td><td>▶ ＥＳＰをリセットしてください。(2-24ページ)
・安全な場所に停車して、エンジンを始動します。
・ステアリングを左右どちらかに止まるまで回し、次に反対側へとまるまで回します。
・リセット（警告灯が消灯）されたことを確認します。
▶ リセットできないときは、指定サービス工場で点検を受けてください。</td></tr>
<tr><td>バッテリーの電圧が低下したため、BASが解除された。</td><td rowspan="2">▶ 充分に注意して走行してください。
▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けててください。
これらの注意を守らないと事故につながるおそれがあります。</td></tr>
<tr><td>BASまたはESPが故障している。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ETS
エンジンの始動後、または走行中に黄色のETS警告灯が点灯する。</td><td>ブレーキがオーバーヒートしないように、ETSが解除された。</td><td>▶ ブレーキが冷却されると、再びETSは作動します。
警告灯は、消灯します。</td></tr>
<tr><td>ETSが故障して解除された。</td><td>▶ 充分に注意して走行してください。
▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けててください。
これらの注意を守らないと事故につながるおそれがあります。</td></tr>
</table>

表示灯／警告灯	原　因	対　応
ABS 走行中に黄色のABS警告灯が点灯する。	故障のためABSが解除された。ABSは作動しないが、ブレーキは通常通り機能する。	▶ 充分に注意して走行してください。 ▶ ただちに指定サービス工場で点検を受けてください。 これらの注意を守らないと事故につながるおそれがあります。
	バッテリーの電圧が低下しているため、ABSが作動していない。	▶ 必要のない電気部品の電源をオフにしてください。 バッテリー電圧が回復するとABSは作動します。
BRAKE エンジンの始動後、または走行中に黄色のブレーキパッド摩耗警告灯が点灯する。 また、赤色のブレーキ警告灯も点灯し警告音がする。	フロントブレーキパッドの摩耗が限界に達している。	▶ すみやかに安全な場所に車を停止してください。 ▶ 走行をつづけないで、指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ブレーキ液は、指定サービス工場で点検を受けるまで補充しないでください。 これらの注意を守らないと事故につながるおそれがあります。
エンジンの始動後、または走行中に黄色のエンジンオイル量警告灯が点滅する。	エンジンオイル量が下限まで減っている。 さらに減るとエンジンオイル量警告灯が点灯する。	▶ エンジンオイルレベルを点検し、必要であれば補給してください。(8-9ページ) ▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補充する場合は、指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンの始動後、または走行中に黄色の冷却水量警告灯が点灯する。	冷却水量が不足している。	▶ 冷却水を補給してください。(8-7ページ) ▶ 冷却水を通常よりも頻繁に補充する必要がある場合は、指定サービス工場で冷却システムを点検してください。

表示灯／警告灯	原　因	対　応
LOW RANGE ローレンジに切り替えた後、黄色のLOW RANGE表示灯が点滅する。	ローレンジに切り替える条件が満たされていない。	▶ 再度切り替え操作を行ってください(4-14ページ)。 ▶ 切り替え操作をくりかえしても表示灯が点滅するときは指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジン始動後、黄色のLOW RANGE表示灯が点滅する。	ローレンジが故障している。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンの始動後、または走行中に黄色のウォッシャー液量警告灯が点灯する。	ウォッシャー液量が規定以下になっている。	▶ ウォッシャー液を補給してください(8-14ページ)。
走行中に黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下に異常があるため、エンジンがエマージェンシーモードになっている。 ・インジェクションシステム ・イグニッションシステム ・排気システム	▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。
	燃料タンクが空になっている。	▶ 燃料の補給後、エンジン始動操作を3～4回繰り返してください。エマージェンシーモードが解除されます。車を点検する必要はありません。
AIRBAG OFF エンジン始動後、黄色のAIRBAG OFF警告灯が点灯する。	チャイルドシートを助手席に固定しているので、助手席のエアバックが作動しない。	▶ 不要であればチャイルドシートを外してください。
	チャイルドシートを助手席に固定していない場合は、チャイルドセーフティシート感知システムが故障している。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。

表示灯／警告灯	原　因	対　応
(!) BRAKE 走行中に赤色のブレーキ警告灯が点灯する。	ブレーキシステムが故障している。 リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。	▶ 安全を確認し、すみやかに車を停止させてください。 ▶ 走行をつづけないで、ただちに指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ブレーキ液は補給しないでください。ブレーキ液を補給しても問題は解決しません。 これらの注意を守らないと事故につながるおそれがあります。
	駐車ブレーキを解除せずに走行している。	▶ 駐車ブレーキを解除してください。
(!) BRAKE　(ABS) エンジンの始動後、赤色のブレーキ警告灯と黄色のABS警告灯が点灯する。また、警告ブザーも鳴る。	ＥＢＶが故障している。	▶ 充分に注意して走行してください（2-19、4-16ページ）。 ▶ すみやかに指定サービス工場で点検を受けてください。 これらの注意を守らないと事故につながるおそれがあります。
エンジンの始動後、赤色のシートベルト警告灯が点灯し、警告音がする。	運転席のシートベルトを着用していない。	▶ シートベルトを着用してください。 警告灯が消灯し、警告音が止まります。 警告灯は、乗車する全員にシートベルトの着用を促すためのものです。

表示灯／警告灯	原　因	対　応
SRS 走行中に赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯または点滅する。	乗員保護システムに異常がある。エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。	▶ 充分に注意して走行し、指定サービス工場でただちに点検を受けてください。 この注意を守らないと事故につながるおそれがあります。
エンジンの始動後、または走行中に、赤色の充電警告灯が点灯する。	Vベルトが損傷している。	▶ Vベルトを交換してください。
	電気系統が故障している。	▶ 指定サービス工場で点検を受けてください。
ハイビーム表示灯が点灯する。	ハイビームが点灯している。	▶ 対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドランプを下向きにしてください。
走行中に黄色の燃料残量警告灯が点滅する。	燃料の残量が約12ℓ以下になっている。	▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
エンジンの始動後、赤色のステアリングロック警告灯が点灯する。	ステアリングがロックされていない。	▶ ロックレバーでステアリングを固定し、警告灯が消灯してることを確認してください。

表示灯、警告灯が点灯したとき

BAS ESP　BAS／ESP警告灯：2-21、2-23ページ

ETS　ETS警告灯：2-26ページ

ABS警告灯：2-19ページ

ブレーキパッド摩耗警告灯：4-17ページ

オイル量警告灯：8-8ページ

冷却水量警告灯：8-6ページ

エンジン警告灯：4-4ページ

ウォッシャー液量警告灯：8-14ページ

ステアリングロック警告灯
：3-38ページ

SRS　エアバッグシステム警告灯：2-8ページ

シートベルト警告灯：2-6ページ

(!) BRAKE　ブレーキ警告灯：4-16、8-12ページ

充電警告灯：6-20ページ

燃料残量警告灯：3-43ページ

LOW RANGE　ローレンジ表示灯
：4-14ページ

AIRBAG OFF　エアバッグオフ表示灯：2-8、2-14ページ

ESP／ETS（エレクトロニック・トラクション・サポート）表示灯
：2-23、2-26ページ

フロントフォググランプ表示灯：3-54ページ

上向き表示灯：3-50ページ

可変スピードリミッター表示灯
：4-21ページ

安全なドライブのために
安全装備
運転するまえに
運転するとき
快適・室内装備
万一のとき
車との上手なつきあいかた
点検と整備・サービスデータ
こんなときは

異常が起きたとき

10. さくいん

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ヤ

ラ

ワ

A

B

E

I

S

V

"ESP®" はダイムラークライスラー(株)の登録商標です。

※この取扱説明書の内容は、2004年7月現在のものです。

対象モデル

ML 350 スペシャルエディション